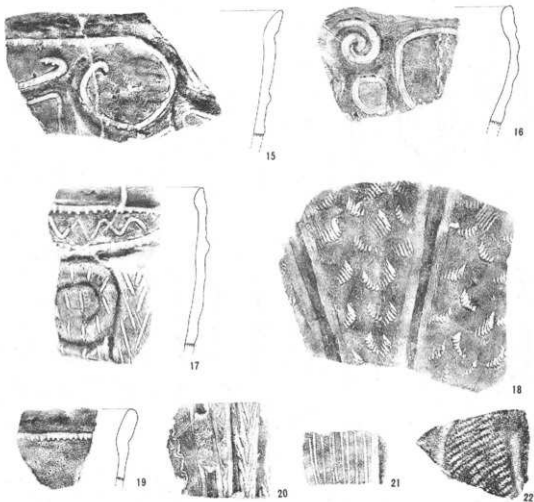


第157図 第31号住居址覆土出土石器(十)

これらの石器は曾利Ⅲ式期に比定でき得るであろう。

石器はすべて床面よりの出土で14点である。その内訳は打製石斧11点、磨製定角石斧・特殊敲打器・横刃形石器各1点ずつである。外に硬砂岩の剝片28片、砂岩質のもの2片、緑泥片岩質のもの1点が出土している。

1～6は打製石斧である。6は撓形、他は短冊形である。1はa類、2～4はb類、5はc類、6はd類である。石質は1・4は緑泥岩、2・3・6は硬砂岩、5は緑泥片岩である。図示したほかに5点の打製石斧があり、すべて破損しており短冊形である。

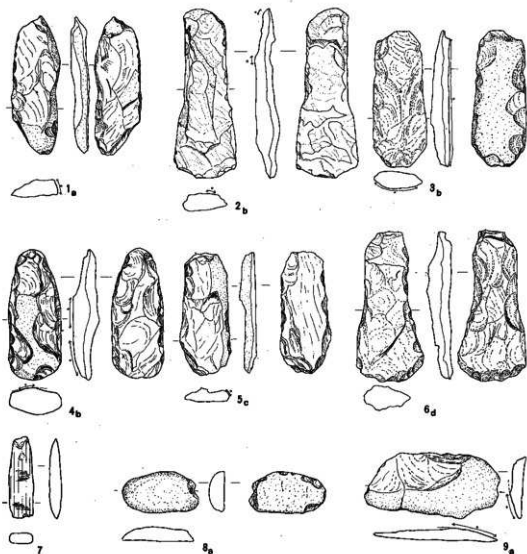


第158図 第31号住居址床面出土土器(十)

7は緑泥岩製の磨製の定角石斧である。刃部にわずか破損部がみられる。

8は特殊敲打器でまったくの自然石を利用したa類に属する。硬砂岩製である。

9は硬砂岩製の横刃形石器でa類である。



第159図 第31号住居址床面出土石器(十)

30 第32号住居址 (第100~163図)

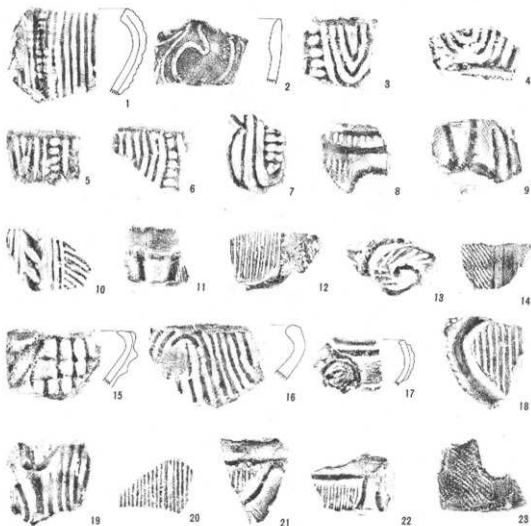
遺構 (第160図)

当住居址に第30号住居址の北に接するものである。第30号住居址との間には多くの土壌がありその複合関係はプランからでははっきりしない。第30号住居址との床面差は20cm前後を測ることができる。

プラン・大きさはまったく不明である。床面はあまりタタキがされてない。



第160图 第32号住居址实测图 (S-36)



第161図 第32号住居址出土土器(土、1～14は覆土、15～23は床面出土)

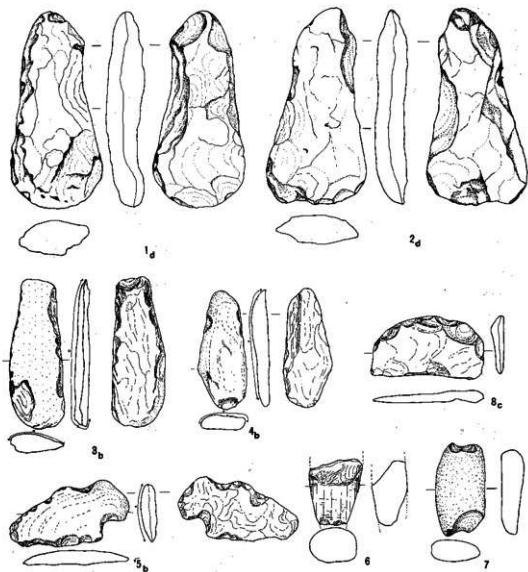
炉は石組みで、75×50cmを測る。西側は抜かれたものか伊石はない。内部は舟底形に掘られ焼土が充滿している。

炉の南東床面に石皿(第163図-17)が発見されている。

遺物(第161～163図)

土器は比較的少ない。覆土出土のもの(1～4)と床面出土のもの(15～23)との間には時間差はみられない。

曾利Ⅰ式に総じて類似するものである。14はやや後出するものである。21・22は楕形文を持



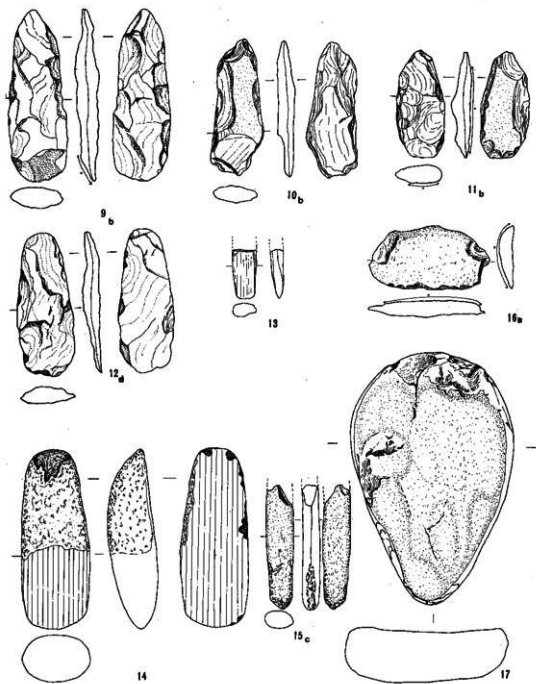
第162図 第32号住居址覆土出土石器(十)

ちやや先行する。

住居址は曾利Ⅰ式期の初頭に位置付けられよう。

石器は土器の出土量に比べて多く全部で25点出土している。覆土より11点、床面より14点の出土である。

覆土出土の石器の内訳は打製石斧7点、大形粗製石匙・磨製乳棒状石斧・石錘・横刃形石器



第163图 第32号住居址床面出土石器 (17は石、他は石)

各1点ずつである。打製石斧7点のうち完形品は4点である。形態的には撓形2点のほかは短冊形である。

床面出土石器の内訳は打製石斧8点、磨製定角石斧、磨製蛤刃石斧・敲打器、横刃形石器、石皿・大形粗製石匙各1点ずつである。8点の打製石斧のうち完形品は4点である。すべて短冊形である。大形粗製石匙はつまみ部のみで形態は不明である。

1～4、9～12は打製石斧である。1・2は撓形、他は短冊形である。自然面を両面に持つa類、自然面を測面ないしは刃・頭部に持つc類はなく、b類(3・4、9～12)とd類(1・2)だけである。石質は1・2・9・12が硬砂岩、3・4・11が緑泥岩、10が安山岩である。

13は緑泥岩製の磨製定角石斧で頭部を欠いている。14は緑泥岩製の磨製蛤刃石斧である。片面頭部側は敲打痕を残して磨かれていない。また頭部にも細かい敲打痕が残っている。6は磨製の乳棒状石斧の胴部破片である。石質は凝灰岩である。

5は硬砂岩製の横形の大形粗製石匙で調整は丹念な方である。

7は硬砂岩製の縦形の礫石錘である。15は細長い緑泥岩の測面を利用した敲打器c類である。

8・16はともに硬砂岩製の横刃形石器で8はc類、16はa類である。

17は砂岩製の石皿で炉の南東床面より出土したものである。表面はわずかに凹面をつくるが全体を利用している。

31 第33号住居址 (第152、164～166図)

遺構 (第152図)

本住居址は第30号住居址の南にあって同一床面レベルで複合することはすでに述べたところである。

プランは北壁が短くなる隅丸台形である。大きさは南北4.0m、東西南壁4.3m、北壁3.5mを測ることができる。住居址の主軸方向はS-19°-Wである。

壁高は一定せず、北東部が40cmと最も高く南に行くに従い低くなって25cmである。西壁はも一軒住居址があるのか、わずか4～5cmのものである。

床面は部分的に凹む所があるが、全体に固くたたくしめられており良好である。

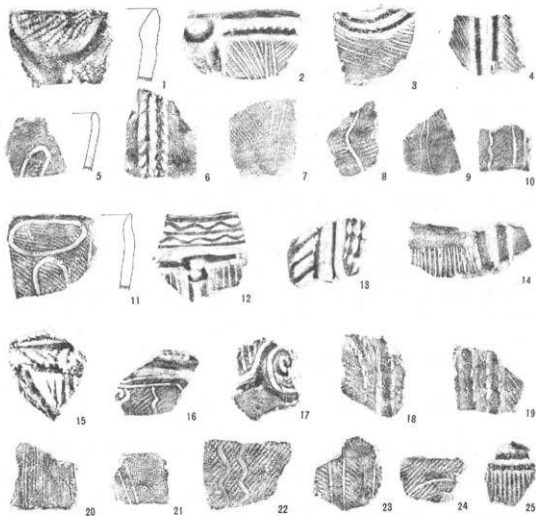
主柱穴はP₁・P₂・P₄・P₉・P₁₀の5本と考えられる。

炉は住居址中央北寄りに位置し、長方形の石組み炉である。大きさは外形100×85cm、内形で65×45cmを測る。内部は床面を25cmほどやや舟底状に掘り込んでいる。炉石は西・北・東の三方では縦長に用いている。南側は3個の小さな石を横長にすえ、その上に細長い石をやはり横長にのせている。2段に炉石を組んであるところは第18・22号住に類似する。焼土は炉内に充填している。

遺物 (第164～166図)

出土土器は少ない。覆土出土のもの(1～10)と床面出土のもの(11～25)とがあるが時間差はみられない。

縄文を持つ一群とそうでないものにと大別できる。縄文を持つものの中には、後出する結節

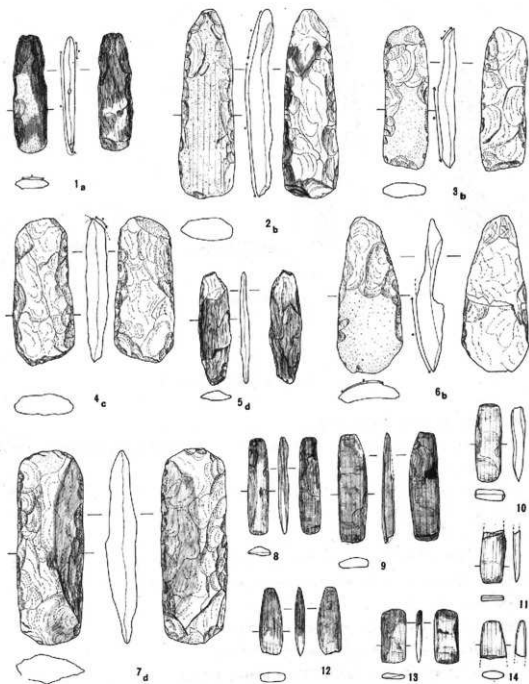


第164図 第33号住居址出土土器(寸、1-10は覆土、11-25は床面出土)

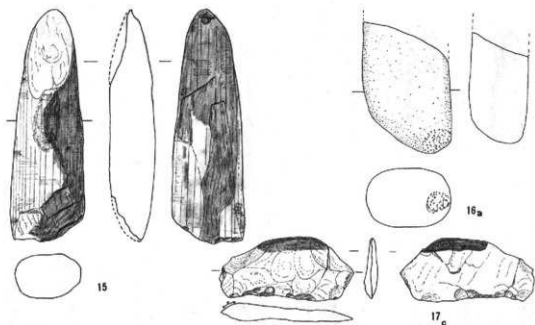
縄文を持つものはない。これらの縄文を持つ土器は曾利期の前半に共存することが知られている。

土器の時期は曾利Ⅰ式要素もみられるが曾利Ⅱ式期に比定されるであろう。

次に石器であるがすべて床面出土で19点である。第152図中に示した住居址北西壁に12点の石器が重なって出土している。これらの石器は多い少ないは別として黒色タール状のものがぬらされている。石器実測図中黒色のぼかしのある部分が塗彩された所である。炭化物の付着とは明らかに異なっているが、何であるかははっきりしない。うるしの可能性も考えられる。1・2



第165图 第33号住居址床面出土石器(十)



第166図 第33号住居址床面出土石器(十)

5、7～13、15・17がその石器である。

19点の石器の内訳は打製石斧9点、磨製定角石斧6点、磨製蛤刃石斧・敲打器・横刃形石器各1点である。

1～7は打製石斧で、6の攪形を除き短冊形である。1はa類、2・3・6はb類、4はc類5・7はd類である。石質は2～4、6・7が硬砂岩、1・5は緑泥岩である。このほかに刃部を欠損した短冊形のもので2点ある。

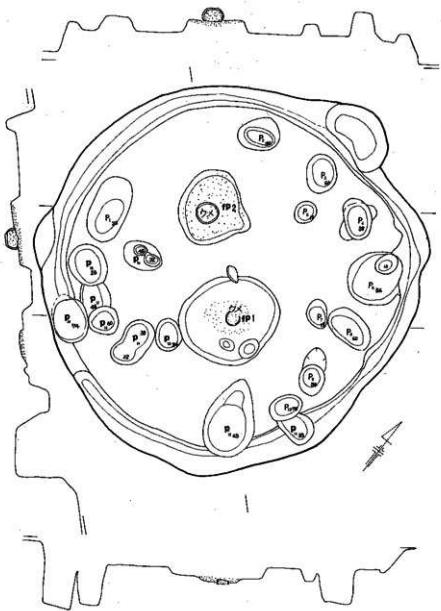
8～14は磨製の定角石斧で、石質はすべて緑泥岩である。他の住居址に比べて非常に出土量が多い。また9はやや大きい但他は小ぶりのもので14を除き先に述べたように一括出土しており興味深い。

15は緑泥岩製の磨製の蛤刃石斧で頭部と刃部の片面を損っている。

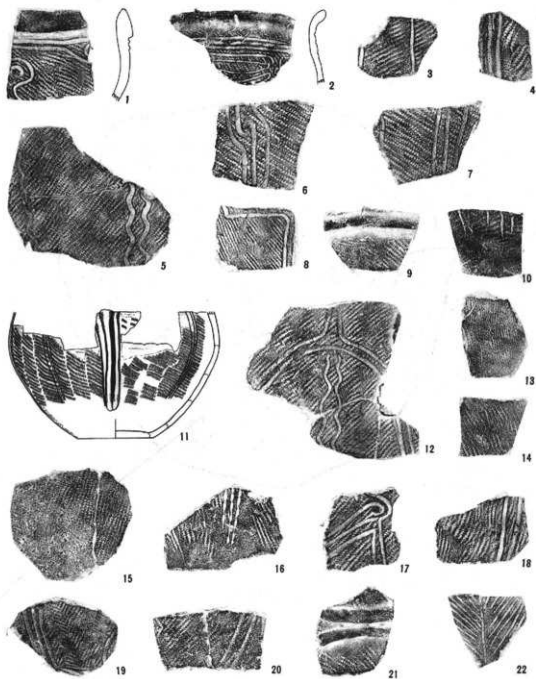
16は硬砂岩製の礫の端部を利用した敲打器a類である。

17は全く自然面を持たないc類の横刃形石器で硬砂岩製である。

硬砂岩質の剥片9片と砂岩質のもの1点が出土している。

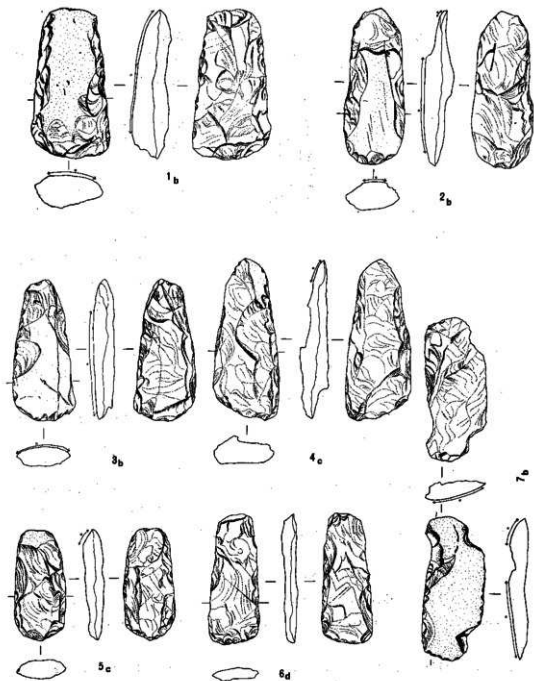


第167图 第34号住居址实测图 (S-46)



第168図 第34号住居址出土土器

(11は壺、他は片、1～10は覆土、12～22は床面出土、11は炉(2)内埋設土器)



第169图 第34号住居址床面出土石器(十)

32 第34号住居址（第167～170
図）

遺構（第167図）

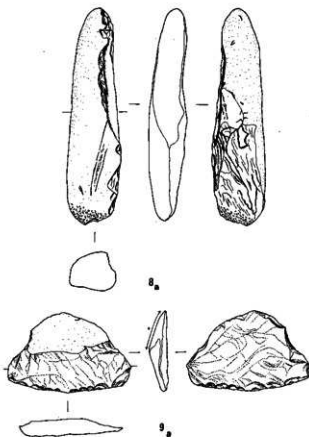
本住居址は第30号・33号住居址の東に位置し、その東側には土壌も住居址もない。南と西側は調査未区域のためはっきりしない。

平面プランは不整ながら円形を呈し、径6.1mを測る。

壁高はほぼ一定し35～40cmを測る。床面は良くたたきめられており非常に良好である。

主柱穴は4本を基本とすると考えられ、柱の移動がみられる。

住居址中央南側に炉1（fP₁）北側に炉2（fP₂）との二つの炉がある。上部はどちらも覆土が充填しており、貼り床の痕跡はまったくなかった。柱の動きなどから考えるに、同時に2個の炉の存在は考えにくく、どちらが古いかはわからないが、一つの炉の存在しか考えられない。住居址の拡張あるいは建て直しによる炉の移動による所産と考えたい。



第170図 第34号住居址床面出土石器（土）

炉1・2ともに石組み炉で炉石は完全に抜かれており、中央部に埋設土器を持っている。

炉1は160×140cmの楕円形に15cmほど掘られ、さらに内部が10cmほど70×50cmの楕円形に掘られている。外側の第1段は炉石のすえられていた痕跡である。中央部焼土内に深鉢形土器の胴部が埋設されていた。完全にはまわっておらず、また非常にもろいため復元実測はできなかった。

炉2は100×115cmの五角形状に20cmほど床面が掘られている。炉1同様中央部に深鉢形土器の底部（第168図-11）が埋められていた。両者の埋設土器には時間差は認められない。

遺物（第168～170図）

土器の出土量は少ない。1～10が覆土、12～22が床面出土のもので11は炉2内埋設土器であるが時間差は認め難い。

22を除き縄文を持つものであるが結節縄文はまったくみうけられない。

11は深鉢形土器の胴下半部で、隆帯による懸垂文によって器面を二文し、その間を3本を一組みとする懸垂文線によってさらに4区分している。磨り消し縄文はみられない。曾利Ⅱ式期に比定される。他の土器も同時期と思われる。

石器は13点出土し、すべて床面出土である。内訳は打製石斧10点、大形粗製石匙・敲打器・横刃形石器各1点ずつである。打製石斧は撓形に近いものもあるがすべて短冊形である。

1～6はすべて硬砂岩製の打製石斧で3・4は撓形に近いが、すべて短冊形である。1～3はb類、4・5はc類、6はd類である。図示した外に短冊形の欠損品4点がある。石質はすべて硬破岩である。

7は硬砂岩製の大型粗製石匙で刃部の一部を欠いている。横形のものでb類である。

8は緑泥岩の自然石の一端を利用した敲打器のa類で側面部を欠いている。

9は硬砂岩製の横刃形石器でa類である。

33 第35号住居址 (第171～173図)

遺構 (第171・172図)

本住居址は第37号住居址の北西はぼ9mの所にあり、縄文中期の住居址第32・第34号住居址の北東に位置している。中央部貼床下には第41号住居址がある。主軸はS-117°-Wである。

平面プランは不正ながら南壁と北壁のふくらんだ隅丸長方形である。大きさは、東壁・西壁は一辺4m、中央部で4.7mを測る。北壁は4.5m、南壁はやや長くて4.7mである。

壁高は、壁がやや低くて35cm前後、他は高くて45cm前後を測ることができる。

中央部床面は第41号住居址への貼床である。貼り床面は大体10cmほどの厚さで、ロームによるもので、わずかに凹凸はみられるが、良くたたかれ良好である。

主柱穴は4本と考えられるが、P₁₀を除いてはやや浅く問題が残る。

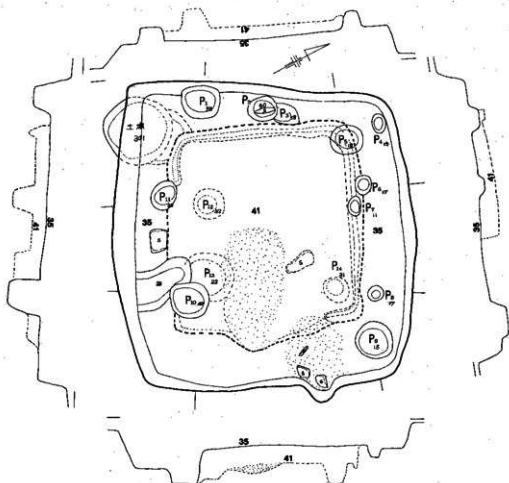
竈は東壁北寄りにあり、壁を15cmほど80度の角度で抉り込んで構築している。大きさは長軸80cm、短軸50cmである。上部に自然石が4個みられた外には袖石などの特別の施設はまったくみられなかった。火床面は床面をほんのわずかにくぼめただけで、焼土は10cm堆積している。上面はローム粒と黒色土・焼土の混合土で覆われている。

遺物 (第173図)

出土土器には土師器と須恵器とがあり、数量表にみるとおり出土量は少ない。須恵器は甕・坏・高台付坏・蓋があり、土師器では甕と坏だけである。

1は土師器の小形甕の口縁部で半分ほどしかない。赤褐色を呈し、胎土中には砂粒を含んでいる。ロクロ造りで右回りのものを利用している。口唇は強く外反し、薄くなっている。胴部には幅広いロクロ痕がみられる。

2は須恵器の環形土器で口縁を欠いている。胎土に砂粒を含んで暗青色に焼かれている。底部は厚いが体部は薄くなり凹凸が激しい。ロクロの回転は左回りである。底部の切り離し技法は酢糸の糸切りによると思われる、中央部は手持ちのヘラによって削られてやや上げ底風になっている。

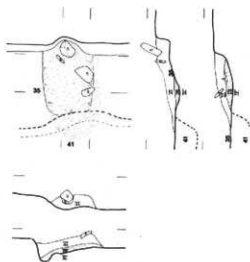


第171図 第35・41号住居址実測図 (S-a)

3 はやはり須恵器の坏である。口縁部を欠いて半分ほどからの図上復元である。器高は高いものと思われる。底部は厚く体部は薄くなっている。底部の切り離しは回転ヘラ切りによっており、その後周辺部を5～6回による手持ちヘラ削りを行っている。わずかであるが上げ底である。

4 は須恵器の高台付坏である。胎土中に砂粒を含み、黒青色に焼かれている。ロクロは右回りである。口唇は内そぎで尖り、底部は高台から急に下がっている。回転ヘラ削りののち、高台をつけ、測面は回転利用の横ナデを行っている。高台下端は丸味を持っている。

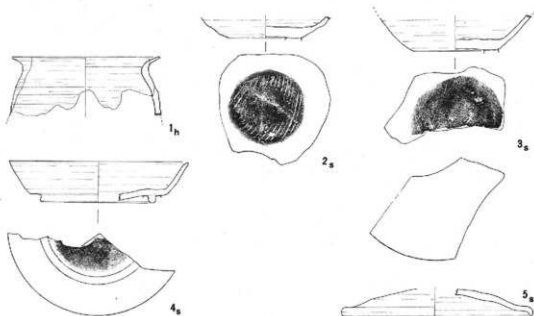
5 は器恵器の蓋である。器厚はほぼ一定し、内屈する下端を簡単に曲げて口縁としている。



第172图 第35号住居址竈実測図(S-4b)

器形	部分	土師	須恵	小計
甕	実測	1		1
	口縁	2		2
	胴部	12	1	13
	底部	3		3
坏	実測		2	2
	口縁		2	2
	体部	1	1	2
	底部	1	3	4
高台付坏	実測		1	1
	底部		2	2
蓋	実測		1	1
	口縁		1	1
小計		20	14	34

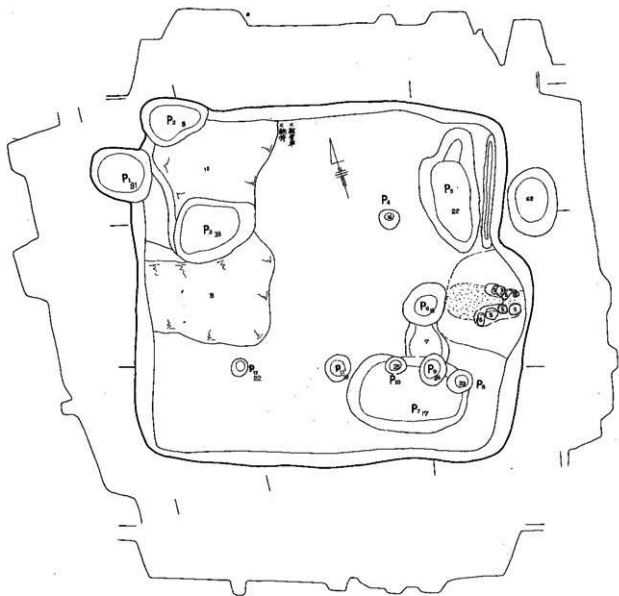
第35号住居址出土土器数量表



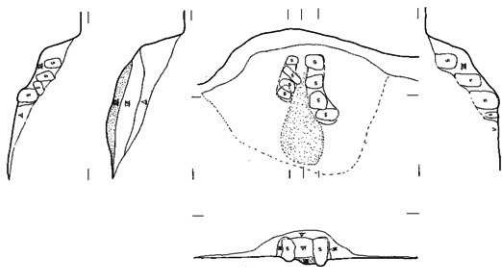
第173图 第35号住居址出土土器(土)

ロクロは右回りである。暗青色を呈し、砂粒をわずかに含んでいる。

出土土器は奈良時代末～平安時代初頭にかけてのものと思われる。



第174図 第36号住居址実測図 (S-6)



第175図 第36号住居址竈実測図 (S-6)

34 第36号住居址 (第174~179図)

遺構 (第174・175図)

当住居址は第37号住居址の西に隣接するものである。プランは隅丸方形を呈し、大きさは5.8×5.7mである。主軸方向S-110°-Wである。

壁高は高く60~70cmを測る。壁の立ち上がりややゆるやかである。床面は北西部に浅い凹部があるが全体に平坦で良くたたきしめられており良好である。

支柱穴はP4、P8・P9、P12、P3の4本と考えられるが住居址の大きさ、深さに比べて柱穴が小さく浅いのが気にかかる。

竈は東壁やや南寄りにあり、壁を70cmほど35度の角度で浅鉢状に抉り込ませて構築している。現存する石組みより前方に焼土がかなりみられ、また石組みの間が狭すぎることで、石組みより前面まで基底部の掘り込みがあることなどからして、燃焼部は崩落ないしは破壊され、煙道部の石組みが残ったものと考えたい。石は床面をあまりくぼめることなくロームで固めている。

北壁ぎわやや西寄り床面上より鉄斧(第179図-1)と鉄製の紡垂車(第179図-2)が出土している。

遺物 (第176~179図)

遺物としては土器・須恵器類と鉄製品がある。

出土土器は数量表にみるとおり多く、須恵器が卓越している。土器器は甕を主体としている。須恵器は甕・坏が多くついで蓋となっている。灰釉陶器はまったく出土していない。

1~7は甕形土器である。破片からの図上復元によるもののみで器形を知り得るものはまったくない。

器形	部分	土師	須恵	小計
甕	実測	2	1	3
	口縁	6	1	7
	胴部	28	10	38
	底部	10 (器4)		10
坏	実測		6	6
	口縁		15	15
	体部		8	8
	底部	1	5	6
鉢	実測		1	1
高台付	実測			
	底部			
壺	口縁		3	3
台付壺	実測		1	1
甕	実測		2	2
	口縁		10	10
	天井		9	9
小計		47	72	119

第36号住居址出土土器
数量表

1は土師器の甕で、肩がつり上がった感じの甕で頸部の両端に段を持たせている。黄褐色を呈し、胎土中には砂粒を含んでいる。口頸部内外面とも横ナデをしている。胴部は縦方向のハケ目が内外面とも施される。

2は土師器でぶ厚く胎土に砂粒を多く含み黄褐色に焼かれている。口唇は薄く尖がる。胴はあまり張らないものである。口唇外面には横ナデが、内面には非常に疎なハケ目が施される。胴部外面には粗い縦方向のハケ目が、内面には一定しないが、横方向のハケ目が施されている。

3～6は土師器の変形土器の底部である。3は右回りのロクロを用いたもので、底部内面には幅広いロクロ痕を残している。回転糸切技法によって切り離される。細かい砂粒を含み白黄褐色を呈している。

4・5は木ノ葉底を持つもので、ともに大きな砂粒を含み土師器の焼きとはみえない。4の内面には斜走するハケ目がみられる。5の外表面には2同様粗いハケ目が縦方向に施される。

6は3～5に比べると立ち上がりゆるやかでふくらみを持っている。紐積みの痕跡を明瞭に残して整形は悪い。内面には横方向のハケ目がみられる。

7は須恵器の変形土器である。頸部両端に段を有し口唇はやや肥厚する。外面には叩き目、内面青海波を残している。ロクロを利用して、回転方向は不明である。

8は須恵器の鉢形土器である。高台は厚くしっかりとふんばっている。体部下端はしめが甘く肥厚している。黒青色を呈し胎土にはわずかに砂粒を含んでいる。ロクロは左回転で、回転ヘラ削りのため切り離し技法は不明である。高台を付けた後、両面に回転利用の横ナデを行っている。

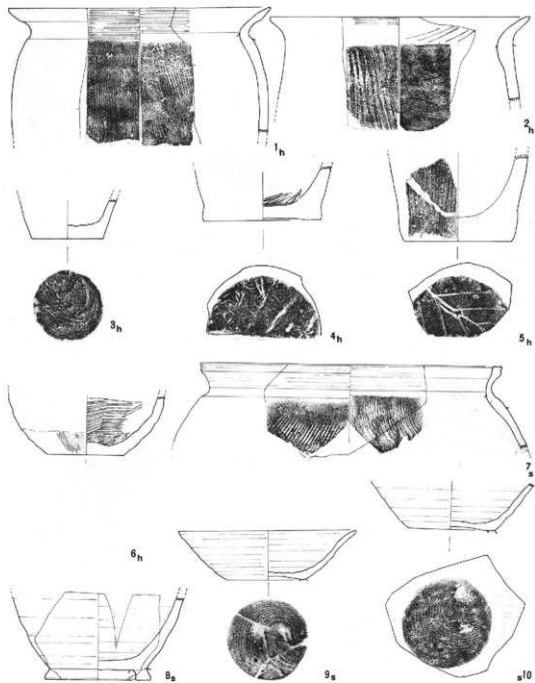
9～14はすべて須恵器の坏形土器である。9を除き完形のものはない。

9は赤褐色を呈し砂粒を含んでいる。体中部に強いしめがみられ、口唇は肥厚しやや外反ぎみである。切り離しは回転糸切り技法で、その際糸が深く入ったため極端な上げ底となっている。底部周辺から体部下端にかけては回転ヘラ削りが行われている。ロクロは左回りである。

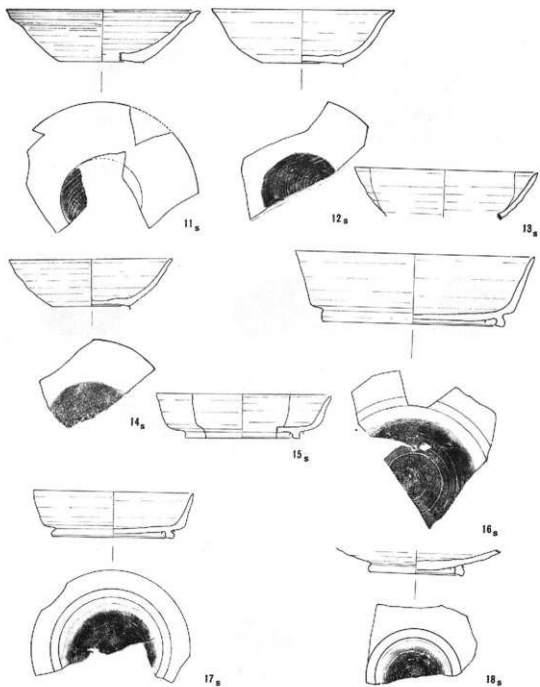
10は口縁部を欠くため定かでないが、器高の高いものである。砂粒を含み白灰色を呈している。体部は幅広いロクロ痕を残し、底部は9同様回転糸切り技法による切り離しで糸が深く入ったため上げ底となっている。底部周縁を回転のヘラで削っている。

11は底部は厚く口縁下に強いシメを行い口唇は引き出して作っている。大きな砂粒を含み、暗青色に焼かれている。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法によって切り離される。

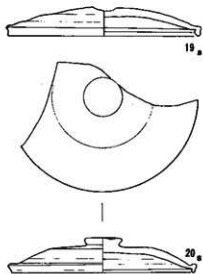
12は体部立ち上がり部が肥厚し口唇は尖って外反する。右回りのロクロを用い回転糸切り技法によって切り離される。細かい砂粒を含んで暗灰色を呈している。



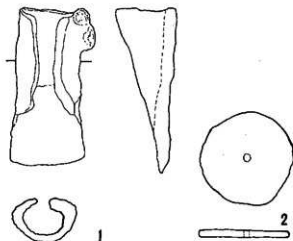
第176图 第36号住居址出土土器(十)



第177图 第36号住居址出土土器(半)



第178図 第36号住居址出土土器(十)



第179図 第36号住居址出土鉄製品(十)

13は体部のシメは一定し、やや内湾して口唇は尖っている。胎土はち密で赤褐色に焼かれている。ロクロの回転方向は不明である。

14は体部がゆるやかなカーブで内湾し、下端部はやや厚くなる。底部は上げ底で内面中央部も凹んでいる。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法によって切り離され、その際糸が深く入ったため上げ底を呈している。細かい砂粒を含み暗灰色に焼かれている。

15～17は須恵器の高台付環形土器で完形品はない。

15は高台部からやや上がって体部にいたり体部の立ち上がりは内面ほどははっきりしない。口唇は薄く尖ってやや外反する。胎土はち密で暗青色を呈している。ロクロの回転方向は不明また回転ヘラ削りのため切り離し技法も不明である。高台は厚くしっかりとふんばっており、両側面には回転利用の横ナデが行われている。

16は大形のものである。体部の立ち上がりは外面では明瞭で体部はほぼ直線的である。口唇下に強いシメを行い口唇は尖っている。体部の肥厚は底部へ続き、高台部からやや中心部よりはカーブを描き中心部は平坦である。高台は厚くて内屈してしっかりとふんばっている。右回りのロクロを用い、回転ヘラ削りのため、切り離し技法は不明である。高台付け後の回転利用の横ナデは底部周縁にまで行われている。砂粒を含んで暗青色を呈している。

17は体中央部に強いシメが行われ、口唇は尖っている。体部の立ち上がりは直に近い。高台は厚く台形状を呈し、しっかりとふんばっている。底部は中心部に向かって下がっている。ロクロの回転方向は不明である。回転ヘラ削りの後、高台を付け両側面に回転利用の横ナデをしている。細かな砂粒を含み暗青色を呈している。

18は底部破片のためはっきりしないが台付の皿形土器と思われ、須恵器である。砂を含んで白灰色に焼かれている。厚い底部から徐々に薄くなり体部の立ち上がりははっきりしない。中央部はわずかに平担となっている。高台は厚くしっかりとしている。右回りのロクロを利用して、底部は回転ヘラ削りが行われている。高台付け後両測面に回転利用の横ナデを行っている。

19は須恵器の蓋である。天井部はゆるやかなカーブで内湾し中心部は肥厚する。紐はとれており形態は不明である。砂粒を含み暗青色に焼かれている。ロクロの回転方向は不明である。

20はやはり須恵器の蓋である。天井部は中心部からやや下るまでほぼ平らで、下端にかけてはゆるやかなカーブで内湾する。口縁は直立し立ち上がり部は外屈する。左回りのロクロを用い、鈕付後は両測面に横ナデを施している。砂粒を含み暗灰色を呈している。

先に述べたように土器の外に鉄製の斧と紡錘車がある。

第179図-1は斧である。刃部は柄部よりほんのわずかに広がる。大きさは長さ8.2cm、刃部幅4.0cmである。刃部は直線ではなくやや丸味を持っている。片刃である。表面はさびが著しいが芯はしっかりしている。重量は113gである。

2は紡錘車である。大きさは径4.9cm、厚さ0.4cmである。中心の孔の大きさは3mmを測る。斧同様さびは著しいが芯はしっかりとしている。重量は29gである。

住居の時代は出土土器から奈良時代のもと思われる。

35 第37号住居址 (第180~183図)

遺構 (第180・181図)

本住居址は第36号住居址の東にあり、第39号住居址は北東10mの所にある。プランは隅丸方形で大きさは東西4.0m、南北4.1mを測る。火災にあった住居址で、焼土と炭化物が厚く堆積している。炭化物は現形をとどめるものは少なく竈の前方部から上屋根の一部がはつきりと出土しただけである。

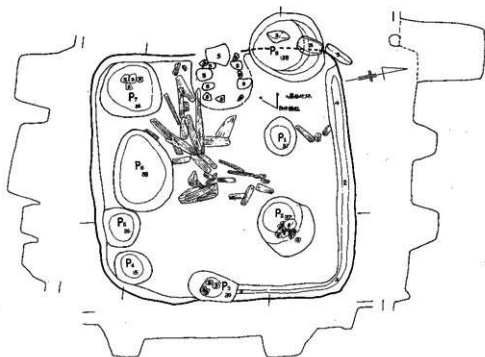
壁高は北壁と西壁が高く30~35cm、南壁、東壁は15~20cmである。床面はやや凹凸があるが全体に固くたたきしめられ良好である。北壁から東壁P₃まで幅20~25cmの浅い周溝がめぐらされている。住居址の主軸方向はS-81°-Eである。

主柱穴としてP₁・P₂は確実であるが他ははっきりしない。P₂・P₃・P₇とも上部に石がのっていた。

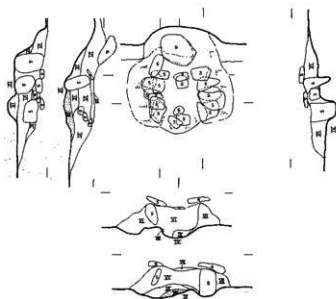
竈は西壁ほぼ中央にあり、壁を20cmほど25度の角度で抉り煙道部を作っている。石心造りである。火床面の掘り込みは深い方である。

袖部は大きな石を使って組みその上部に平盤な石をのせている。袖石の固めには左側は黒色土とローム粒、焼土の混合土、右側はロームを用いている。燃焼部中央やや奥まって支石がある。焼土はその支石の手前まで堆積している。

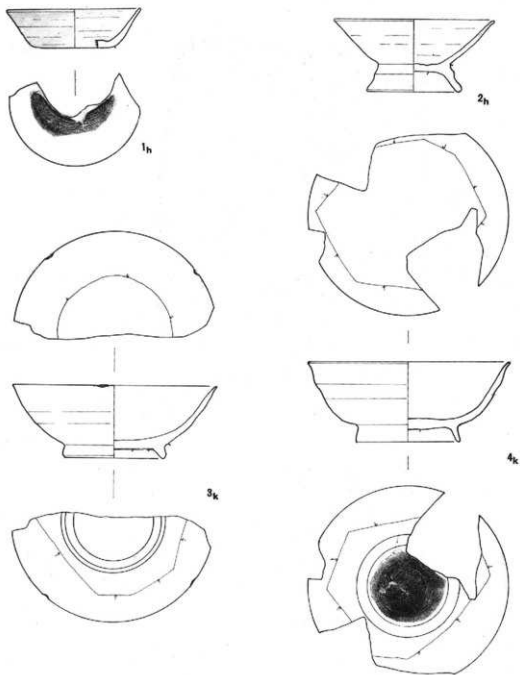
竈の北側床面より図示する如く灰釉の台付段皿2個と土師器の高台付環1個が出土している。



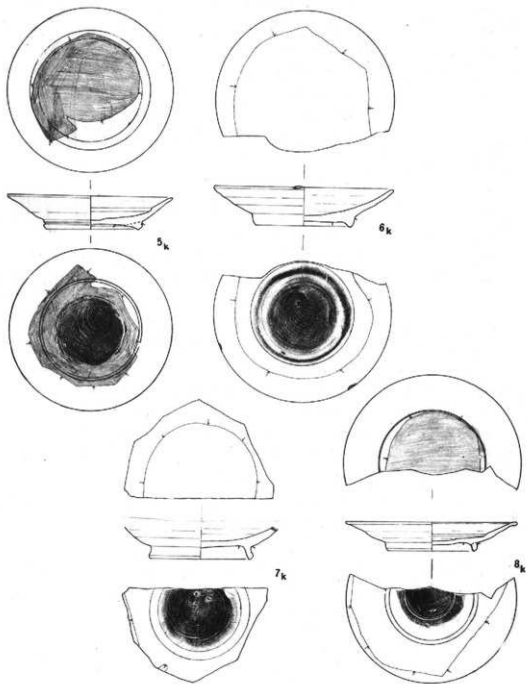
第180图 第37号住居址实测图 (S-46)



第181图 第37号住居址实测图 (S-47)



第182图 第37号住居址出土土器(1/4)



第183图 第37号住居址出土土器 (4)

器形	部分	土師	須恵	灰輪	小計
奩	口縁	1			1
	胴部		4		4
環	実測	1			1
	口縁	1	1		2
	底部	1			1
高台環	実測	1			1
	底部	1	4		5
瓶	実測			2	2
	体部			1	1
台付皿	実測			2	2
	底部			1	1
台付皿	実測			2	2
壺	口縁			2	2
小計		6	9	10	25

第37号住居址出土土器
数量表

遺物 (第182・183図)

出土土器は数量表でみる限り少なく感じるが、完形品に近いものがあることからすると多い方かも知れない。土師器・須恵器・灰輪陶器が出土しているが完形に近いものは灰輪陶器に多く卓越していることがわかる。

1は土師器の環である。体部の立ち上がりははっきりとせず、口唇下に強いシメが加えられる。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法で切り離している。砂粒をわずかに含み黒褐色を呈している。

2は土師器の台付環である。器高があり壺に近いものである。体部はわずかに内湾し、口唇下に強いシメがみられる。口唇は薄く外面に稜をもつ。高台は高く外反している。ロクロは右回りのものを利用している。高台貼付時に粘土が底部中央部まで塗っており、切り離し技法・底部調整は不明である。高台測面部には回転利用の横ナゲが行われている。

3～8はすべて灰輪陶器である。

3は高台付輪花壺である。底部から体部下端は厚く除々に器厚は薄くなり口唇下に強いシメを行って口唇を引き出している。

底部は回転糸切り技法によって切り離された後、周縁部を手持ちのヘラで削っている。高台は逆三角形状で高く外反して外面に丸味を持たせている。高台測面部には回転利用の横ナゲが行われている。陶土は白色に近くあまりち密でない。釉は白色で内面は淡緑色の斑文がみられる。永田窯産である。

4は体部の立ち上がりが強くなる壺である。口唇下に強いシメを行って引き出して口唇を作りやや外反する。高台は薄く高い。底部は回転糸切りによって切り離され後、周縁部を回転ヘラ削りで調整している。高台付け後測面部には回転利用の横ナゲが行われる。陶土は白色に近く釉も白色である。

5は台付の段皿である。口唇はやや外反している。底部中央には凹みがみられる。回転糸切りによって底部は切り離される。高台は外側に溝と稜を持ち内面はゆるやかなカーブで底部にいたっている。高台接合時の陶土が底部周辺まで及んでいるため底部調整は不明である。陶土は白色に近いもので、釉は白灰色を呈している。釉のかからない部分は内外面とも黒ずんでいる。

6は台付輪花皿である。肥厚する立ち上がり部からわずかに体部は内湾し口唇は丸い。高台は低く外面は直に近く内面はゆるやかなカーブを描く。高台接合時の陶土が底部周縁にまで及んでいる。底部の切り離しは回転糸切り技法によっている。陶土は黄白色で釉は白色を呈している。

7は台付の皿で口縁は欠いている。体部下端は肥厚しやや内湾する。高台は薄くて高い。外

面に陵を作っている。底部は回転ヘラ切り技法によって切り離され、その後周縁を回転のヘラ削りで調整している。陶土は白色で釉も白色を呈し、ところどころに淡緑色の斑文がある。

8は台付の段皿である。体上部やや下ったところで陵をもたせ口唇は水平にのびている。段上部から口唇にかけては内面をややふくらませている。底部はわずかであるが、段を作っている。高台は直に近く外面に陵を持っている。底部の切り離しは回転ヘラ削りのため不明である。陶土は灰白色を呈し釉は白色である。外面には淡緑色の斑文がみられる。内面釉のかからない部分はすす状のものによって黒ずんでいる。

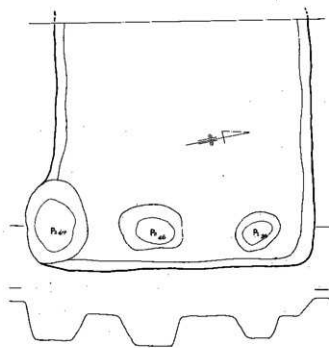
これらの灰釉陶器は折戸53号窯期に位置づけられるところから住居址は平安時代後期のものである。

36 第39号住居址 (第184・185図)

遺構 (第184図)

当住居址は第19号住居址の北西に位置する。西壁が攪乱のため破壊されているため、プランは定かでないが、ほぼ隅丸方形を呈すと思われる。大きさは南北4mである。

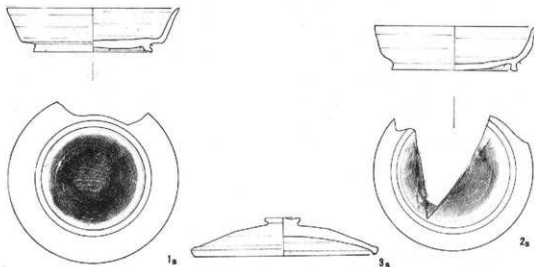
壁の立ち上がりは全体にゆるやかで壁高は北側で25cm、南側で20cm前後を測る。床面は平坦で固く良くたたきしめられている。東壁に沿ってピットが三つみられる。P1は柱穴として良い



第184図 第39号住居址実測図 (S=品)

器形	部分	土師	須恵	小計
甕	口縁	1	1	2
	胴部	9	3	12
	底部	3		3
坏	口縁		1	1
	胴部		2	2
	底部		3	3
高台付坏	実測		2	2
	底部		3	3
蓋	実測			
	口縁			
	天井部			
		13	15	28

第39号住居址出土土器数量表



第185図 第39号住居址出土土器(土)

だろう。

竈は確認されていない。西壁にあったものが壊されたと考えられる。それから考えると住居址の主軸方向は $S-80^{\circ}-E$ である。

遺物(第185図)

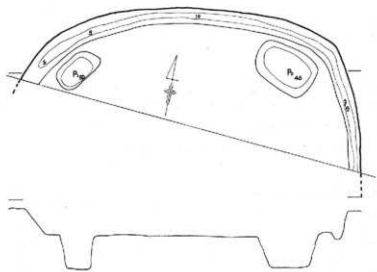
出土土器数量にみるとおり土器はあまり多くない。土師器は甕形土器のみである。灰釉陶器はまったく出土していない。

1は口縁部をわずかに欠く高台付坏である。砂粒を含み黒青色に焼かれている。底部は厚く体部はほぼ一定の器厚をもって口唇はやや外反し、内そぎ状に尖っている。高台は厚く強く外反している。ロクロは右回りで回転糸切り技法によって切り離される。その後回転ヘラ削りを行うが中央部が凹むため削り切っていない。高台付け後両側面に回転利用の横ナデを行っている。

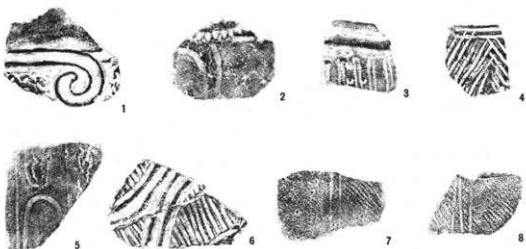
2はやはり高台付坏である。体部の立ち上がりははっきりせず口縁はほぼ直に立っている。底部は極端な下げ底である。底部は回転ヘラ削りが施されている。高台付け後両側面に回転利用の横ナデを行っている。胎土はち密で赤褐色を呈している。

3は須恵器の蓋である。中心部は厚く口縁へ行くに従い薄くなっている。天井部はゆるやかなカーブで内湾し、口縁は簡単な作りである。鈕は低く内部に凹みを持っている。天井部中心から中位にかけては明瞭なヘラ削り痕がみられる。鈕貼付後脇を回転を利用して横ナデしている。砂粒を含み黒青色を呈している。ロクロは左回りである。

出土土器が少ないが住居址の時期は奈良時代末から平安時代初頭にかけてのものと思われる。



第186図 第40号住居址実測図 (S - 北)



第187図 第40号住居址床面出土土器 (4)

37 第40号住居址 (第186・187図)

遺構 (第186図)

当住居址は第16号住居址の南西にあり北側の一部を調査しただけのもので、プラン・大きさとも不明である。

壁高は35～40cmで、立ち上がりは西側では非常にゆるやかとなっている。調査内の床面は固く良くたたきしめられており良好である。P1・P2は主柱穴と考えられる。幅25cmほどの周溝が西で一掘切れるがまわっている。深さはほぼ一定している。

炉は未調査部分にあると思われる。

遺物 (第187図)

調査面積が狭いため、遺物も極端に少ない。石器の出土はない。2・5は結節縄文を持つもので、他の土器より後出するものであろう。

土器が少なく住居址の時期は決め難いが、曾利Ⅱ期～Ⅲ期に比定されるであろう。

38 第41号住居址 (第171図)

遺構 (第171図)

本住居址は第35号住居址の貼床下に発見されたもので、一軒の住居址が完全に貼り床されることは珍しいことがある。

プランは隅丸方形で、大きさは3.2×3.1mと小形のものである。

第35号住居址との床面差は25cm前後である。床面はほぼ平らで固く良好である。南壁西側より西・北壁東壁北側まで周溝がめぐらされる。

主柱穴はP12・P13・P14が考えられ北西部に確認されていないが4本を基本とすると考えられる。

竈は東壁やや南寄りあり、壁を20cmほど挟っている。袖部など特別の施設はまったくみられない。基底部は80×50cmの楕円形に掘りくぼめられている。第35号住居址構築のさい壊された可能性が強い。

遺物

出土土器数量表にみる通り土器は少なく、すべて破片である。

39 第42・43号住居址

この兩住居址は第29号住居址の南東にあり、落ち込みはなく部分的に固い面が補えられただけのものでまた大半は調査できずに終わっており、プラン・規模等はまったく不明である。

(以上、気賀沢進)

器形	部分	土師	須恵	小計
甕	口縁	2		2
	胴部	3		3
	底部	2		2
環	口縁		1	1
蓋	口縁		1	1
小計		7	2	9

第41号住居址出土土器数量表

第3節 土壇と遺物

原壇外遺跡の発掘により発見された土壇は住居址内、住居址に接する、住居址周域、単独に分類でき、総数 325か所である。このうち、土壇No.6, 166, 168, 321, 323, 324は、番号の入り乱れにより欠番とした。「土壇」という未だ性格付けの明らかでない遺構を整理・操作・研究することは、なかなか難しい問題と言える。端的に分析視点を抽出するならば、「土壇」と「土壇(形態、埋没状態、出土遺物等の総合的意味での遺構として)」、「土壇」と「住居址」「土壇」と「住居址に伴う補完的遺構(柱穴址等)」という相関関係(時空間関係)の中から、ある規律・規則性を見出し、それが集落の構成の中で、生産域に位置づけられるのか、埋葬域に位置づけられるのか、祭祀域に位置づけられるのか等を検証し、再度「集落」とは何かを地域的時空間の位相の上で究明することが考えられるのである。

この視点に基づいて「土壇」を分類、分析することは、本遺跡の場合「土壇」の検出場所が一定の域に集中してはいるものの多くの不明確な問題を含んでいるので、まとめまでは及ばないと思いますが、問題提起として抽出したいと考えます。

本発掘調査で検出された土壇は、300余りという多くの数で、必ずしも十分な観察と記録ができなかったことは、いなめないことではありますが、ここでは先述の視点を少しでも満足させる為に、次に挙げる方法と記述に基づき分析します。

1. 検出された土壇をその検出場所により、住居址内・住居址に接する・住居址周域・単独のものに分類した。
2. 特に、土壇の性格が他のものと異なると考えられるNo.84, 88, 96, 97は、後で詳細に取扱うものとする。
3. 土壇番号は、検出順序に従って、付加したものである。
4. 平面形は、円形・楕円形・隅丸三角形・ひし形・隅丸方形・卵形・不整円形などに分類したが、円形は長径と短径の差が10cm以下のもの、楕円形は10cmを越え20cm以内のものという基準を用い、そのほかの平面形や特に大きいものや小さいものは、この基準によらない。なお、平面形は開口部の平面形を示し、床面の平面形は、先の記述と基準による。
5. 断面形は、スリ鉢状・タライ状・皿状・半円状に分類した。
6. 壁は外傾するもの、内傾するもの、垂直に近いものなどに分類し、垂直に近いものは「直壁」と表現した。
7. 床は、丸底と平底に分類し、丸底の中に、壁の立ちあがり部が丸いものも含めた。
8. 口径・底径は、両方ともに直角に交わる最大値で示し、深さは、土壇が検出された面のうち低い開口部より床面までの計測値である。口径・底径・深さは、図面から再計測したものである。
9. 土壇の中の小さな穴は、「小穴」と表現した。
10. 配石を伴うものは、その検出場所により「開口部」「床面」「堆積土中」(多くは、黒褐色土中である)と表現した。

11. 土坑と土坑、土坑と住居址の相互の切合状態を、「—>—」（「～が～を切る」）で表現した。
 12. 出土遺物である土器及び石器は、図版番号を載せ、図版のないものは、出土土器の「比定型式名」を載せた。

1 土坑一覽表

住居址内より検出された土坑

棟号	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
188	2	8区内が東側	楕円形	テライ状	外傾	楕円形	平底	220×164	198×140	28	2	焼土中	曾利式(石)205-1,2	2>8住居
		壁も床も良く良好。8区内の壁を破る形で、東面壁には径50cm×30cmと壁に径40cm×44cmの小穴が2個ある。配石は、中央寄りにありて覆けてはいないが伊石の可能性もある。出土した土器は高脚形の破片が多く文様は縄文地に縄文をはりつけたものや条線を施したものが多い。												
188	3	9区内西壁	楕円形	テライ状	外傾	楕円形	平底	154×124	126×118	64		焼土中	曾利式(土)198-3-5	3>9住
		壁も床も良く良好。9区内の西壁を切る形で、土器と配石が焼土中に入っており、西壁より大きな丸底の状態で遺存。出土土器は高脚のものも多く、高脚の甕に土を施したものと条線文をつけたものが多いが曾利式に比定できる。												
189	44	11区内西壁	楕円形	テライ状	外傾	円形	平底	128×118	94×87	49		床面	曾利式(石)207-11	44>11住
		壁、床とも良く良好。11区の壁の一部にかきつきしないが条線を切らぬものである。配石は床面中央寄りにあり、2個が南に並ぶ。出土土器は、口縁部より條形の条線を施したものとや加文の深溝口縁、耳状突起をもつものがあり、地は縄文と条線が多い。焼土石器1点。												
189	46	11区内西壁	円形	テライ状	外傾	円形	平底	152×146	132×128	42			曾利式(土)199-22,23	無
		壁、床とも良く良好。壁は傾斜している。出土土器は、縄文地が多く長帯条線文や高脚文が施されている。												
189	46	12区内北東壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	180×143	144×122	70	1			
		壁も床も良く良好。小穴は北東寄りに1個あり、径60cm×30cm深さ36cmである。出土遺物は無いが12区と同時期のものと思われる。												
189	47	24区内中央	五角形	スリ鉢状	外傾	下壁形	平底	126×128	90×72	43			(土)203-64	
		壁も床も良く良好。24区壁の南側にあり、壁土より曾利式に比定した土器が出土しているが、縄文期の土ではないが、平安朝のものである。胎線はなされたないの壁で覆られたものかもしれない。なお、本土坑は12区に接する。出土遺物はない。												
189	47	24区内東壁	不整形	スリ鉢状	外傾	下壁形	平底	112×83	95×63	30				
		壁も床も良く良好。土坑178同様。24区壁の北側にあり、胎線はなく出土遺物はない。												
189	48	18区内東壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	151×145	127×122	100			曾利式	181>18住
		壁・床とも良く良好。18区内の北東壁を切る形で、深さは土坑の中で深い方に属す。割縄文、懸垂文、縄文を主体にした土器が多い。												
189	48	15区内西壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	71×(56)	45×(36)	31				184>183
		壁、床とも良く良好。15区の壁の下である形で、層序は焼土、胎線、条線の順であり、遺物は胎線とされている。胎線の上が石がある。おそらくの胎線等に伴い胎線されたものであろう。西面半分は、土坑184に切られる。												
189	48	15区内西壁	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	108×99	81×74	108				184>183
		壁、床とも良く良好。183同様。15区の西壁にあり、かなり深いものである。出土遺物はなく時期は明らかでないが、15区に伴うものであろう。												
189	48	33区内西壁	外傾	スリ鉢状	外傾	円形	平底	92×84	72×54	57		開口部、床		
		33区の壁のすぐ西にあり、配石は土壇焼土中の開口部にもつ。壁・床とも良好。開口部の配石は2枚が重なるように置かれ、その上に土器がかかる状態で遺存。土坑内の出土遺物はない。												
189	49	32区内南壁	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	100×71	84×53	22	1		曾利式	
		壁、床とも良く良好。床に小穴あり。径30cm×18cm深さ41cmで、その北側に小さな自然石がつまらされていた。出土遺物は、竹貫による連続刺突文や平行状縄文を施す文の両面に付けたものが見られる。又、高脚の突起に焼土の屑を貼り付けたものもある。												
189	49	33区内西壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	77×70	53×44	32		焼土中		
		壁、床とも良く良好。土坑中央の壁壁土より配石が検出された。出土遺物はない。190同様。33区との同時期の関係は明らかでない。												
189	49	32区内南壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	128×100	100×62	78				192>194
		192が194を切った形で、192が194につき込んだ状態である。出土遺物はない。												
189	49	32区内南	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	126×63	102×40	32			曾利式(土)204-71	
		壁はやや軟弱であり、床もすし軟い。197が西に接する。出土土器は、飛雲をつけたものに結縷文を載せたものや条線を付けたものが多い。又、割縄文に比定されよう土器(深溝口縁に縄文と割縄文がある)も多い。												
189	49	32区内東	不整形	テライ状	外傾	不整形	平底	282×183	256×138	21	3			192>194
		壁も床も良く良好。192が本土坑の中央に寄り込んでいる状態で、小穴は南北一列に3つあり、径34cm×31cm深さ20cm、径30cm×34cm深さ11cm、径28cm×22cm深さ25cmである。出土遺物はない。												
189	49	32区内西	五角形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	96×88	72×72	43				
		壁、床とも良く良好であるが、北東壁にピットが穿られている。出土遺物はない。												
189	49	30区内東壁	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	114×111	79×68	70	1	床面		
		壁も床も良く良好。東壁壁に径10cm×8cmの小穴がある。床面には、平らな厚さ8cmの自然石が置かれていた。出土遺物はない。壁が全周に2段となっている。												
189	49	34区内北壁	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	118×78	76×37	57				198>201住
		34区の北壁を切る。壁、床とも良く良好。壁に沿って覆られた土坑と見られ、土坑の南側壁面に條線とされている感がある。出土遺物はない。												
189	49	14区内南壁	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	116×95	92×74	48		床面		200>201,202
		壁も床も良く良好。本土坑が201,202を切っている。床面は一面に配石が置かれており、石はみな自然石で覆けてはいない。出土遺物はない。												
189	201	14区内南壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	160×106	125×96	32				

棟号	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面積	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	備考
1320	200	壁・床ともに良く良好。出土遺物は無い。												
193	202	14住内東壁 南円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 150×112 124×68 33												
193	202	壁・床ともに良く良好。土壌200, 201に穿られている。出土遺物は無い。												
193	203	14住内東壁 不整形円形 スリ鉢状 外傾 不整形円形 平底 92×73 82×46 55											305>14住	
193	203	壁・床ともに良く良好。14住の東壁を切り取り中央部にある。出土遺物は無い。												
193	204	14住内東壁 三角形 タライ状 外傾 三角形 平底 187×130 157×100 33												
193	204	壁・床ともに良く良好。14住壁の北端にあり、平面的には大きなものである。出土遺物は無いが14住に伴うものであろう。												
194	206	14住内西壁 南円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 60×30 41×20 20												
194	206	本土城は、14住の柱穴として再確認され、土壌の違いはない。												306>206
194	208	14住内にあり、208, 213, 214とともに、総堀されている。壁も床も良く良好である。出土遺物は無いが、14住を造る時に陥没されたものであろう。												
194	208	14住内西壁 南円形 タライ状 外傾 南円形 平底 (130)×80 (108)×56 31												
194	209	206同様、陥没をされている。壁も床も良く良好。出土遺物は無い。												
194	213	14住内で陥没され、壁も床も良く良好である。208, 214を本土城が切っている。出土遺物は無い。												
194	214	14住内中央 南円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 (112)×98 (87)×57 48												
194	214	壁も床も良く良好。陥没されている。出土遺物は無い。												
194	216	14住内西壁 不整形円形 スリ鉢状 外傾 不整形円形 平底 146×105 122×80 109											211>212	
194	212	14住の内西壁を穿る形で、211が212の中に入り込んだ状態である。出土遺物はなく、14住に伴うかどうかは明らかでないが、おそらく陥没等がないことから14住に付くものかもしれない。												
195	284	28住内西壁 南円形 タライ状 外傾 南円形 平底 185×130 156×100 37 1												
195	284	28住の南壁に設置する。壁・床ともに良く、北はやや中心に向い傾斜している。東壁に小穴をもち、径77mm×70mm深さ12mmを穿る。出土遺物は無い。												
197	271	28住内中央 南円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 126×102 87×82 40											271>28, 28住	
197	271	28住の床面を穿る時、陥没された土壌である。壁も床も良く良好である。出土遺物は無い。												
197	272	28住内西壁 円形 スリ鉢状 外傾 円形 平底 119×113 92×78 47											272>28, 28住	
197	272	271同様、28住を穿る時陥没させたものである。壁も床も良く良好である。出土遺物は無い。												
197	272	28住内東壁 南円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 111×80 90×62 63											269>28, 28住	
196	207	271, 272同様、28住を造る時に陥没されたものである。壁も床も良く良好である。壁は傾斜している。出土遺物は無い。陥没の厚さは、271, 272, 269ともに3-5cmを測り、その下には黒褐色土が埋められている。												
197	287	42住内南 不整形円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 143×100 102×63 85 1												
197	287	壁も床も良く良好。土壌内南壁に小穴、径14cm×14cmがある。北側と西側に穿る状態でピットが2層ある。出土遺物は無い。												
197	287	12住内西壁 三角形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 134×107 110×85 37 1										(石)27-45		
197	280	壁も床も良く良好。土壌内南壁に小穴、径70mm×68mmがあるが、これは13住の柱穴である。出土遺物は無い。石は、短筒形の打石厚が1点。												
197	280	12住内東壁 南円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 102×70 86×65 62											305>13住	
195	306	壁も床も良く良好。土壌が、土壁を切り崩壊して造られた状態である。東壁に穿られた柱穴がある。出土遺物は無い。												
197	307	12住内北西壁 南円形 タライ状 外傾 南円形 平底 148×111 117×77											307>13住	
197	307	13住の北西壁を穿る状態である。壁も床も良く良好。出土遺物は無い。												
194	325	42住内東壁 五角形 スリ鉢状 外傾 五角形 平底 138×115 111×98 64											資料目式	
194	325	壁も床も良く良好。出土土器は、懸棺文をつらひの間に顔形・鳥文・虫歯をつけたものが少量出土。												

住居地に接して検出された土坑

棟号	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面積	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	備考
180	40	11住東壁	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	160×160	126×130	32	1	床面	(土)189-1R, 19(石)206-6, 7	
180	40	11住東壁に接する土坑である。東壁でなく北壁の可能性が高い。北壁に接するようであり、北西壁に小穴、径34cm×32cm深さ62cmがある。土坑の埋戻しは、上層より褐色土(ローム性、炭化物含む)が20cm-30cm、ロームブロックが14cm-15cm、焼土が5cm-9cm、炭化物が20cm-12cm、ロームブロックが8cm-10cm、焼土が1cmの順に埋戻していた。床面上の壁の中より土器(甕1989-18, 19)、石鈿(漆2006-13, 14)が出た。褐色土を敷く下層の5層は、真中の炭化物層をはさんでローム層・焼土層の順である。壁・床ともに良く良好。石皿と大甕片各1点ずつ。												
192	106	13住東壁	不整形円形	皿状	外傾	不整形円形	平底	300×280	287×266	77			(土)203-56	185, 107>106
192	106	壁・床ともに良く良好。本土城は、土城の中で最大のものである。105, 107によって穿られている。出土土器は特異形式に比定されるもので無文土に浅彫による顔文字や横文が多く、又顔文字や横文も多い。												
192	107	13住北東壁 南円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 94×59 76×49 22												
192	107	本土城の13住東壁と土坑106を穿っている。壁・床ともに良く良好。出土遺物は無い。												
192	107	15住北壁 円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 80×70 47×32 40											埋戻し土	
192	129	壁と床ともより、東壁を穿る状態である。配石と土器は少量であるが、遺構土中に小さな壺が埋っていた。												
193	207	14住北西壁 五角形 皿状 外傾 五角形 平底 92×82 77×66 11												
193	207	壁はやや軟弱であり、壁は良く良好。又北壁沿いに2段の壁とされている。出土遺物は無いが、埋入の特異形式土器片と土器・須恵(黄褐色)土器片が少量。遺土層より出土した。												
194	210	14住南西壁 南円形 スリ鉢状 外傾 南円形 平底 92×78 64×52 98												
194	210	壁・床ともに良く良好。14住の南西壁を本土城が穿る形である。出土遺物は無い。												

地区	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床高	口徑	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
194	211	14住西壁	不整形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	106×92	72×62	109				211>212
		土壁12の中に覆り下げられたものである。壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	230	40住東壁	(円形)	皿状	外傾	(円形)	平底	100×130	110×130	5				
		40住に接するが東側半分が排水路の存在によって壊れている。半分は壁と床は堅く良好。出土遺物はない。												
194	230	19住東壁	不整形	スリ鉢状	外傾	(半円形)	平底	100×82	() 48	2				
		19住の東壁に接し、壁はやや軟弱。床は小穴、径30cm×23cm深さ24cm、径20cm×23cm深さ16cmがありはつきりしない。出土遺物はない。												
194	239	29住東南壁	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	100×145	175×129	24		開口部	床面 井戸底面-管付口径204-74	302>255
		壁・床ともに堅く良好。配石が床面と開口部あり、開口部の配石のそばには遺土が積出された。管付初期の土管が積出された。												
196	250	19住北壁	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	(100)×84	(76)×70	55				19住>203
		19住北壁に本土土壁が貼られた形である。南側半分は欠けている。壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。床は、傾斜し、中央丸味を帯びている。												
190	293	19住北東壁	不整形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	120×138	60×70	20	3			
		19住北東壁に接し、壁は堅いが、床はやや軟弱である。床面に小穴があるが、本の痕かもしれない。出土遺物はない。												
197	296	35住北西壁	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	106×138	87×83	91				
		35住は41住に段床をして造った住居であり、本土土壁がどちらにも付くかはっきりしない為、一応35住内として扱って、ここで記載することとした。壁床ともに堅く良好。出土遺物はない。本土土壁には、配石が無い上に、出土遺物も検出されないで、不明な点が多い。												
197	300	29住東南壁	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	100×60	73×56	32		床面	(土)205-75	302>255
		29住東南壁に接し、土壁25を切る。床面に配石が1つあり、又、開口部直前に土管が積出した。壁・床ともに堅く良好。												
196	302	19住北西壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	30×60	70×62	63				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												

住居址周域より検出された土城

地区	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床高	口徑	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
188	1	9住西城	円形	テライ状	外傾	円形	平底	94×84	70×60	24		開口部	(土)198-1,2 (石)207-1,2	
		配石1として観察されたが、配石が床面と開口部という点で、土城とした。壁・床ともに堅く良好。土城の開口部をふきかのように自然石が配石されている。石は積付けてはいない。石は、織打石、四石、各1点ずつ。												
188	4	9住西城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	丸底	96×76	62×52	194		開口部		4>8
		壁・床ともに堅く良好。配石が南東隅開口部にある。出土遺物はない。												
188	5	10住北城	楕円形	テライ状	直壁	楕円形	平底	150×128	128×132	82			埴輪土中 (土)198-6	
		壁・床ともに堅く良好。配石が土城中央縁土中より検出。又、その南東に織土が、4-5cmの厚さで検出。出土土器には、御前町I-1形式比定の土器も多い。												
188	6	10住西城	() () () () () ()											
		断面、土城6号第一のものとして新3に確認される形であるので、管網に取上げない。出土土器はない。												
188	7	9住北城	楕円形	テライ状	外傾	円形	平底	176×148	116×116	60			(土)198-7	
		単純な土城の要素を、その位置から見ると持っているが周囲のものとして扱った。壁・床ともに堅く良好。												
188	7	9住西城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	丸底	96×96	78×76	22			(土)199-8	4>8
		壁・床ともに堅く良好。埴輪土中より型(新394形-8)が出土している。土城に切られ、北西壁が欠けている。												
188	8	11住東城	不整形	テライ状	外傾	不整形	平底	106×88	88×62	14			(土)199-9	9>18
		壁も床も堅く良好。床面より土器(新398形-9)が出土。土城10の東壁を本土城が切っている。												
188	9	10住北城	円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	92×82	70×58	84				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。土城5と隣り合う。												
188	10	10住西城	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	254×130	233×154	10			管付直式	
		壁も床もやや軟弱。土城6を吸収した形であり、周囲の土城22, 23, 30, 31, 65と隣接する。出土土器はない。												
188	11	9住北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	40×36	22×14	26			(土)198-10, 11	
		壁も床も堅く良好。小さな土城13に接近している。出土土器は鏡形中興文を施したものと中興文を施したもの、管付I-1形式比定できる。												
188	12	9住北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	52×46	51×30	30				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	13	11住北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	46×41	22×22	38				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	14	11住北城	楕円形	テライ状	外傾	楕円形	丸底	87×70	70×46	34				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	15	11住北城	不整形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	88×62	22×22	58			管付直式	
		壁はやや軟弱で床は堅く良好。2段の壁となっている。出土土器は、御前町I-1形式の影響を受けたと思われる唐文と新撰文を施したものが多く。												
188	16	11住北城	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	88×76	64×60	68		開口部		17>20
		壁も床も堅く良好。配石を西側開口部に出土。出土遺物なし。												
188	17	11住東城	円形	スリ鉢状	直壁	隅丸方形	平底	86×88	62×58	90				18>19
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												

調査	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	高さ	小穴	配石	遺物	切合
188	18	壁も床も良く良好。出土遺物は少ない。	11住東城	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	32×78	62×62	63			
188	19	壁も床も良く良好。出土遺物は少ない。	11住北城	不整形	タライ状	外傾	不整形	平底	98×78	74×56	32		(土)199-12	
188	20	壁も床も良く良好。出土遺物は、鴻巾や銅鏡を施したものが多し。(資料目録式)	11住北城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	104×80	76×50	32		(土)199-13	
188	21	壁も床も良く良好。出土遺物は、粘土器による赤文字や瓦文、陶文をつけたものが多い。(資料目録式)	10住西城	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	80×84	42×58	84		(土)199-14	22>11
188	22	壁も床も良く良好。土城11(土城6含む)を穿る。出土遺物は、資料目録式に比定されるもの一区域の中に竹管による刺文、口縁部に鼻状突起のつくもの等が多い。	10住西城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	100×90	58×57	102			
188	23	壁も床も良く良好。土城22に東壁が接する。出土遺物は少ない。	11住北城	不整形	皿状	外傾	不整形	平底	150×86	124×63	18			
188	24	壁も床も良く良好。出土遺物は少ない。	11住北城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	丸底	148×125	105×82	34			20>25
188	25	壁も床も良く良好。土城20に中や切られる形である。出土遺物は少ない。	11住北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	70×84	70×64	46		(石)207-3	27>38
188	27	壁も床も良く良好。南壁に壁土が6-7cmの厚さで残された。又、土城29と西壁が接し30を穿る。出土遺物は少ない。石器は、打製石片1点のみ。	11住北城	長方形	スリ鉢状	直壁	長方形	平底	38×63	73×45	70		資料目録式	28>38
188	28	壁も床も良く良好。出土遺物は、口縁部無文字に横穴状細口区画を施すものが多い。	11住東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	85×70	48×44	74			
188	29	壁も床も良く良好。出土遺物は少ない。	10住西城	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	110×105	90×35	90			33>30
188	30	壁も床も良く良好。土城23に穿られる。出土遺物は少ない。	10住西城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	110×96	85×75	110		床面	(石)208-4
188	31	壁も床も良く良好。配石が断面中央に入り、石皿の上にかぶさって遺存していた。石器は石皿1点のみ。	10住西城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	58×50	37×25	44			
188	32	壁も床も良く良好。出土遺物は少ない。	11住東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	69×67	25×20	54			
188	33	壁・床ともに中や傾。出土遺物は少ない。	11住北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	110×88	95×63	50			36>34
188	34	壁・床ともに良く良好。出土遺物は少ない。	11住北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	142×135	102×104	94		(土)199-15, 16	35>48
188	35	壁・床ともに良く良好。	11住北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	118×100	78×59	66			
188	36	壁も床も良く良好。出土遺物は少ない。	11住北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	80×68	61×50	36			
188	37	壁・床ともに良く良好。出土遺物は少ない。	11住北城	不整形	皿状	外傾	不整形	平底	(200)×120	(210)×94	18	3	堆積土中	(石)207-6
188	38	床・壁ともに良く良好。本土城は27, 28, 30に穿られている。配石は、堆積土中に配され、北壁に立石が1つと、その東側に、碓石が配されている状態で遺存。出土遺物は少ない。又、小穴が3つあり、径50mm×50mm深さ20mm、径28mm×25mm深さ22mm、径17mm×20mm深さ20mmを穿る。石器は碓石1点のみ。	11住北城	円形	タライ状	外傾	円形	平底	138×125	95×105	46		堆積土中	(土)200-17 (石)208-7
188	39	床・壁ともに良く良好。本土城は、30を切っている。配石といえそうな自然石が1つ堆積土中に遺存。資料目録式に比定する土器が多く出土している。継ぎ目1点出土。	10住西城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	130×110	102×79	33			
188	41	床・壁ともに良く良好。出土遺物は少ない。	10住西城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	100×87	71×58	20		(石)207-10	
188	42	床・壁ともに良く良好。出土遺物は少ない。チャート製の碓石が1点出土。	12住東城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	124×97	92×64	18		堆積土中	(土)199-22, 22
188	43	床・壁ともに良く良好。朝鮮半島の影響を受けた資料目録式の土器片が多い。調査は縄文地に赤文字状瓦文を施したもので中や傾を施し、陶文をつけたもの等がある。	11住北城	円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	40×40	27×22	48			69>43
188	45	床・壁ともに良く良好。出土遺物は少ない。形状の割に深いことが多し。	11住北城	不整形	皿状	外傾	不整形	平底	180×148	150×121	22	1	(土)200-24, 25 (石)207-12	52, 45>47
188	47	床・壁ともに良く良好。土城6, 50に穿られる。東壁に小穴が1つあるが、腹面にはならぬという。定角の磨製石片が1点出土。	11住北城	不整形	皿状	外傾	不整形	平底	(130)×76	(90)×50	16			
188	48	床・壁ともに良く良好。出土遺物は少ない。												35, 45>48

種別	番号	位置	平面形	断面形	型	底面形	底面	口径	高さ	深さ	小穴	配石	遺物	割合
195	49	11往西城	楕円形	タライ状	外楕	楕円形	平底	171X88	130X58	30				
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	50	11往西城	楕円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	133X87	103X55	48				
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	51	11往西城	楕円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	128X94	98X67	50			(土)200-26	
		床・壁ともに堅く良好。												
195	52	11往北城	楕円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	96X71	75X52	46			(土)200-27	52>47
		床・壁ともに堅く良好。												
195	53	11往北城	円形	スリ鉢状	外楕	三角形	平底	108X100	76X62	38			管利1式	54と隣する
		床・壁ともに堅く良好。出土土器は、難波文や竹筥状工具での平行波線に彫刻に施したものが多い。												
195	54	11往北城	楕円形	タライ状	外楕	楕円形	平底	126X99	86X52	25				53と隣する
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	55	11往北城	円形	スリ鉢状	外楕	円形	平底	74X70	37X37	30			(土)200-28	
		床・壁ともに堅く良好。出土土器は、絶して、管利形式は少なく、東北した真文の陶器が口縁部にみられる。												
195	56	11往北城	円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	65X56	34X48	20				58>56
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。土城50の中に、土城50が新しく掘り下げられた形となっている。												
195	57	11往北城	楕円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	68X60	34X28	35				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	58	11往北城	楕円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	105X100	83X70	74				58>56
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	59	11往北城	円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	85X55	31X24	50				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	60	11往北城	不整形円形	皿状	外楕	不整形円形	平底	254X166	186X128	23			(土)200-29, 30, 31	
		壁はやや軟弱で、床は堅く良好。平面形が大きい器に多い。												
195	61	12往南城	円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	73X76	58X44	25				
		土城51、62、63が南東一列に並んでいるかの如く見える。壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
195	62	12往南城	楕円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	118X68	91X47	31				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
195	63	12往南城	楕円形	タライ状	外楕	楕円形	平底	114X73	92X68	24				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
195	64	12往南城	円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	68X68	39X35	40				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
195	65	12往西城	不整形円形	皿状	外楕	不整形円形	平底	162X104	133X70	38				31>60
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
195	67	12往南城	楕円形	スリ鉢状	直線	楕円形	平底	168X128	138X96	96			管利土中 管利1式	67>69
		壁も床も堅く良好。配石が埋土中に10cm用いられている。出土土器は、難波文またはつけや筒鉢、陶器や竹筥状工具で押引したものなど管利1式の影響を受けた管利の1〜目に比定されるものが多いが、絶して管利1式に比定できる。												
195	68	12往南城	不整形円形	皿状	外楕	不整形円形	平底	186X148	140X120	22			管利土中 管利口部	68>90
		壁はやや軟弱であるが、床は堅く良好。配石は、埋土中に開口部になされており、石は自然石である。出土遺物はない。												
195	69	12往南城	円形	タライ状	外楕	円形	平底	146X130	130X104	64			管利口部	69>43
		壁・床ともに堅く良好。埋土中、土城57に切られた壁上に10cm位埋積していた。又、焼け石が、その西側開口部より少し上にあった。出土遺物はない。												
195	70	12往南城	不整形円形	スリ鉢状	外楕	不整形円形	平底	135X72	75X47	74				
		壁・床ともに堅く良好。土城67との間に埋土約10cm位埋積し、土城70の開口部にまでかかる形で見逃す。												
195	71	12往南城	楕円形	タライ状	外楕	楕円形	平底	94X110	36X30	28				71>90
		二段の壁となっており、さらに、その中に2つの土城が入っている形である。両方を土城71とした。壁はやや軟弱。床は堅く良好。1つの土城には、自然石が壁上に伴う。												
195	72	12往南城	円形	スリ鉢状	外楕	楕円形	平底	60X56	44X38	36			(土)207-13	73>72
		壁・床ともに堅く良好。出土土器はない。石器は、横刃石器が1点出土。												
195	73	12往南城	三角形	スリ鉢状	外楕	三角形	平底	102X81	124X45	65			開口部 (土)207-32	73>72
		壁も床も堅く良好。配石と押べるか否かは何とも言えないが土城埋土中に自然石が1つすえられていた。出土土器は、管利1式の影響を受けた管利1式一層式まで幅広く出ている。												
195	74	12往南城	楕円形	タライ状	外楕	不整形円形	平底	118X104	97X84	31				
		壁も床も堅く良好。土城59に、径32mmX30mm深さ32mmの小穴が設けられている。西壁と東壁の高さの差が大きい。出土遺物はない。												
195	75	12往南城	ひし形	タライ状	外楕	不整形円形	平底	114X74	75X52	28			(土)207-33, 34	
		壁も床も堅く良好。出土土器は、難波文1式の影響を受けた管利1式以降のものも比定できるものが多い。壁は、やや軟弱している。												
195	76	12往南城	不整形円形	皿状	外楕	不整形円形	平底	158X120	136X94	18				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
195	77	12往南城	楕円形	皿状	外楕	楕円形	平底	158X143	140X120	21	1	床面	(土)208-35-48 (土)209-14-20	
		壁も床も堅く良好。埋土状態は、フクナ工(黒褐色土-炭化腐植土)で見られるが、一部ローム層から土がある。床面に小穴、径25mmX25mm深さ25mmがある。石器は、セットの尖土している。打撃・磨製・半打撃半磨製の石片計3点、磨石1点、敲打器1点、大槌型石1点、横刃石器1点、合併7点の各石器が出土している。												
195	78	12往南城	不整形円形	皿状	外楕	不整形円形	平底	188X119	146X92	18	1		(土)208-41 (土)209-22	
		壁も床も堅く良好。南西の壁の小穴、径50mmX50mm深さ33mmが穿られている。石器は打撃石片が2点出土。												

探区	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床底	口径	高さ	深さ	小穴	配石	遺物	切台
190	79	12住海域	円形	スリ鉢状	外編	円形	平底	67×60	36×41	30			(土)20-42	
190	80	20住海域	楕円形	スリ鉢状	外編	不整形円形	平底	80×70	60×54	78				80>135, 137
190	81	12住海域	円形	タライ状	外編	円形	平底	76×60	60×54	18				
190	82	20住海域	不整形円形	皿状	外編	不整形円形	平底	170×115	145×91	16	1			
190	83	20住海域	楕円形	スリ鉢状	外編	楕円形	平底	47×34	32×21	40				
190	84	20住海域	不整形円形	タライ状	外編	不整形円形	丸底	$\frac{106 \times 78}{(48 \times 29)}$	27×30	64			縄文中期末葉	125と接する
190	85	20住海域	不整形円形	皿状	外編	不整形円形	平底	182×115	162×90	50			(土)20-45-47 (石)20-23	85>86
190	86	20住海域	楕円形	タライ状	外編	楕円形	平底	138×100	121×83		44			80>126
190	87	20住海域	円形	スリ鉢状	外編	円形	平底	87×82	63×64	55				87>126
190	88	20住海域	円形	スリ鉢状	外編	円形	丸底	52×52	40×40	33			床面 (土)20-48	125と接する
190	89	20住海域	不整形円形	スリ鉢状	外編	不整形円形	平底	116×106	86×86	92			地味土層 (土)20-49, 50	89>117
190	90	12住海域	不整形円形	皿状	外編	円形	平底	84×82	73×60	115				89>90
190	91	20住海域	楕円形	スリ鉢状	外編	楕円形	平底	104×92	89×76	49				91>92, 116, 143
190	92	20住海域	楕円形	スリ鉢状	外編	楕円形	平底	95×72	74×56	27				骨科I-2式
190	93	12住海域	円形	スリ鉢状	外編	円形	平底	60×70	38×38	21				
190	94	20住海域	円形	スリ鉢状	外編	円形	平底	98×88	56×59	70				94>98, 115
190	95	20住海域	不整形円形	スリ鉢状	外編	不整形円形	平底	220×137	182×94	57				骨科I式
190	96	20住海域	楕円形	スリ鉢状	外編	楕円形	平底	95×74	76×57	68				縄文中期末葉
191	57	13住海域	楕円形	円鉢状	()	楕円形	丸底	36×28	24×19	52				縄文中期末葉
191	58	20住海域	楕円形	タライ状	外編	楕円形	平底	170×116	140×97	38				骨科I-2式
191	59	20住海域	円形	スリ鉢状	外編	円形	平底	102×95	78×75	87				骨科I式
191	100	12住海域	楕円形	タライ状	外編	楕円形	平底	169×122	138×96	54	1	2		100>101
191	101	12住海域	不整形円形	スリ鉢状	外編	不整形円形	平底	116×88	85×53	34				
191	102	12住海域	楕円形	スリ鉢状	外編	楕円形	平底	88×61	64×45	47				102>104
190	103	12住海域	楕円形	スリ鉢状	外編	楕円形	平底	78×65	54×41	56				
190	104	12住海域	円形	スリ鉢状	外編	円形	平底	73×62	54×40	32				骨科I-2式
191	105	13住海域	楕円形	スリ鉢状	外編	楕円形	平底	132×108	109×90	85				縄文中 (土)20-50 (石)20-25

調査	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
(191)	(105)													
		15号北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	100×72	71×52	40		雑瓦、陶片		
191	108	壁も床も堅く良好。地味は床より黒褐色土(炭化物、ローム含む)、暗褐色土(ローム多し)、暗褐色土(ローム粒、炭化物含む)の順になって、黒褐色土層の中に自然石がある。石壁は、打製石、石包丁、磨石が1点ずつ出土。												
		15号東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	80×58	64×37	21				
191	109	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		15号北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	110×90	80×67	90		開口部		110>112
191	110	壁も床も堅く良好であるが、東壁が土壁13によって切られている。9番の自然石が、土城の開口部より南側に置かれている。その内、3個は焼け石である。地味は、床より暗褐色土(炭化物を含む)、壁にロームらん土、その上は黒砂層、ロームブロックと堆積している。												
		15号北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	104×82	73×51	36		開口部外		
191	111	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。開口部東壁外に自然石が1つ置かれていた。												
		15号北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	73×60	53×54	70			(石)209-27 201-28, 29	110, 112>112
191	112	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。石壁は、打製石が3点出土。												
		15号北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	126×112	86×84	140				113>110, 112
191	113	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		20号東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	104-96	82×67	48			骨角製品	
191	114	壁も床も堅く良好であるが、東壁が弁子土の辺に欠く。出土土器は、1層は、陶器に磁器を湯呑・椀等・椀等としてはつづけ、赤褐色を施している。												
		20号東城	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	190×122	158×104	20			骨角製品	94, 95>115
191	115	壁も床も堅く良好。出土土器は、骨角製品の扉をひく縄文地に紀行縄文を施したもので、口縁に貼り付け最層の湯呑文、胴部に平行に縄文を施したものが多い。												
		20号東城	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	124×85	108×67	40		開口部		94, 98>115
191	116	南西壁がゆるやかな二段壁となりやや軟弱であり、床は堅く良好。出土遺物はないが、土壁156と中間の開口部に自然石を置いている。床はやや先味を帯び傾斜している。												
		20号東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	92×(70)	77×(55)	43				89>117
191	117	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		20号東城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	70×64	62×50	20			骨角製品	
191	118	壁も床も堅く良好。出土土器は、陶文の刺繍や口縁に縄文を施し縄文を施したものが多く、口縁に貼り付け最層の湯呑文、胴部に平行に縄文を施したものが多い。												
		20号東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	75×54	53×35	27				123>119
191	119	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20号東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	48×34	30×20	53				
191	120	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		12号北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	56×46	33×29	31				
191	121	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20号東城	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	74×56	55×49	33		開口部		122>86
191	122	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。開口部北壁に焼け石の配石がある。												
		20号東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	55×50	34×27	40				123>119
191	123	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		13号北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	61×58	36×33	37				
191	124	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20号東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	98×92	84×73	44			骨角製品	(石)51 ¹ 52 ¹
191	125	壁・床ともに堅く良好。東壁壁にピットがある。出土土器は、口縁部に刺繍文を施したもので、口縁に骨角製品やらひ文字をはりつけ、口縁にそってへら先で刺繍して、地に縄文を施したものがあ。石壁は、打製石、磨石、磨石が1点ずつ出土。												
		20号東城	不整形	皿状	外傾	不整形	平底	191×100	170×81	44	床面	骨角製品		86, 87>126
191	126	壁・床ともに堅く良好。床面北壁より2番の自然石を置き、その下に骨角製品の刺繍文と縄文を施した土器片が出土した。												
		15号北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	62×35	45×22	30				
191	127	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		15号北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	75×63	54×48	63				128>146
191	128	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		15号北城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	120×85	96×63	25				
191	130	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		15号北城	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	110×90	91×60	142		開口部	(石)212-33, 34	131>132, 134
191	131	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はないが、開口部に、配石がされている。いずれも自然石である。土城134の配石と合一の東壁のものと思われる。そのうち、一つは焼け石である。石壁は、打製石、磨石が1点ずつ出土。												
		16号北城	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	63×64	50×48	61				131>132
191	132	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		15号北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	82×35	70×39	37				
191	133	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		15号北城	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	74×88	58×61	100				131>134
191	134	壁・床ともに堅く良好。開口部より自然石の配石がされている。出土遺物はない。												

測号	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	底面	口径	底径	高さ	小穴	配石	遺物	明合
189	135	20件東城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	65×58	40×34	20					80>135
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
192	136	15件北城	三角形	スリ鉢状	外縁 三角形	平底	72×55	52×34	54					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
189	137	20件東城	楕円形	トライ状	外縁 楕円形	平底	70×46	60×27	18					80>137
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。埴輪状懸は、ロームふら土層内に、褐色土ブロックが(ローム状、炭化物含む)包含されている状態である。												
191	138	15件北城	不整形円形	平円状	底 () 丸底	120×142	()	55						131, 132>138
		壁も床も堅くて良好であるが、その形状は、壁が弧状・床が丸底である。数が少ない種類である。出土遺物はない。												
192	139	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	104×80	60×48	72					
		壁も床も堅くて良好。出土遺物はない。												
192	140	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	72×66	53×46	77					
		壁も床も堅くて良好。出土遺物はない。												
191	141	20件東城	楕円形	底状	外縁 楕円形	平底	70×54	54	44			開口部		
		外縁は不整形円形をもつ二つの壁をもつ、やや東側は伏縁で、床は堅く良好。内壁開口部東壁の上に長さ45cm幅5cmの立石が遺存し、外壁東側に2個の自然石が置かれていた。出土遺物はない。												
192	142	20件東城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	70×63	50×40	30					
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	143	20件東城	楕円形	底状	外縁 楕円形	平底	137×91	118×78	13	2				91, 144>143
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。東東側に2個の小さなピット(径10cm内外)がある。												
192	144	20件東城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	86×76	62×63	72					144>143
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
192	145	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	86×47	62×25	22				(土)203-57-60	
		壁も床も堅く良好。出土遺物は骨針目式に比定される演文と糸織及び糸織と懸文の組み合わせた新部文様のものが多い。												
192	146	20件東城	楕円形	トライ状	外縁 楕円形	平底	62×41	38×30	19					
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	147	20件東城	不整形円形	トライ状	外縁 不整形円形	平底	156×91	135×68	28					149>147
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	148	20件東城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	87×81	68×63	23					149>148
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	149	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	142×93	104×60	27				骨針目式	
		壁も床も堅く良好。ほぼ中央部に2つの配石をもつ。各々、縁石土中と開口部に配されていた。出土土器は、粘土器を解凍し取り付けたものや、陶器の陶片に竹管状工具による押印のものが多い。												
192	150	20件東城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	61×52	29×36	60					150>152
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	151	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	61×49	42×36	36					151>152
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	152	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	126×76	83×45	24				(土)203-61	150, 151>152
		壁も床も堅く良好。出土土器は、骨針目式比定のもので、粘土製の胎子目文やてい状突起等が見られる。												
192	153	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	102×76	81×63	40				骨針目式 (土)203-62	
		壁も床も堅く良好。出土土器は、須部・新部・竹管状工具で平行成線や区画をつくり、その中を、竹管で押印しているものが多い。又、陰帯をはりつけ、その両側を押印したものもある。												
192	154	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	145×115	111×87	57				床面上	154>158
		壁も床も堅く良好。出土土器はないが、床面に長さ62cm幅30cmの自然石が埋め込まれていた。立石の痕跡はみられなかったが、その可能性もある。												
192	155	20件東城	楕円形	平円状	底 () 丸底	73×39	()	27						
		壁はやや軟弱で、丸底である。出土遺物はない。												
192	156	20件東城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	44×40	19×20	57				骨針目式 (石)212-35	
		壁も床も堅く良好。配石とともに、壁状の石が、土壌115との中間に置かれていた。出土土器は、骨針目式比定のもので多く、1個部と糸織帯と懸文、竹管状工具による陰帯区画内の斜め線状文等が見られる。石器は、磨石が1点出土。												
192	157	20件東城	ひし形	スリ鉢状	外縁 ひし形	平底	130×83	106×66	82					
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	158	20件東城	楕円形	底状	外縁 楕円形	平底	200×122	180×105	22					154, 170>158
		壁も床も堅く良好。配石をとともう土壌154と170により東・西壁が欠けている。又、立石をもつ土壌141と近接している。出土遺物はない。												
192	159	20件東城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	71×56	48×48	31					159>161
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
191	160	15件北城	不整形円形	スリ鉢状	外縁 不整形円形	平底	88×73	70×52	40				底面	128>160
		壁も床も堅く良好。床面西壁等に2個の自然石が置かれている。出土遺物はない。												
192	161	20件東城	不整形円形	平円状	底 () 丸底	90×64	()	18						159>161
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	162	20件東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	65×51	51×37	61					

調査番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床高	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	備考
192	162	壁も床も堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	163	20往東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	53×53	33×34	25			
192	164	20往東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	75×70	50×48	38			
192	165	20往東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	52×53	34×35	31			
192	167	15往北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	50×40	32×28	32			資料1式
192	167	壁も床もともに堅く良好。出土土器は、井戸川家の影響を受けた樽目文も若干あり。主に、竹筥による平行法織文や押入文、斜織文を地として総行巻織文が露されたものが多い。											
192	168	15往北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	43×45	32×29	27			
192	169	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	170	20往東城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	125×110	96×70	34		開口部	170>158
192	170	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ないが、壁状の自然石が、開口部北壁等に遺存していた。											
192	170	32往南城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	122×117	79×66	72			
192	185	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	186	32往南城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	72×50	52×36	34		開口部	(土)294-68 186>187
192	186	壁も床もともに堅く良好。西壁開口部に華美自然石が壁に沿ってすまわられていた。出土土器は、資料1式決定のもので、斜形糸織文と直文の組み合わせ、斜織文に懸垂文を組み合わせたものが多い。											
192	187	32往南城	楕円形	スリ鉢状	外傾	不整形円形	平底	104×106	83×65	22			186>187
192	187	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	188	30往西城	隅丸方形	スリ鉢状	直壁	隅丸方形	平底	140×144 (133×137)	89×85	106			(土)294-68
192	188	壁は、二階の壁で、外壁は、やや軟弱である。内壁・床ともに堅く良好。出土土器は、長巻と総行巻織文の組合せ、懸垂文と糸織文の組合せのものが多い。											
192	215	15往北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	100×81	74×55	58			
192	215	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	216	14往西城	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	96×50	50×27	46			216>217
192	216	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	217	14往西城	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	115×89	92×66	50			216>217
192	217	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	218	14往西城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	94×63	73×43	24	2		
192	218	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。西壁には、径18cm×14cm深さ26cm、北壁には径22cm×34cm深さ20cmの小穴がある。石器は、打製石片1点、磨石2点出土。											
192	219	14往西城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	95×79	75×58	46			資料形式(石)219-220 219>220
192	219	壁も床もともに堅く良好。出土土器は、少量であるが、糸織文や斜織文と幾何懸垂文、直文の組み合わせのものが見られる。											
192	220	14往西城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	124×104	95×78	45			資料形式
192	220	壁も床もともに堅く良好。出土土器は、少量であり、総行巻と斜織織文、斜織文と沈線懸垂文、斜織文と直文といった組み合わせのものが見られる。											
192	220	14往北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	152×89	114×45	53			
192	221	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	221	14往北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	68×54	32×26	28			
192	222	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	222	14往北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	62×53	33×29	20			資料1式
192	223	壁も床もともに堅く良好。出土土器は、糸織文と懸垂文との組み合わせのものが出土。											
192	223	14往北城	不整形円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	102×73	77×35	14			(石)223-41
192	224	壁も床もともに堅く良好。出土土器は少ない。石器は、石皿が1点出土。											
192	224	20往南西城	楕円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	60×46	37×30	41			
192	225	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	225	20往南西城	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	146×96	117×55	44			
192	226	壁も床もともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	226	20往南西城	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	95×75	68×47	84			資料1式
192	227	壁・床ともに堅く良好。出土土器は、沈線による懸垂文と斜織織文、糸織文と糸織文の組み合わせのものが見られる。											
192	227	14往西城	円形	円筒状	直壁	円形	平底	87×60	89×68	111			
192	228	壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	228	14往西城	三角形	タライ状	外傾	楕円形	平底	82×56	61×36	16			
192	229	壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	229	14往北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	101×106	86×80	50			
192	231	壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	231	14往北城	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	64×50	40×32	83			
192	232	壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。											
192	232	40往北城	五角形	タライ状	外傾	五角形	平底	93×95	66×82	19			

種類	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床高	口径	底径	高さ	小穴	配石	遺物	場合
190	234	14住北城	隅丸方形	スリ鉢状	外縁 隅丸方形	平底	88×74	53×44	61					
191	235	壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
192	236	20住南西城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	94×85	58×45	61				骨角器一式	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、少なく、銅鏡文と磨鏡文。焼文口縁部部に、刻点文を組み合わせたものが見られる。												
193	237	14住西城	隅丸方形	スリ鉢状	外縁 隅丸方形	平底	106×92	80×79	41				骨角器一式	237>240
194	238	壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、少なく、まばらな銅鏡文を焼文したもので、磨鏡する焼文と銅鏡文等の組み合わせたものがある。												
194	238	14住西城	隅丸方形	円縁状	外縁 隅丸方形	平底	55×35	43×34	71					
194	238	壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
194	240	14住西城	不整形円形	皿状	外縁 不整形円形	平底	(25)×96	(22)×53	10					229, 237>240
		壁・床ともにやや軟弱。出土遺物は少ない。												
196	241	40住北城	隅丸方形	スリ鉢状	外縁 隅丸方形	平底	72×64	45×37	23					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
196	242	20住南西城	楕円形	タライ状	外縁 楕円形	平底	167×128	132×90	28				骨角器一式	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、銅鏡文と磨鏡文、加圧地に長柄銅文、磨鏡文と磨鏡文等の組み合わせたものが多い。												
196	243	20住南西城	不整形円形	タライ状	外縁 不整形円形	平底	128×77	104×55	22	1			骨角器一式	
		壁・床ともに堅く良好。西壁床面に、径36mm×28mm深さ46mmの小穴がある。出土遺物は、極少であるが、磨鏡による磨鏡文と銅鏡文の組み合わせのもの、数片ある。												
195	244	20住南西城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	58×46	36×25	38					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
196	245	28住東城	不整形円形	スリ鉢状	外縁 不整形円形	平底	61×48	35×30	20					254>270
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
196	246	28住東城	楕円形	タライ状	外縁 楕円形	平底	118×92	96×68	38				骨角器一式	246>245, 280, 288
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、磨鏡文と銅鏡文、焼文等と銅鏡文の組み合わせたものが多い。												
196	247	28住東城	隅丸方形	スリ鉢状	外縁 隅丸方形	平底	82×78	50×46	54					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、銅鏡文をつけたもの一方のみであった。												
196	248	20住南西城	楕円形	タライ状	外縁 楕円形	平底	87×79	64×46	21				骨角器一式	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、粘土を塗った状態にはりつけたものや、靫に糸織をつけたものが、少量出土している。												
196	249	40住北城	楕円形	タライ状	外縁 楕円形	平底	83×54	77×37	32	1				
		壁・床ともに堅く良好。床面、西壁等りに、小穴径24mm×20mm深さ13mmがある。出土遺物は少ない。												
196	250	40住北城	隅丸方形	スリ鉢状	外縁 隅丸方形	平底	55×48	40×30	25					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
194	251	40住北城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	88×84	75×66	44					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、やや丸味を帯びた床である。												
196	252	40住北城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	88×75	64×59	23					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、やや丸味を帯びた床である。												
196	253	40住北城	ひし形	スリ鉢状	外縁 ひし形	平底	146×105	104×70	31					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、やや丸味を帯びた床である。												
196	254	40住北城	円形	皿状	外縁 円形	平底	97×88	63×68	35				骨角器一式 (土) 254-1号, 79	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、少なく、磨化した磨影文がついているものがある。												
196	256	14住西城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	108×70	80×47	36				(石) 253-42	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、東壁開口部外に平らな自然石が置かれていた。石器は、楕円石器が1点出土。												
197	257	20住南西城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	133×120 (113)×90	116×94	124				骨角器一式	
		壁は、2段の壁となっており、やや外壁が軟弱。内壁・床は堅く良好。出土遺物は、改竄及び磨鏡による磨鏡文と銅鏡文を組み合わせたものが主体である。												
196	258	20住南西城	楕円形	タライ状	外縁 楕円形	平底	116×75	85×46	20	1				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、床面東壁等りに、小穴径22mm×18mm深さ16mmがある。												
196	259	28住東城	楕円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	80×61	62×37	74					259>246
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
196	260	28住東城	不整形円形	スリ鉢状	外縁 不整形円形	平底	90×62	80×44	53	1				246>280
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、床面中央に小穴径32mm×24mm深さ5mmがある。												
196	261	20住南西城	不整形円形	スリ鉢状	外縁 楕円形	平底	154×71	133×55	35	1				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、床面中央に小穴径38mm×34mm深さ8mmがある。												
194	262	20住南西城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	102×96	67×70	50					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
196	263	14住北城	隅丸方形	皿状	外縁 隅丸方形	平底	94×84	66×65	10					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
196	264	14住北城	円形	スリ鉢状	外縁 円形	平底	46×42	34×22	38					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は少ない。												
196	265	20住南西城	隅丸方形	皿状	外縁 隅丸方形	平底	127×108	101×87	14					

邦号	番号	位置	平面形	断面形	壁	扉	扉形	床面	口徑	底径	高さ	小穴	配石	遺物	割合
136	205	壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。													
136	206	28住東城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。本土城は、中に半円状の穴が2つ入っている形である。出土土器は、陶器で、取付の跡と同心円状の条線がつけられているものの2点のみである。	不整形	スリ鉢状	外縁	不整形	凹凸	36×38	40×40 35×35	35					
136	207	28住東城 壁はやや軟弱で、扉は堅く良好。土城270の中に、土城267がすっぽりと中央に入り込んでいる形となっている。出土土器はなく、石器は、定角の磨製石斧が1点出土。	不整形	タライ状	外縁	不整形	平底	158×86	135×60	23			(石)213-43		267>270
136	208	28住東城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。本土城は、大型の土城270の小穴の要素が強いと思われる。	不整形	スリ鉢状	外縁	不整形	平底	58×47	45×30	22					268>270
136	270	28住東城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。大型のもので、土城265、土城267、土城268を抱え込む形をしている。	不整形	底状	外縁	不整形	平底	303×208	282×193	21					
136	273	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	123×90	98×69	38					
137	224	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	隅丸方形	スリ鉢状	外縁	隅丸方形	平底	(86)×(75)	61×59	78					311>274
137	274	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土土器はない。石器は、横刃石斧が1点出土。	不整形	スリ鉢状	外縁	不整形	平底	143×89	132×65	58			(石)213-44		274>275
137	275	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土土器はない。石器は、横刃石斧が1点出土。	円形	スリ鉢状	外縁	円形	平底	(80)×(66)	(63)×67	44					299>276
137	276	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。土城の現形のうら、写し出しが土城299によって隠れている形、跡は想定である。	不整形	スリ鉢状	外縁	不整形	平底	98×69	80×45	38					
137	277	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	38×32	23×16	60					
137	278	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。土城282と連結する形となっている。	楕円形	扉状	直壁	楕円形	平底	84×67	58×45	86			検閲式		279>287
137	279	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土土器はわずかで、銅鏡を埋文とし、指先で彫り施したもので、条線文が見られる。	不整形	スリ鉢状	外縁	不整形	平底	88×59	68×33	25					
137	280	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	52×34	38×17	36					
137	281	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。土城280のすぐ東側に位置する。	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	69×45	45×23	44					
137	282	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリ鉢状	外縁	円形	平底	52×49	27×22	20					
137	283	13住南城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	90×72	50×34	40					
137	285	13住南城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	隅丸方形	スリ鉢状	外縁	隅丸方形	平底	74×63	52×46	31					
137	286	13住南城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。東西壁が、概、2段壁になっている。	楕円形	タライ状	外縁	楕円形	平底	85×60	58×24	26					
137	288	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	三角形	スリ鉢状	直壁	三角形	平底	156×145	113×118	89	2				
137	289	12住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。床面、東壁寄りに、小穴2個、径40mm×30mm深さ15mm、径32mm×23mm深さ16mmがある。	三角形	スリ鉢状	外縁	三角形	平底	111×88	78×50	50					
137	291	12住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	隅丸方形	スリ鉢状	外縁	隅丸方形	平底	57×51	31×27	33					
137	292	13住北城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	隅丸方形	スリ鉢状	外縁	不整形	平底	65×82	34×28	36					
137	294	13住北城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	タライ状	外縁	楕円形	平底	219×160	170×114	77					
137	295	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	円形	タライ状	外縁	円形	平底	68×64	57×46	20					279>297
137	297	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	57×49	30×31	28					
137	298	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	162×104	141×89	59					
137	299	12住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	105×91	72×44	40					
137	300	14住西城 壁・扉ともに堅く良好。出土遺物はない。	三角形	スリ鉢状	外縁	隅丸方形	平底	42×33	25×23	28			(土)205-76 (石)214-46, 47		
136	303	壁・扉ともに堅く良好。出土土器は少ない。石器は、打製石斧が2点出土。													

調査	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床高	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
136	304	13住西城	隅丸方形	スリ鉢状	外縁	隅丸方形	平底	90×80	71×69	80				
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
136	305	13住西城	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	118×87	78×44	30				
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
137	308	14住西城	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	50×35	28×21	24				
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
137	309	12住西城	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	114×76	90×52	49				
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
137	305	14住西城	不整形円形	スリ鉢状	外縁	不整形円形	平底	93×56	52×32	49				314>310
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
137	310	14住西城	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	68×66	52×54	118				
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
137	311	14住西城	円形	スリ鉢状	外縁	円形	平底	76×83	55×55	29				299>312
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
137	312	14住西城	円形	スリ鉢状	外縁	円形	平底	74×66	58×42	35				299,312>313
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。南半分が切られているので形状は推定した。														
137	313	14住西城	五角形	スリ鉢状	外縁	円形	平底	85×68	55×57	43				314>310
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
136	304	14住西城	隅丸方形	スリ鉢状	外縁	円形	平底	100×90	76×60	98				
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。北壁にピットがあり、切っている。														
137	314	14住西城	不整形円形	タライ状	外縁	不整形円形	平底	84×36	65×24	22	1			
壁・床ともにやや軟弱。床面中央に小穴径15cm深さ12cmがある。出土遺物はない。														
137	316	14住西城	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	148×143	122×112	115				317>320
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。														
137	317	14住西城	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	118×95	83×46	48			骨製器式	299>319
壁・床ともに堅く良好だが、土趾299に片方及び両切られている為、形状は推定である。出土土器は、陶器による楕円文の灰皿と紅銅文、陸奥文と赤銅文との組み合わせのものが多く、又、床面より黒耀石のチップが多く出土した。														
137	320	14住西城	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	118×111	102×82	48				299,317>320
壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。土趾の両端が、各々、土趾299、土趾317によって切られているので、形状は推定である。														

単独に検出された土坑

調査	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床高	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
22	22住東城	楕円形	タライ状	外縁	楕円形	平底	192×133	159×106	52			遺物	(土)204-63, 206-77	176>171
171	171	壁・床ともに堅く良好。遺物はない。床面より、黒色土(ローム状、炭化物含む)。壁にロームより上。その上に、暗褐色土(ロームブロック含む)、黒色土(ローム状、炭化物含む)の層になっており、配石は黒色土内にあった。配石は、全て自然石であり、西壁寄りに集中していた。												
192	172	壁・床ともに堅く良好。壁は外縁でいて、床面は丸底といつかかた形状を示している。出土遺物はない。												
22	22住東城	三角形	タライ状	外縁	三角形	平底	182×170	158×130	32				骨製1-Ⅱ式(石)212-96, 37	176>173
192	173	壁・床ともに堅く良好。一部西壁が、土趾176に切られ欠ける。出土土器は、口縁部で、粘土を土すきにはりつけたものや、竹管で製した、黒管を嵌めたものが多い。石製は、磨石及び紐打器両用のものが1点、鏡用石が1点出土。												
25	25住西城	ひし形	スリ鉢状	外縁	ひし形	平底	135×120	111×98	58				骨製器式、(土)206-78	
195	174	壁・床ともに堅く良好。出土土器は、紅銅文と直線による楕円文、赤銅文と黒管文の組み合わせのものが多く、												
25	25住西城	楕円形	タライ状	外縁	楕円形	平底	162×94	130×53	50				骨製1-Ⅱ式	
195	175	壁・床ともに堅く良好。出土土器は、黒文陸奥とヘラ先刺突(陸奥の両側)、黒管の区画と紅銅文の区画、黒銅文に沈んだ黒管文等を組み合わせたものが窺われる。												
22	22住東城	円形	スリ鉢状	外縁	円形	平底	138×133	109×103	20				骨製器式	176>171, 173
192	176	壁・床ともに堅く良好。出土土器は赤銅文と直線の組み合わせのものが多く、												
22	22住東城	三角形	タライ状	外縁	三角形	平底	190×126	156×102	27					173>177
192	177	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。西壁は土趾173によって切られている為、形状は推定した。												
25	25住西城	円形	段状	直壁	円形	平底	235×215	184×158	84					(土)204-66-67
193	180	壁・床ともに堅く良好。床面に、黒色土が堆積し、その上に、高さ10-15cmの厚さで、北壁寄りに堆積していた。その上に、口縁がやや上向きの形で、頸部可能なほぼ空型の土器が多数検出されていた。又、床面より黒色土中にかけて、計9個の自然石が置かれていた。壁土の両端は、炭化物が多く検出された。土器製造過程の可能性も考えられる。												
25	25住西城	円形	スリ鉢状	外縁	円形	平底	130×135	103×96	60					
195	182	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
27	27住西城	楕円形	タライ状	外縁	楕円形	平底	130×102	92×54	38					
195	189	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
30	30住西城	楕円形	スリ鉢状	外縁	楕円形	平底	90×79	58×46	50					
195	318	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												

2 土壌の形状の分類

ここでは、土壌の検出区域を、住居址内・住居址接触、住居址周辺・単独に分け、さらに、Ⅰ群（円形に含まれるもの）Ⅱ群（角形に含まれるもの）Ⅲ群（Ⅰ・Ⅱ群に含まれないもの）に分け、類は、平面・床面形、床面、断面形、壁の組合せにより、Ⅰ群ではA₁～A₆、B₁～B₅、C₁～C₅、D₁～D₆、Ⅱ群では、E₁～E₃、F₁～F₅、G₁～G₄、H₁～H₅、Ⅲ群ではI₁・I₂と類別し、その各類を、a種—口径が60cm以下、b種—61cm～100cm、c種—101cm～140cm、d種—141cm～180cm、e種—181cm以上として、分類した。

区域	群	種	平・断面形	床面	断面形	壁	口径	土壌No.	区域	群	種	平・断面形	床面	断面形	壁	口径	土壌No.								
住居址内・住居址接触	Ⅰ	A ₁	縦円形	平面	スリ線状	外壁	a	60cm以下	206	住居址内・住居址接触	Ⅰ					c	101-140	143							
							b	61-100	183, 197, 210, 203							e	181-	11, 115, 141, 158							
							c	101-140	192, 214, 271, 260,																
							d	141-180	66, 204																
							e	181-																	
							a	60cm以下	12, 43, 125, 153, 123, 244, 281, 308		住居址内・住居址接触														
	b	61-100	4, 26, 29, 35, 37, 52, 57, 62, 96, 102, 308, 328, 117, 127, 133, 145, 151, 162, 186, 219, 218, 268, 277, 282, 285, 318, 216(縦壁), 227(-), 27(-)																						
住居址周辺	Ⅰ	A ₁	縦円形	平面	スリ線状	外壁	a	60cm以下	12, 43, 125, 153, 123, 244, 281, 308	住居址周辺		Ⅰ					c	101-140	11, 14, 22, 156, 183, 187, 190, 264, 293, 45(縦壁)						
							b	61-100	4, 26, 29, 35, 37, 52, 57, 62, 96, 102, 308, 328, 117, 127, 133, 145, 151, 162, 186, 219, 218, 268, 277, 282, 285, 318, 216(縦壁), 227(-), 27(-)																
	住居址内・単独	Ⅰ	A ₂	縦円形	平面	フタイ状	外壁	a	60cm以下			住居址内・単独	Ⅰ					b	61-100	27, 58, 79, 87, 93, 94, 104, 112, 124, 128, 132, 150, 159, 164, 165, 223, 236, 281, 282, 276, 132(縦壁), 135(縦壁), 144(縦壁)					
b								61-100	44, 203																
d								141-180	307, 3(縦壁)																
e								181-	2, 284																
住居址内・単独		Ⅰ	A ₃	縦円形	平面	点状	外壁	a	60		住居址内・単独		Ⅰ					c	101-140	21, 42, 43, 63, 86, 120, 246, 254, 199					
	b							61-100	28, 42, 71, 118, 127, 146, 242, 249, 268																
	c							101-140	21, 42, 43, 63, 86, 120, 246, 254, 199																
	d							141-180	5, 65, 88, 100, 175, (縦壁)																
	住居址内・単独	Ⅰ	A ₃	縦円形	平面	点状	外壁	a	鉄釘なし			住居址内・単独	Ⅰ					b	61-100	22, 56, 42, 64, 142, 191(縦壁), 19(縦壁)					
e								181-	171																

区域	群	種	平 断面形	断面 形状	壁 種	口 径	土留	区域	群	種	平 断面形	断面 形状	壁 種	口 径	土留				
住居地区 地区、集積	I	B1	円形	平直	入り組み 付	外積	a 101~140 53	住居地区周辺	E	E1	隅丸方形	平直	直積	外積	b 61~100 228(直積、円筒形)				
							b 61~100 228(直積、円筒形)	住居地区周辺							c 101~140 260				
住居地区内 集積	C1	不整形内形	平直	入り組み 付	外積	a 61~100 201, 200, 205, 202	住居地区周辺	E1	隅丸方形 (隅丸)	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 201(円筒) 204(不整形内形) 205(円筒)						
						b 61~100 201, 200, 205, 202	住居地区内						c 101~140 260(直積)						
						c 101~140 198, 200	住居地区周辺						d 61~100 19, 245, 260, 210						
						d 141~180 212	住居地区内						e 201~240 70, 91						
住居地区内	C1	不整形内形	平直	入り組み 付	外積	a 61~100 19, 245, 260, 210	住居地区周辺	E1	隅丸方形 (隅丸)	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 19, 245, 260, 210						
						b 61~100 19, 245, 260, 210	住居地区内						c 60m以下 238						
						c 201~240 70, 91	住居地区周辺						d 141~180 275,						
						d 141~180 275,	住居地区内						e 181~ 85, 95						
住居地区周辺	C1	不整形内形	平直	入り組み 付	外積	a 181~ 194	住居地区周辺	F1	三角形	平直	入り組み 付	外積	c 101~140 290						
						d 61~100 30	住居地区内						b 61~100 122, 126						
住居地区内	C1	不整形内形	平直	入り組み 付	外積	e 101~140 9, 243	住居地区周辺	F1	三角形	平直	入り組み 付	外積	c 101~140 186, 217						
						b 141~180 147, 207	住居地区内						d 141~180 71, 226, 287(直積)						
住居地区内	C1	不整形内形	平直	入り組み 付	外積	a 181~ 106	住居地区周辺	F1	三角形	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 204						
						d 141~180 147, 207	住居地区内						d 141~180 268						
住居地区周辺	C1	不整形内形	平直	入り組み 付	外積	a 141~180 24, 47, 48, 76, 78, 82	住居地区周辺	F1	三角形	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 219						
						a 181~ 38, 60, 68, 226, 267	住居地区内						c 181~ 277						
住居地区内 集積	C4	不整形内形 (隅丸)	平直	入り組み 付	外積	a 101~140 211, 236	住居地区周辺	F1	三角形	平直	入り組み 付	外積	a 60m以下 F 305						
						d 141~180 287	住居地区内						b 61~100 204						
住居地区周辺	C4	不整形内形 (隅丸)	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 15	住居地区周辺	F4	三角形	丸底	直積	外積	a 181~ 172						
						c 101~140 89	住居地区内						G1	円形	平直	入り組み 付	外積	c 101~140 127, 174, 207	
						d 141~180 261	住居地区周辺						G8	円形	平直	入り組み 付	外積	a 101~140 75	
						e 181~ 90	住居地区内						G9	隅丸方形	平直	入り組み 付	直積	b 61~100 28	
住居地区内	C1	不整形内形 (隅丸)	平直	入り組み 付	外積	a 101~140 124(直積)	住居地区周辺	G4	不整形内形	平直	入り組み 付	外積	a 101~140 101						
						b 61~100 101	住居地区内						G2	不整形内形 (隅丸)	直積	直積	b 61~100 266		
住居地区内	C1	不整形内形 (隅丸)	平直	入り組み 付	外積	a 61~100 101	住居地区周辺	H1	五角形	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 325						
						a 101~140 138	住居地区内						H2	五角形	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 204	
住居地区内	D1	矩形	平直	入り組み 付	外積	a 60m以下 225	住居地区周辺	H3	五角形	平直	直積	外積	b 61~100 207						
						b 61~100 222, 103	住居地区内						H4	五角形	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 196(円筒)	
住居地区内	D2	矩形	平直	入り組み 付	外積	a 101~140 54	住居地区周辺	H4	五角形 (隅丸)	平直	入り組み 付	外積	a 101~140 178(不整形)						
						d 141~180 262	住居地区内						b 61~100 214(円筒)						
住居地区内	D3	矩形	平直	入り組み 付	外積	a 181~ 248	住居地区周辺	H4	五角形 (隅丸)	平直	入り組み 付	外積	a 101~140 228(六角形)						
						b 61~100 212(直積)	住居地区内						b 61~140 179						
住居地区内	E	E1	隅丸方形	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 191	住居地区周辺	E2	不整形	平直	入り組み 付	外積	a 181~ 270					
							a 101~140 301	住居地区内						E2	不整形	平直	入り組み 付	外積	b 61~100 125, 140, 130, 181, 247, 274, 266, 304
							d 141~180 282	住居地区内											c 101~140 288(六角形)
							a 60m以下 280, 282	住居地区内						d 61~100 98, 110, 152, 170, 237, 151(直積) 189(直積)	住居地区内	d 141~180 154			

3 土坑出土土器 (挿図・番号例 197.11-12 は、第197図-11番土坑12号出土を意味する)

種別	番号	形状	部位	比定形式	色		胎	土
					裏	裏		
198	1-1	深鉢	底 部	管利Ⅱ式	黄褐色	暗褐色	荒い長石・石英	施文→縦位ヘラ削り→懸垂文貼付→斜線文→沈線磨消 裏面→斜位ヘラ磨き上げ (単部)
*	2-1	*	胴 部	管利Ⅱ式	茶褐色	*	*	施文→縦位ヘラなどで→沈線磨消文・結節縄文 裏面→縦位ヘラ削り
*	3-3	*	胴上半部	*	暗茶褐色	茶褐色	荒い 長石・石英・雲母	施文→縦位ヘラなどで→隆帯横走・懸垂文貼付→列点文→結 節縄文→沈線磨消 (施文単位は7単位) 裏面→指などで。径24cm, 胴径18cm, 現器高19cm,
*	4-3	*	胴上半部	*	茶褐色	*	*	施文→縦位ヘラなどで→隆帯横走・列点文→結節縄文→長横 門文・磨消 (口縁・施文単位は、6単位) 裏面→指などで。口径24cm, 胴径15cm, 現器高26cm
*	5-3	*	口縁部 (凹縁付)	*	暗茶褐色	*	*	施文→縦位ヘラなどで→隆帯区画貼付→單筋斜縄文 裏面→縦位ヘラなどで
*	6-5	*	胴上半部	*	*	暗茶褐色	*	施文→縦位ヘラなどで (口縁部) 縦位・斜位 (胴部) →S字 状突起貼付→結節縄文→二重横門文 裏面→縦位ヘラなどで。横定口径28cm, 同胴径27cm, 現器高 24cm, 施文単位→口縁部4~5単位, 胴部12~13単位
*	7-7	*	口縁部	*	暗茶褐色	淡茶褐色	*	施文→縦位ヘラ磨き→運込の隆帯横走貼付→結節縄文 裏面→縦位ヘラなどで。横定口径24cm。
199	8-8	*	胴上半部	*	*	暗茶褐色	*	施文→運込隆帯横走・懸垂文貼付→列点文→結節縄文→沈 線磨消・指などで成形 裏面→横ヘラ磨き (口縁部), 横位ヘラなどで (胴部) のり 状こげ付着・胴下部は、あばた状に剥 施文単位→口縁部5単位, 胴部9単位, 口径19.5cm
*	9-9	無脚盤	胴上半部	管利Ⅱ式	淡茶褐色	淡茶褐色	*	施文→ヘラなどで→流文突起・運込隆帯・横走隆帯貼付→波 状隆帯 (ヘラ先削突) →沈線磨消→未施文 裏面→縦位ヘラ磨き。口径16cm, 胴径19cm, 現器高18cm
198	10-12	(深鉢)	胴 部	管利Ⅱ式	茶褐色	*	*	施文→ヘラなどで→懸垂文→結節縄文→沈線磨消。裏面などで
*	11-12	*	*	*	*	*	*	施文→ヘラなどで→運込横門文→互形斜突。裏面などで。
198	12-20	*	*	管利Ⅱ式	淡茶褐色	*	*	施文→ヘラなどで→運込流文貼付→横形未施文 裏面→ヘラなどで。
*	13-21	深鉢	*	*	赤褐色	赤褐色	荒い長石・石英	施文→隆帯区画文貼付→波状隆帯 (ヘラ先削突) →粘上結 貼付→ヘラ先磨目→ヘラ磨き→沈線磨消
199	14-22	(深鉢)	胴 部	管利Ⅱ式	茶褐色	暗茶褐色	荒い長石・石英	施文→隆帯区画文貼付→波状隆帯 (ヘラ先) →沈線U字文
*	15-35	深鉢	*	管利Ⅱ式	淡褐色	暗褐色	*	施文→隆帯貼付→列点文→ヘラ磨き
*	16-35	*	*	管利Ⅱ式	淡褐色	暗褐色	*	施文→ヘラ磨き→結節縄文→沈線磨消文
200	17-39	*	*	*	*	*	*	施文→ヘラなどで→隆帯横走・懸垂文貼付→沈線同心円文・ 流線文。裏面→ヘラなどで。
199	18-40	(*)	口縁部	加管利EⅡ式	暗茶褐色	茶褐色	*	施文→ヘラ磨き→單筋斜縄文→ 压痕文・波文・横門文→ 縄文磨消。裏面→ヘラ磨き。
*	19-22	()	底 部	()	淡褐色	暗褐色	*	施文→ヘラなどで。裏面→指などで。
*	20-43	深鉢	口縁部	管利Ⅱ式	茶褐色	暗茶褐色	*	施文→ヘラ磨き→隆帯流文。裏面→ヘラ磨き。
*	21-43	(深鉢)	胴 部	管利Ⅱ式	淡褐色	暗褐色	*	施文→ヘラなどで→單筋斜縄文→沈線流文。裏面→ヘラなどで
*	22-46	*	*	管利Ⅱ式	暗茶褐色	暗茶褐色	*	施文→ヘラなどで→結節縄文→沈線磨消文→縄文磨消。
*	23-46	*	*	管利Ⅱ式	茶褐色	*	*	施文→ヘラなどで→結節縄文→沈線磨消文→縄文磨消。
200	24-47	深鉢	口縁部	管利Ⅱ式	*	淡茶褐色	*	施文→波状隆帯口縁→隆帯区画文→竹管刺突文。
*	25-48	*	*	加管利EⅡ式	*	*	*	施文→口縁ヘラ磨き→沈線区画文→單筋斜縄文。
*	26-51	*	胴 部	管利Ⅱ式	黄褐色	灰褐色	*	施文→ヘラなどで→隆帯横走・懸垂文→波状多施文。
*	27-52	(深鉢)	底状突起	管利Ⅰ式	淡茶褐色	淡茶褐色	*	施文→底状突起→隆帯X字状文・指子状文貼付→ヘラ先運 込斜突文・刻目文
*	28-55	深鉢	口縁部	管利Ⅱ式	茶褐色	淡褐色	*	施文→ヘラ磨き→ヘラ玉。底部同心円文。
*	29-60	*	*	*	暗茶褐色	淡茶褐色	荒い長石 ・石英・雲母	施文→指などで→流化した粘上結流文貼付→單筋斜縄文→沈 垂文→荒いヘラ磨き→縄文磨消。 裏面→縦位ヘラ磨き。
*	30-60	*	*	加管利EⅡ式	*	淡褐色	大粒の長石・石英	施文→指などで→流化した粘上結流文貼付→單筋斜縄文→沈 線U字状文→縄文磨消。裏面→指などで。
*	31-60	*	*	管利Ⅱ式	茶褐色	*	荒い長石・石英	施文→隆帯流文貼付・山形口縁→隆帯区画文→斜縄文。

種別	番号	形状	部位	比定型式	色		胎土	特 徴	
					裏	面			
202	32-73 (深鉢)	胴部	管利Ⅱ式	淡茶褐色	淡褐色	・	・	陶文→隆帯懸垂文→結節縄文→沈線で縄文磨消。	
	33-75 浅鉢	底面	管利Ⅱ以降	暗赤褐色	・	・	・	陶文→ヘラ磨き→沈線文。裏面→ヘラなどで。	
	34-75 (深鉢)	胴部	管利Ⅱ一式	淡茶褐色	・	・	・	陶文→八字状隆帯懸垂文→ヘラ先削突文→削縄文。	
	35-77 深鉢	口縁部	・	暗茶褐色	茶褐色	・	・	陶文→隆帯状突起貼付→隆帯帯隅文→結節縄文→指などで。裏面→指などで。	
	36-77 (深鉢)	胴部	管利Ⅱ式	茶褐色	淡褐色	・	・	陶文→ヘラなどで→結節縄文→隆帯帯懸垂文→縄文磨消。	
	37-77	・	・	・	茶褐色	・	・	陶文→ヘラなどで→隆帯帯懸垂文→結節縄文→縄文磨消。	
	38-77	・	・	・	・	・	・	陶文→ヘラなどで→隆帯帯懸垂文貼付→結節縄文。	
	39-77	・	・	()	・	・	・	陶文→表面縦位ヘラ磨き。裏面横位のヘラなどで。	
	40-77	・	・	()	暗褐色	淡褐色	・	・	陶文→表面縦位ヘラ磨き。裏面横位のヘラなどで。
	41-78 深鉢	口縁部	・	茶褐色	・	・	・	陶文→縦位ヘラ磨き→口唇部ヘラ先、割目→沈線文。	
42-79 (深鉢)	胴部	管利Ⅰ～Ⅱ	淡褐色	・	・	・	陶文→ヘラまで→削縄文→平行沈線文。		
43-85	・	口縁部	管利Ⅱ式	淡褐色	・	・	・	陶文→ヘラ磨き→竹管突刺→沈線文→削縄文。	
44-85 (深鉢)	胴部	(管利Ⅱ一式)	淡褐色	暗褐色	・	・	・	陶文→ヘラなどで→削縄文。	
45-85 ()	・	管利Ⅱ式	・	・	・	・	・	陶文→隆帯縁走・懸垂文貼付→列点文→結節縄文→縄文磨消。	
46-85 ()	・	・	・	茶褐色	淡褐色	・	・	陶文→隆帯縁走・懸垂文貼付→結節縄文→沈線で縄文磨消。	
47-88 ()	・	・	・	・	茶褐色	・	・	陶文→遠近隆帯帯隅文貼付→結節縄文→沈線文。	
48-88	円盤	胴部片	(管利Ⅱ一式)	暗褐色	黄褐色	・	・	土製円盤と思われ、銅鏡文を施した胴部片を使用。	
49-89 深鉢	口縁部	管利Ⅱ式	茶褐色	淡褐色	・	・	・	陶文→隆帯隅文貼付→縦位条線文→沈線で条線磨消。	
50-89 (深鉢)	胴部	管利Ⅰ～Ⅱ式	淡褐色	・	・	・	・	陶文→ヘラなどで→削縄文→平行沈線文。	
51-105 深鉢	胴上半部	加管利Ⅱ式	・	・	・	・	・	陶文→ヘラなどで→沈線で横文・縦V字文→車筋彫刻文。	
52-105	・	中期末葉	暗褐色	茶褐色	・	・	・	陶文→ヘラ磨き→ヘラ先で焼成。液状・棒円・蛇行文隆帯。	
53-105	・	口縁部	加管利Ⅱ式	黄褐色	暗褐色	・	・	陶文→耳状突起貼付→縦位条線文→沈線で条線磨消。裏面→ヘラなどで。	
54-105	・	胴部	管利Ⅱ式	黒褐色	茶褐色	・	・	陶文→縦位ヘラ磨き→2条結節縄文→2重槽沈線文。	
55-105	・	胴上半部	・	暗茶褐色	黄褐色	・	・	陶文→ヘラなどで→削縄文・結節縄文→H字状沈線懸垂文+横文V字→縄文磨消。裏面→ヘラなどで。	
203	56-106 (深鉢)	胴上半部	中期末葉	黒褐色	淡褐色	・	・	陶文→ヘラ磨き→沈線横文・縦V字文→車筋彫刻文。	
57-145	無肩椀	底面	管利Ⅱ式	淡褐色	茶褐色	・	・	陶文→ヘラなどで→削縄文→沈線蛇行懸垂文。裏面→ヘラ磨き。	
58-145	深鉢	口縁部	管利Ⅱ式	淡茶褐色	茶褐色	・	・	陶文→ヘラなどで→隆帯縁走(口唇部)・溝文貼付→列点文→放射状条線文。裏面→ヘラなどで。	
59-145	・	胴部	・	赤褐色	暗褐色	・	・	陶文→ヘラなどで→はけ目状条線→遠近沈線文。裏面→おぼたけ状磨消。	
60-152	・	口縁部	管利Ⅱ以降	灰褐色	灰黄色	・	・	陶文→隆帯縁走・懸垂文貼付→ヘラ先で沈線・割目→縦の細い条線。裏面ともに、指などで。	
61-152	・	・	(管利Ⅰ～Ⅱ式)	茶褐色	黄褐色	・	・	整形→裏面ともにヘラなどで。	
63-153	・	丸胴体	管利Ⅱ式	茶褐色	暗茶褐色	・	・	陶文→ヘラ磨き→人体文状突起貼付(2単位)→連絡する縁走・溝文隆帯貼付→液状隆帯(ヘラ先削突)→上下・左右に条線文→隆帯両側、沈線整形。裏面→ヘラなどで。	
204	63-171	手提部深鉢	半胴体	管利Ⅱ式	赤褐色	茶褐色	・	陶文→手提部取付→M字状突起貼付→ヘラなどで→沈線長槽隅文→結節縄文。手提部上、ヘラ先削突文を施す。手提部文様に対し、裏側口唇部にM字状突起が付き形態上より、右手で持ち、左手で支える方法。	
203	64-178	深鉢	口縁部	・	淡黄色	淡黄色	・	陶文→ヘラなどで→遠近隆帯隅文貼付→結節縄文を渦状に施す。裏面→ヘラなどで。	
204	65-180	・	完形	・	淡茶褐色	淡褐色	・	陶文→ヘラ磨き→連絡する隆帯帯隅文・逆U字文・溝文(口縁部、一ヶ所のみ)貼付→溝文に連なる槽隅文に列点文→各隆帯を沈線で整形→隆帯結節縄文を施す。裏面→ヘラ磨き。	
204	66-180	深鉢	完形	管利Ⅱ式	茶褐色	淡茶褐色	・	陶文→ヘラ磨き→馬蹄状突起貼付(4単位)→連絡する隆帯日字状文・槽隅文・逆V字状隅文→各隆帯を沈線で整形→結節縄文を施す。裏面→ヘラ磨き。口径3.5cm、胴径17cm、器高46cm、底径8cm。	

舞踊	番号	形状	部位	比定型式	色		土	特 徴
					表	裏		
204	67-180	深鉢	完形	替利Ⅱ式	淡茶褐色	淡褐色	寛い長石・石英	施文→ヘラ削り→連結する隆帯横四文・H字状文・馬蹄状文貼付→各隆帯を沈線で整形。 裏面→ヘラ削り。口径22cm、胴径33.6cm、底径8cm、器高33.8cm
*	68-186	*	口縁部	*	暗黄褐色	淡黄色	寛い長石	施文→横位ヘラなどで口縁隆帯貼付→顔部に連結する横四文貼付→列立文→結節縄文→縄文磨消。 裏面→ヘラなどで。口径24cm、胴径33.6cm、底径9.5cm、器高55.2cm
*	69-188	(*)	胴部	*	暗茶褐色	淡褐色	*	施文→縦位ヘラなどで隆帯懸垂文貼付→ヘラ先でV字状文→結節縄文→縄文磨消。 裏面→横位ヘラなどで。
*	70-188	(*)	胴部	*	黄褐色	黄褐色	*	施文→ヘラなどで隆帯懸垂文貼付→結節縄文→懸垂文両側を沈線で整形→縄文磨消。 裏面→ヘラなどで。
*	71-193	円盤	胴部片	(替利Ⅱ→Ⅲ式)	*	*	寛い砂粒	土製円盤と思われ、沈線文を施した胴部片を使用。
205	72-254	深鉢	胴部	井戸尻床 →替利Ⅱ	淡黄褐色	暗茶褐色	*	施文→ヘラなどで→尙科文(H字文+縦位条線文)を施す。 裏面→ヘラなどで。
*	73-254	小型深鉢	底上半部	替利Ⅰ式	暗褐色	茶褐色	細かい長石	施文→ヘラなどで→変形蛇体文突起貼付→三条の横走連続竹管文(胴部と胴中央部)→縦位の平行沈線又を施す。 裏面→ヘラなどで。口径13cm、胴径10cm、現器高19cm
*	74-255	大型深鉢	胴部	*	淡赤褐色	淡黄褐色	寛い長石・石英	施文→ヘラなどで→変形トの字状隆帯を中心に、X字状文・帯目文・横く字状文を貼付→ヘラ先で、各隆帯文に刻突・刻目をつける→変形トの字状隆帯を指先でつまみ、爪先で押圧する→退化した人体文(帯目文+横く字状文)の左右に対照する斜沈線を施す。 裏面→ヘラなどで。胴径40.5cm、現器高35cm
*	75-303	*	片胴体	替利Ⅱ式	暗赤褐色	茶褐色	細かい長石	施文→ヘラなどで→早期縄文(縦位・斜位) 裏面→ヘラなどで。口径43cm、底径12cm、器高35cm
*	76-303	深鉢	ほぼ完形 (補綴欠)	替利Ⅱ→Ⅲ式	淡褐色	暗褐色	極めて細かい石粒	施文→ヘラなどで→期を早期縄文→沈線による連結渦文→逆V字状文→蛇行文を沈線で施す。口径22cm、底径8.2cm、現器高25.4cm
206	77-171	肥手部	半分	替利Ⅲ式	茶褐色	茶褐色	寛い長石・石英	施文→ヘラ削り→ヘラ先で刺突文を2条施し、頂きで連結する。
*	78-174	無脚盤	ほぼ完形 (補綴欠)	*	暗褐色	暗褐色	寛い長石	施文→ヘラ磨き→沈線による長横四文→3条結節縄文を縦転する。 裏面→ヘラ削り。胴径40cm、底径9.8cm、現器高43.6cm
*	79-254	(深鉢)	底部	替利Ⅰ式	赤褐色	*	寛い長石・石英 雲母	施文→ヘラ削り→粘土層による懸垂文貼付→横に短かい結土線貼付。 裏面→ヘラ削り。底径8.4cm、現器高11cm

(註) 「特徴」の欄で、結節縄文と記したのは、縦転結節縄文を意味し、「施文」としたのは、器面調整を含み、「→」で施文順序を示した。調整として、ヘラ削り→ヘラなどで→ヘラ磨き、指などで用いた。

4 問題提起

①「土壇」について

数多くの報告書、論文、資料の中で、「土壇」を意味する用語として、「ピット」「小竪穴」「土壇」「土壇」等、概念規定され得ない状態で使用され、混乱をきたしている状況である。「土壇」の性格・位置付等より、再度、概念が明確にされねばならないし、又して行かなければならないものとして、現代的にはあると思う。本稿では、「ローム層中に掘られた各形態・形状の竪穴」として扱った。

②「土壇」の時・空間的問題

本遺跡で検出された325か所（資料の上では、320か所）の土壇のうち、出土遺物がないものが、220か所で、全体の3分の2以上を占める為、又縄文時代中期末と奈良・平安時代の複合遺跡である為、土壇が、何号住に伴うものか、又、土壇の時期的関係等、総合的にまとめることが出来ない為、再度、他の場所をかりて検討したい。

しかし、個別的問題として、次の事が観察できた。

⑦土壇が掘られた空間と掘られない空間がある事により、その空間相互に、規則的な意図が感じられること。

④土壇群が想定され、比較的大きく、又、皿状の断面をもつ土壇を中心に、円形状を呈して群構成がされていること。

⑧土壇と土壇の切合が比較的多いこと。

⑨平面・床面形では、楕円形・円形、断面形では、スリ鉢形、床面は、平底、壁は、外傾、口径では、61cm～100cm以下のものが多いこと。

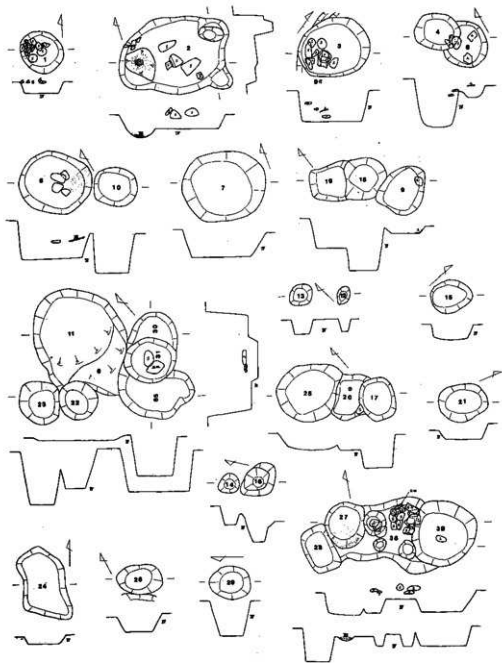
⑩性格がかなり観察できうる土壇—No.77・84・88・96・97・180があり、それらの土壇らは、土器・石器量が多い点、炭化物（木炭等ではなく、種子等の炭化物）が多い点、形状が他の土壇と違いフラスコ状に近く土器等の遺存状態が良好な点が特徴として挙げられる。

⑪配石を床面、堆積土中、開口部に伴うもの、石皿を伴うもの、立石を伴うもの貼床されたもの、焼土及び焼石を伴うものが他の多くの土壇の性格とは何らかの規則的意図により相違するものであること。

③出土遺物について

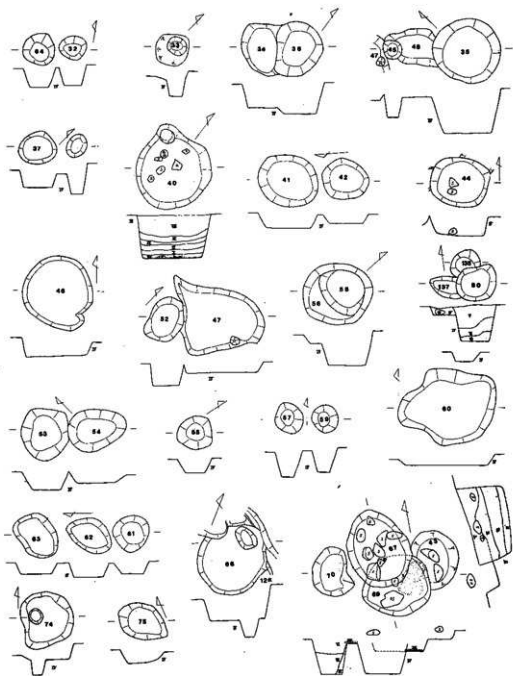
⑫出土土器の中で、結節回転縄文（本土壇では、縦転、円転が見られる）をもつ深鉢形土器の時間的位置付が、中期末葉の曾利Ⅱ～Ⅲ式に比定されそうであること。施文方法は、ヘラ削り・ヘラなで等をした上に、粘土紐で隆帯渦文や懸垂文として貼り付けその間に、1条～3条の結節回転縄文を施し、最後に、竹管かヘラ先で、各隆帯の両ふちを整形することにより、その縄文が磨り消されるという状態を呈している。

⑬石器については、打製石斧と並んで、石皿、磨石、敲打器等が多く、石皿は片面が多孔石となったもの、磨石と敲打器が両用されたものが見られる。（以上小原晃一）

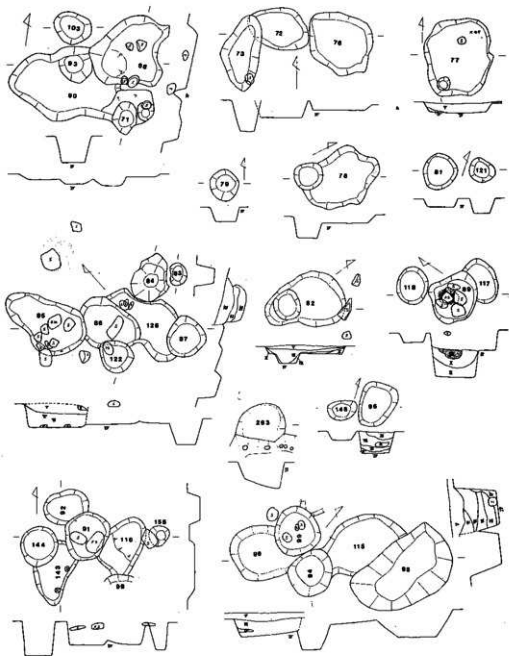


第188図 土坑実測図 (S=60)

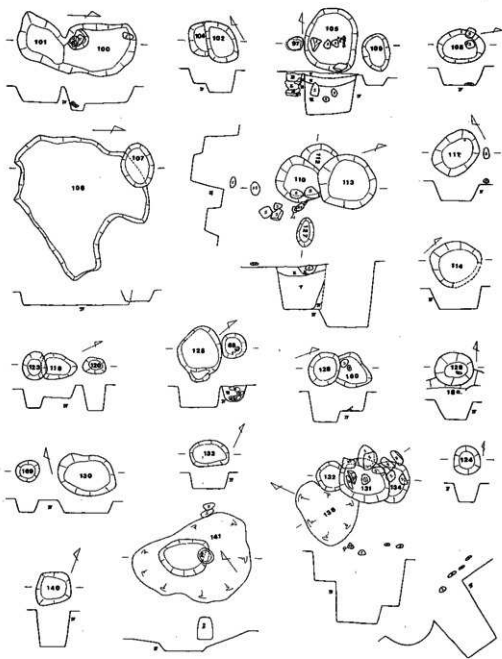
(註) Ⅰ～Ⅲ部層, Ⅳ～ローム層, Ⅳ～ロームより土, Ⅴ～暗褐色土 (ローム粒・炭化物含), Ⅳ～暗褐色土 (ローム粒, ロームブロック含), Ⅵ～黒色土 (ローム粒・炭化物含), Ⅶ～暗褐色土 (ローム粒・炭化物含), Ⅷ～黒色土, Ⅸ～ロームブロック
Ⅹ～炭化物層, Ⅺ～黄土層



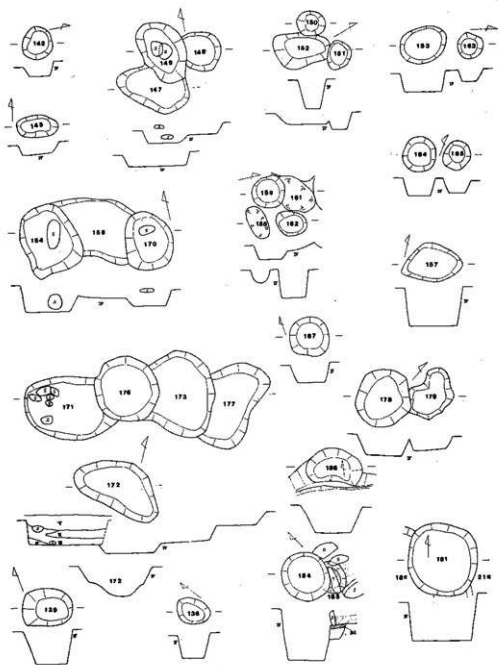
第189图 土壤类测图 (S-6)



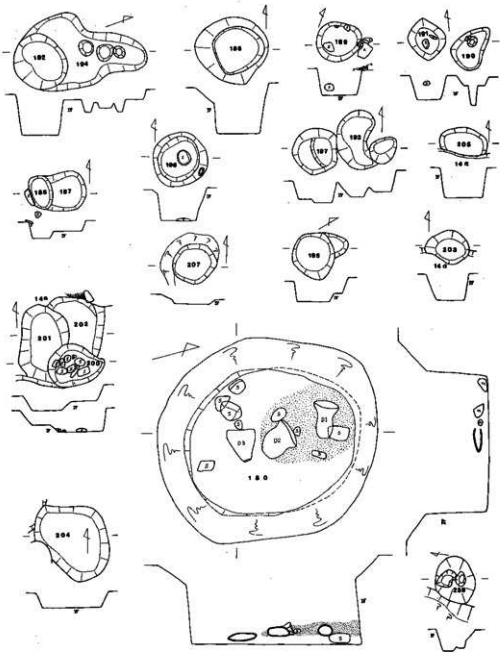
第190图 土坑实测图 (S-10)



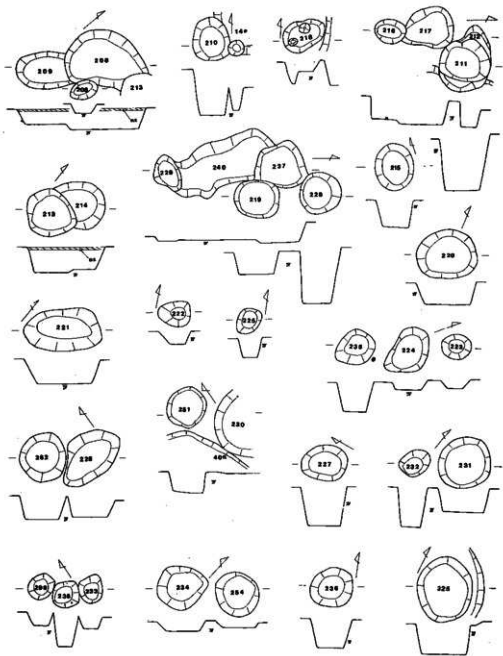
第191图 土坑实测图 (S-6)



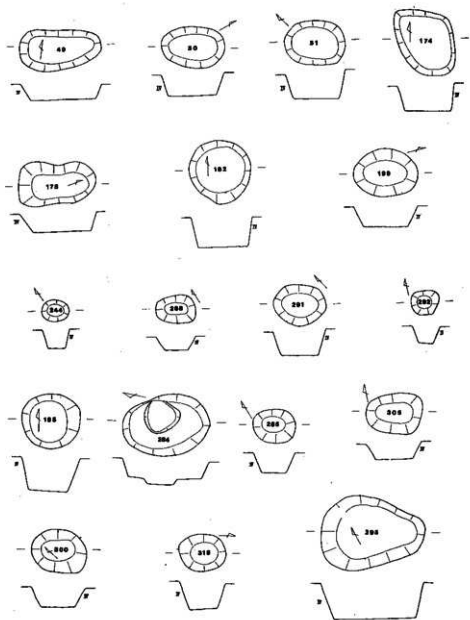
第192图 土埝实测图 (S-ab)



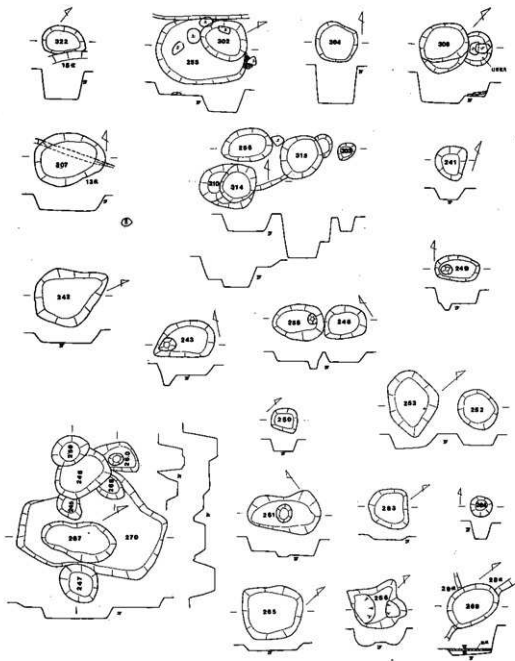
第193图 土城实测图 (S-站)



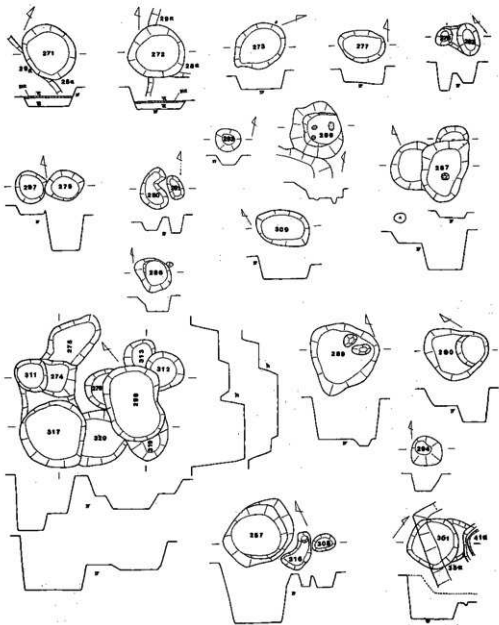
第194图 土坑实测图 (S-6)



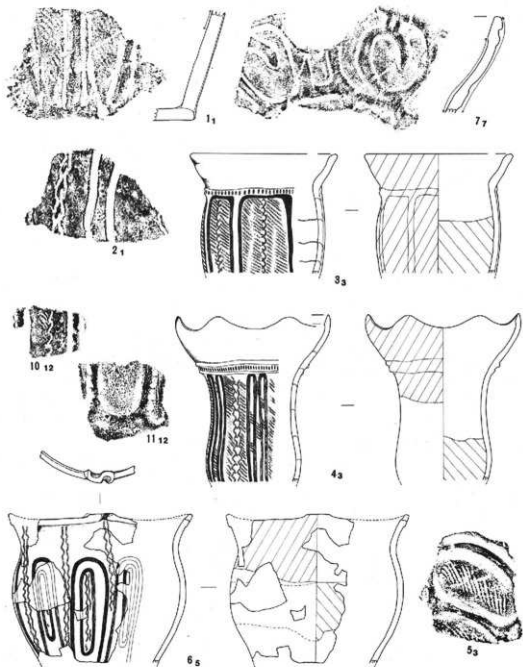
第195图 土坑实测图 (S=ab)



第196图 土城实测图 (S-由)



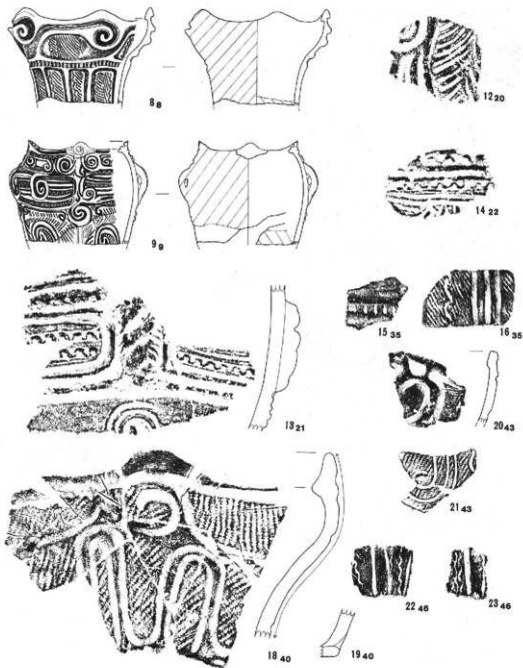
第197图 土城实测图 (S-66)



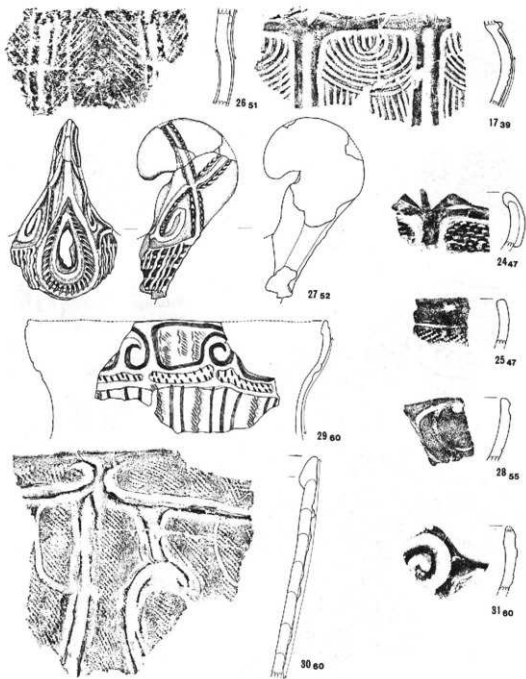
第198図 土坑出土土器 (3, 4, 6はS-10, その他はS-11)

(註) 実測図中、土器断面の | は、外面はすす、内面はおこげの付着状態を示す。

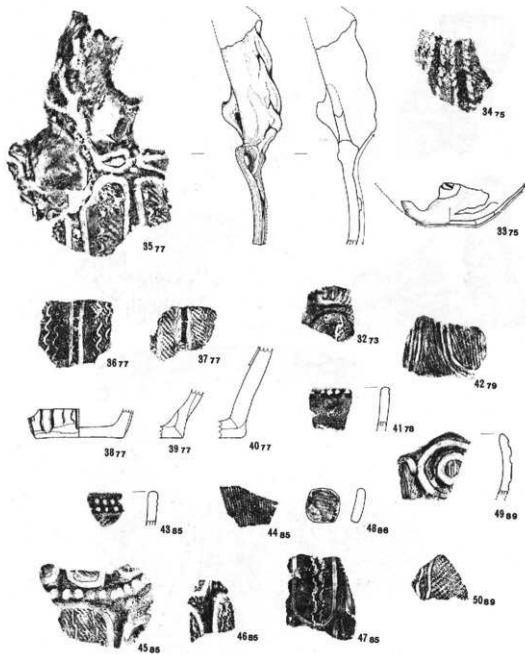
▨ は、すす、▧ はおこげを示し、中央より左が外面、右が内面を意味する



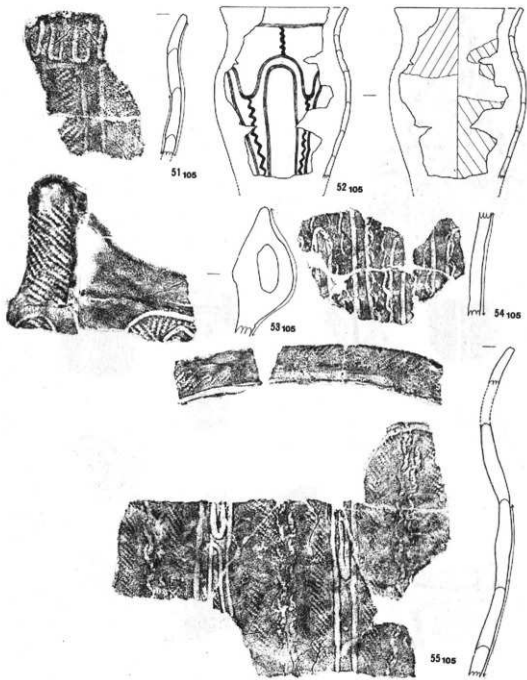
第199図 土坑出土土器 (8・9はS一才, その他はS一才)



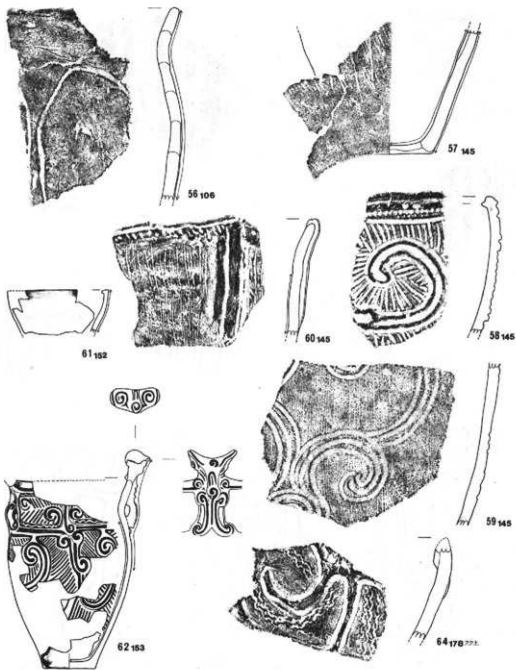
第200図 土城出土土器 (29のみS- $\frac{1}{4}$, その他はS- $\frac{1}{2}$)



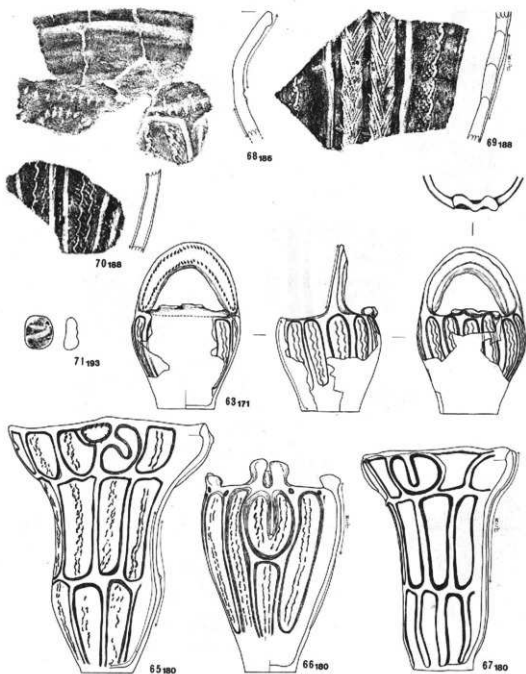
第201図 土城出土土器 (33のみS-十, その他はS-十)



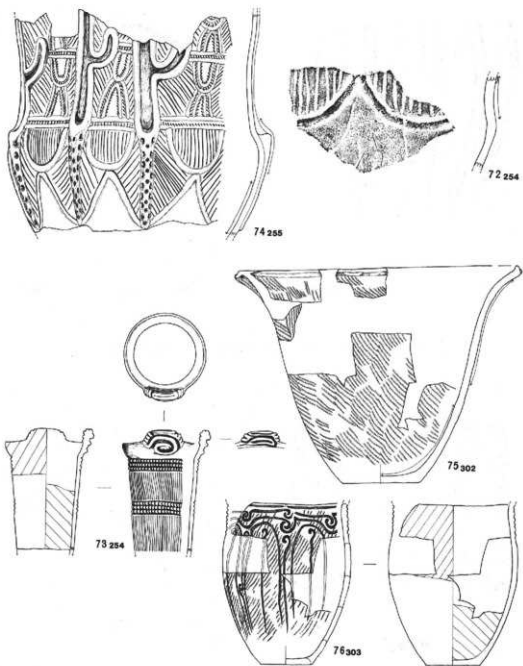
第202図 土城出土土器 (52のみS-1, その他はS-1)



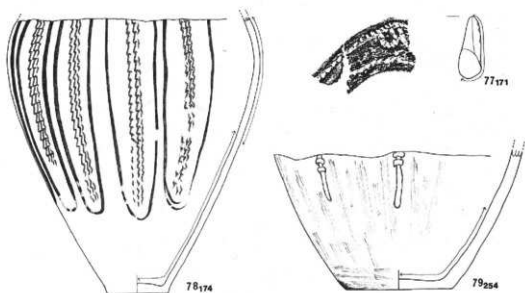
第203図 土坑出土土器 (61・62はS-1, その他はS-10)



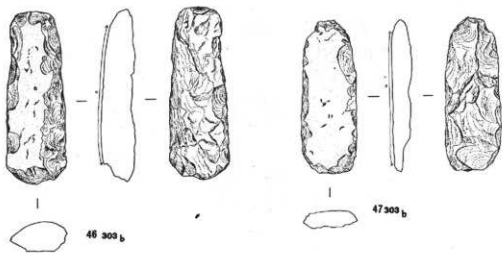
第204図 土城出土土器 (63・65~67はS一才, その他はS一才)



第205図 土城出土土器 (72のみS-十, その他はS-十)

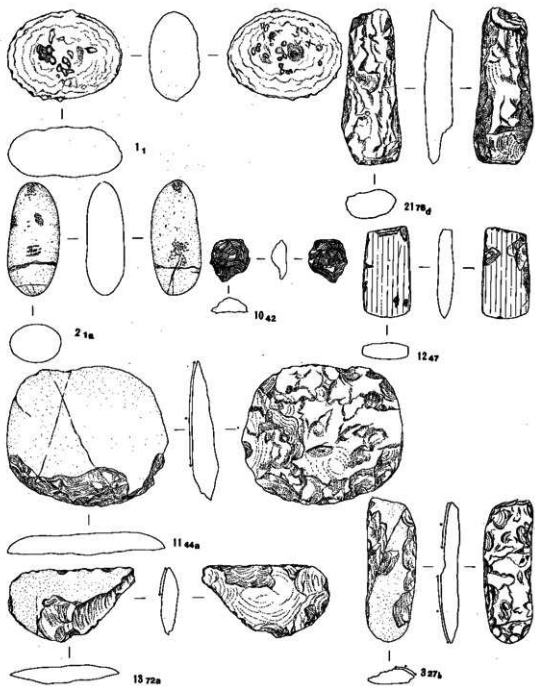


第205図 土城出土土器 (78のみS-1/2, その他はS-1/2)

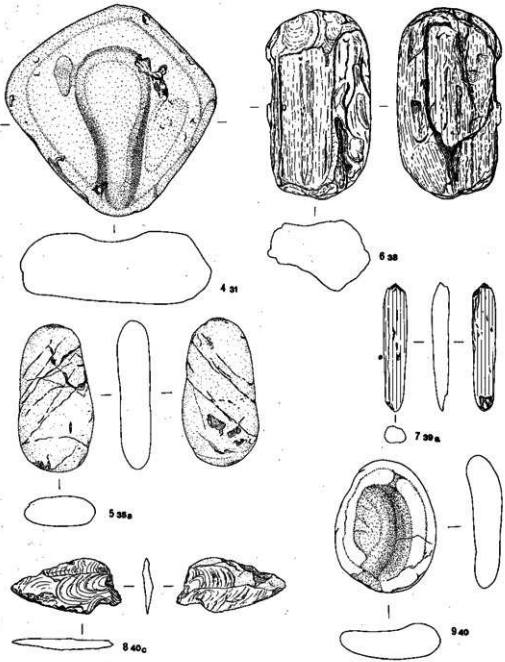


第207図 土城出土石器 (S-1/2)

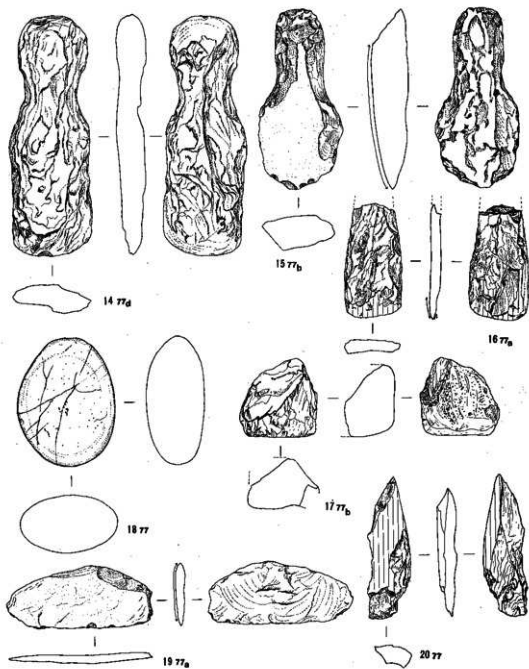
(註) 実測図断面図中、--は、自然面を意味する。



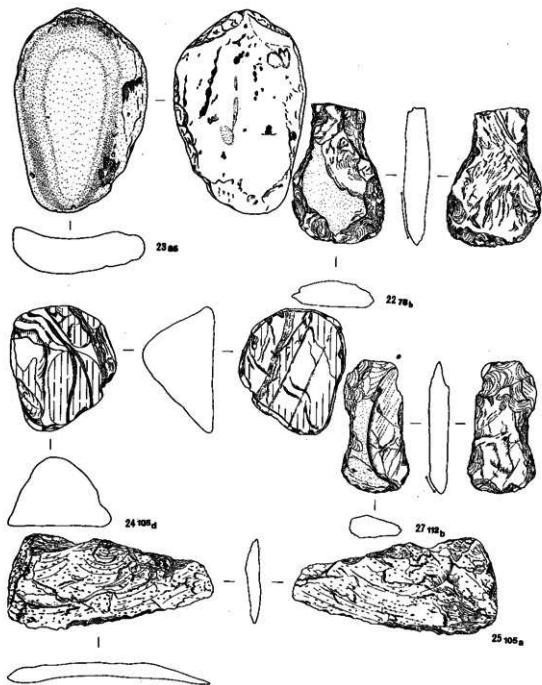
第208图 土城出土石器 (S-1)



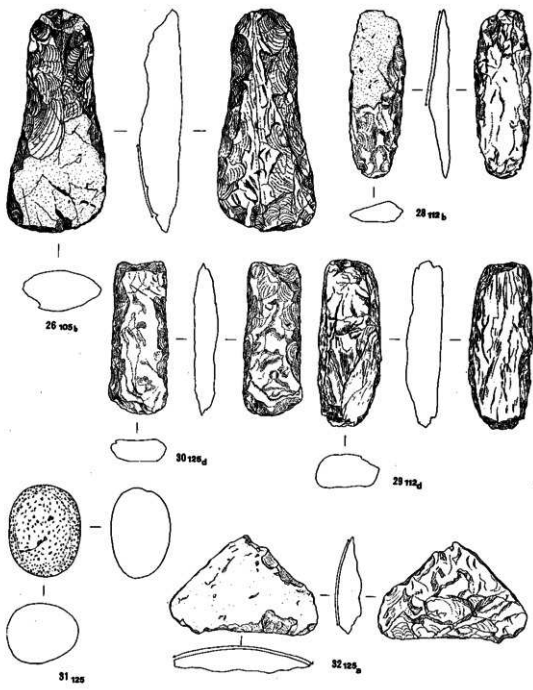
第209図 土坑出土石器 (4・6・9はS-1, 其他はS-1)



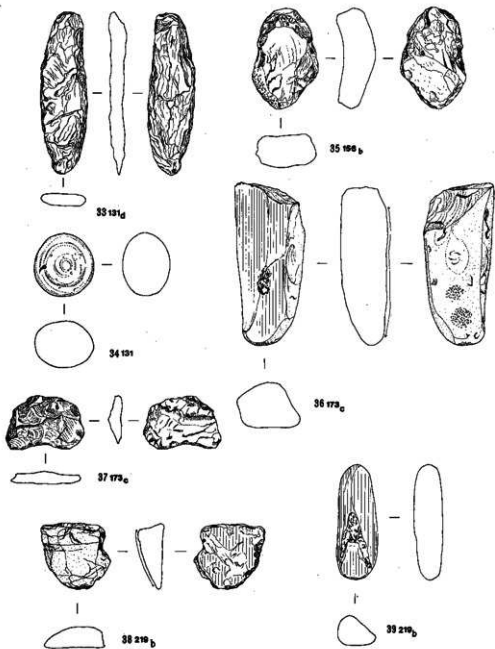
第210图 土城出土石器 (S-1)



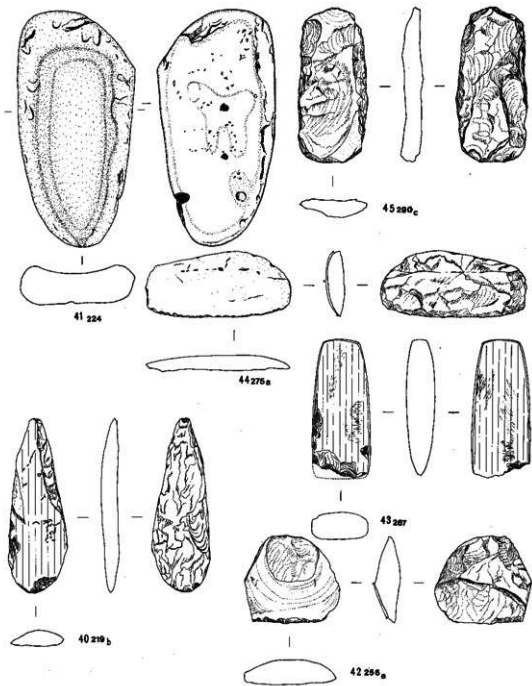
第211図 土坑出土石器 (23のみS-1, その他はS-1)



第212图 土城出土石器 (S-4)



第213圖 土城出土石器 (S-十)



第214図 土城出土石器(41のみS-オ, その他はS-オ)

5 炭化遺体出土の土坑 (第215図～218図)

今まで述べてきた土坑のなかで、特殊なものとして、炭化遺体を出土した土坑が4基ある。84, 88, 96, 97がそれである。これらの土坑は多くの土坑群の中に位置するもので、特別かけ離れたといった位置関係はない。4基の土坑は同一時代のものと考えられ、土坑中より縄文中期の土器の細片が出土していることからして、縄文時代中期のものであることは間違いないところであろう。96は精査の結果、栗並びに不明遺体はなく木炭のみであった。

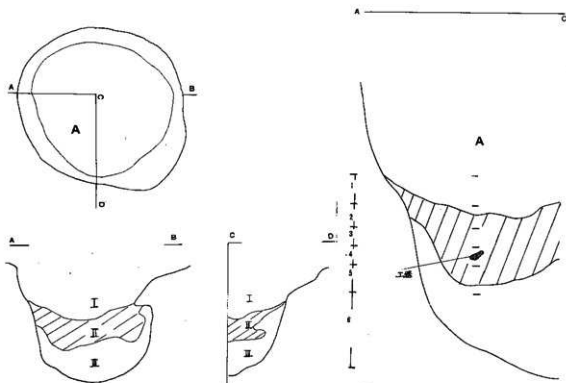
土坑の形状・炭化物の堆積状態は一様でない。

出土した炭化遺体は栗と不明遺体である。不明遺体については木の実説、パン状炭化物説両者あり、今だ明確となっていない。図版24—右上のように楕円形を呈している。同定は今後の作業に待ちたいと思う。

① 土坑84 (第215図, 図版22)

当土坑は第20住居の東にあり、土坑86, 126, 83に囲まれた状態である。平面形は95×85で楕円形に近い。底は丸底を呈し最も深い所で65cmを測る。壁は丸味を持ち一部袋状を呈している。

調査方法は土坑を4分割し、その1区(角)—A区のみを分層調査を行った。ボロボロで空



第215図 土坑84実測図 (S—a, 右断面図S—b)

気にふれるとすぐ壊れてしまうため、作業は非常に困難をきわめた。

土壌の層序はⅠ層—炭化物わずかに炭化物を含んでいる。Ⅱ層—炭化物層。Ⅲ層—暗褐色土で固くしまっており、炭化物はまったく検出されていない。となっており、第Ⅱ層中に炭化物が集中しており、塊状となっていた。出土した炭化物は表にみるとおり栗と不明遺体・木炭である。表にあらわしたものは土壌の約4分の1にあたるA区のもののみである。量が多く全体の精査はできなかったが、大体の見当はつくと思われる。

不明遺体一覧表にみるとおり、その重量は非常にバラついていることがわかる。単純に平均値をもって測ることは問題あるが目安として不明遺体総重量を平均値(257mg)でわってみると571個となり、土壌全体では2,300個体ほどのぼう大な個体数となる。

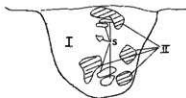
	絶対重量(g)						炭化物重量比 総炭化物 土総炭化物 × 100	炭化物中の クリ重量比 クリ 総炭化物 × 100	炭化物中の不明 遺体重量比 不明遺体 炭化物 × 100
	栗	不明遺体	木炭	総炭化物	土	土器片 (1)内は不明 遺体			
1	8.7	8.5	1.1	18.3	422	0	4.2	47.5	46.4
2	29.6	37.0	5.7	72.3	1,356	0	5.1	40.9	51.2
3	60.7	69.4	11.4	141.5	1,060	6.8(1)	11.8	42.9	49.0
4	15.5	28.7	4.1	48.3	792	29.2(1)	5.8	32.1	59.4
5	15.6	3.2	0	3.8	395	0	1.0	15.8	84.2
	115.1	146.8	22.3	284.2	4,025	96.0(2)	7.0	40.5	51.7
6	3,100								

土壌84—A区の堆積物比較表(重量1～5層は水洗後乾燥したものである)

① 土壌88(第216図, 図版23)

当土壌は土壌84の南西にあり、土壌125と接している。

平面形はほぼ円形で径60cmをはかる。底は九底でU字状の断面を呈している。土壌内は暗褐色土(Ⅰ層)が充満し、部分的に炭化物(Ⅱ層)が入っている。Ⅰ層中より細片のためはつきりしないが縄文式土器が6片出土している。



第216図 土壌88断面図(S-26)

炭化物の出土状態が層をなしていないため、炭化物を大きな塊で一括取り上げてある。

表にみるとおり、クリが非常に多い。不明遺体は総量で4.5g、個体数にして17.5個体分である。クリは完形に近い状態のものが多かったがほとんどがくずれてしまっている。

絶 体 重 量 (g)				炭化物中のクリ 重量比 $\frac{\text{クリ}}{\text{総炭化物}} \times 100$	炭化物中の不明遺体の 重量比 $\frac{\text{不明遺体}}{\text{総炭化物}} \times 100$
ク リ	不明遺体	木 炭	総炭化物		
95.0	4.5	2.3	101.8	93.3	

土城88出土炭化物比率表 (重量は水洗後乾燥したものである)

③ 土城96

当土城は第20号住居址の東、土城88の南西にあり土城146に接している。上部から多量の炭化物を検出したので、精査を行い、土城中の炭化物の選別を試みたが、クリ・不明遺体の炭化遺体はまったく検出されなかった。縄文中期の土器片が4片出土している。

④ 土城97 (第217図, 図版24)

当土城は第13号住居址竈の東側にあり、土城上部には封土がおおっていた。

平面プランは75×50cmの長楕円形を呈し、筒状をなしているが、壁は非常に凹凸が激しい。底はほぼ平らで、深さは92cmを測る。

土城の層序はⅠ層—炭化物層、Ⅱ層—ロームブロックⅢ層—ロームふらん土である。断面図にみるとおり、炭化物層は上部と下部とに大きく分かれその間にはロームブロックが間層として入っている。またロームブロック中に炭化物がブロックとしてはさまっている。ロームブロック中からもわずかであるが炭化物が検出されている。炭化物中より縄文中期土器片が4点出土している。

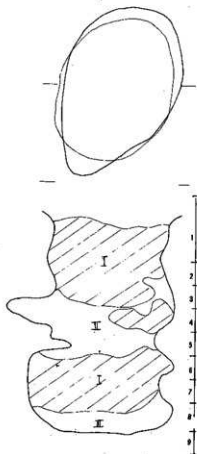
検出された炭化物はクリと木炭のみで、土城84・88年から検出された不明遺体はまったく検出されていない。

⑤ 出土炭化遺体と土城について

土城96を除いた3基の土城よりクリ・不明遺体の炭化遺体が発見されているが、推積状態など一様でない。

また土城84からはクリと多量の不明遺体が発見されているのに反し、土城97からは不明遺体の発見はなくクリのみであったことはどういうことであろうか。

はたしてこれらの炭化遺体が貯蔵されていたものであるかははっきりしない。土城97にみられる間層としての



第217図 土城97実測図 (S-14)

層 位	乾物重量 (g)						炭化物中のクリ重量比	
	* クリ	* 木炭	* 総炭化物量	* 土	石	土器片 ((内は個数)	$\left(\frac{\text{クリ+木炭}}{\text{土+クリ+木炭}} \times 100\right)$	$\left(\frac{\text{クリ}}{\text{クリ+木炭}} \times 100\right)$
1	148.7	4.6	153.3	2153.0	42.0(1)	2.0(1)	7.0	97.0
2	26.3	9.9	36.2	878.1	0	0	4.0	72.7
3	10.2	0.4	10.6	1410.5	0	0	0.8	96.2
4	16.1	0.6	16.7	1613.9	10.0(3)	0	1.0	96.2
5	24.3	6.8	31.1	1235.5	0	2.0(1)	2.5	78.1
6	47.4	5.6	53.0	1037.5	0	0	4.9	89.4
7	8.0	0.2	8.1	1288.4	0	6.0(2)	0.6	98.0
8	3.1	0.1	3.2	861.2	0	0	0.4	97.5
9	0.5	0.0	0.5	698.4	0	0	0.1	100.0
合計	284.6	28.2	312.7	11176.5	52.0	10.0	2.8	91.0
ローム中	18.2	1.5	20.7					92.8

土壇97堆積物比較表 (* 絶乾重量に換算した値である)

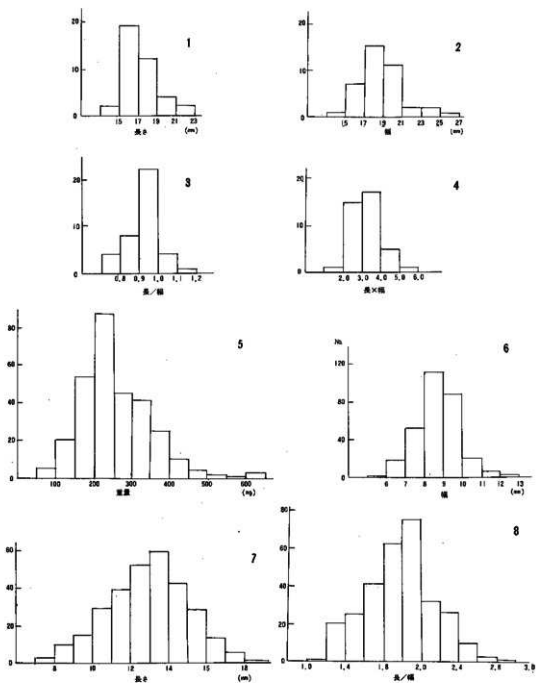
ロームブロックが上部のおおいとも考えられないこともないが、岡山県南方前池遺跡例^{※1}、山口県岩田遺跡例^{※2}、佐賀県坂の下遺跡例^{※3}からすると非常に簡単な気がする。しかし出土が住居址でなく、土壇しかもある程度まとまって出土していることからすると偶然でなくある目的をもっていったことは間違いない。

つぎにクリないし不明遺体が、土壇の中においてどのような状態のとき炭化するのであろうか。焼けるという現象が起きないと炭化するという事は考えられないのではなからうか。今回検出された土壇において焼土・焼石はなく焼かれた形跡はまったくない。このような状態で炭化遺体が発見されたことに非常に疑問を持っている。仮に焼かなくても炭化現象が起きるとすればまた別問題であるが、後述するが、皮をはいでゆでて乾燥状態で貯蔵した場合に起きるかということも一つの考え方である。この両者が否定されるとすれば、炭化したものがある目的によって埋めたとしか考えられないわけである。

クリのみについてみれば、皮がむかれしふ皮のついた状態で土壇から発見された例としては長野県有明山社大門北遺跡例^{※4}が知られている。今後の研究に待ちたい。

つぎに炭化遺体について述べることにする。

クリであるが、すべて先に述べたように皮はむかれしふ皮のついた状態で真黒である。これは有明山社大門北遺跡例をまったく同じ状態である。江坂輝弥氏は「日本の山野に自生する柴栗を茹でて洗皮まで剥いて陰干しにして乾燥したものを、籠にでも入れて天井裏に保存したものが、火災で屋根が焼け落ちた……………火災で焼け炭化したため今日まで残存したものであろう」と述べられている。洗皮はあるにせよ同様な保存加工が行われたものと考えられる。



第218図 クリ・不明遺伝体の個体変異図 (1~4はクリ, 5~8は不明遺伝体)

炭化遺体という性質上、生のものとの比較はできない訳であるが、第217図-1~4をみると、ほぼ一定したものであることがわかる。5~8に比べて変異差の少ないことがわかり不明遺体の同定、性格をみる上での基準になるのではないと思われる。土壌出土のすべてではないが、クリの完形遺体39個体によるものである。

不明遺体であるが、同定作業は行っているが今だ結論を得ていない。今後早急に作業を進めたいと考えているので、改めて報告したい。

不明遺体については、木ノ実説とパン状炭化物に類似したものという説のあることを併記しておきたい。

第218図-5~8にみるとおり、クリに比べて個体変異差が大きいことが知られる。重量であるが、土壌全部からのものではないが296個の完形遺体の平均値が257mgとなっている。しかしながら軽いものは100mg以下、重いものでは600mgを超えるものと非常にばらついている。長さは10~15mmに集中するがやはりかなりの変化がみられる。幅は7~10mmに集中する傾向がみられ、長さほどのばらつきはみられない。とりわけ重量にかなりのばらつきがみられ、また長さ、幅にも安定性のないことから考えるとパン状炭化物のたぐいとする説が大きいような気もしている。重量に関しては比重の問題もありこれを裏付けるものではないだろうか。

いずれにしろ、多量に見えられた不明遺体の同定作業をいそぎたい。(気賀沢進)

※1 ① 吉田格「縄文時代の生活社会-2 日常学生活用具」-日本の考古学Ⅱ縄文時代所収-昭和40年 河出書房新社

② 渡辺誠「縄文時代の植物植物食-考古学選書13」-昭和50年 雄山閣

③ 江坂輝弥「縄文の栽培植物と利用植物」-どるめんNo.13所収-昭和52年 JICC (ジック) 出版局

※2 ※1-②に同じ

※3 ※1-②・③に同じ

※4 中島豊明「第2節自然遺物」-「有明山社-長野県北安曇郡松川村有明山社大門北遺跡-緊急発掘調査報告-長野県考古学会研究報告書9」所収-昭和45年 長野県考古学会

※5 ※1-③に同じ

※6 炭化物の精査を依頼した小林喜美江氏が平安博物館の渡辺誠氏にサンプルの一部を送付したところ「はっきり断定できないが……………」とのことであった。

クリ完形遺体一覧表

No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅	No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅	No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅
1	15.5	16.0	0.97	2.48		14	16.8	15.8	1.02	2.54		27	16.9	18.2	0.93	3.07	
2	16.2	17.2	0.94	2.78		15	16.3	15.3	1.10	2.58		28	17.2	19.2	0.90	3.30	
3	15.8	16.0	0.99	2.52		16	17.0	18.0	0.98	3.16		29	19.4	23.8	0.82	4.61	
4	16.2	15.6	1.04	2.52		17	15.6	18.6	0.81	2.79		30	13.9	14.2	0.98	1.97	
5	16.2	16.4	0.99	2.65		18	18.0	20.0	0.92	3.66		31	16.8	20.9	0.80	3.51	
6	18.0	17.8	1.01	3.20		19	16.7	17.7	0.94	2.95		32	16.0	18.8	0.85	3.00	
7	18.0	20.8	0.87	3.74		20	15.0	17.0	0.91	2.61		33	18.0	18.4	0.98	3.31	
8	19.2	20.4	0.94	3.91		21	15.1	20.1	0.78	3.13		34	21.6	20.0	1.08	4.32	
9	15.4	18.3	0.84	2.81		22	16.4	20.4	0.79	3.28		35	20.4	22.6	0.90	4.61	
10	16.2	16.6	0.98	2.68		23	18.7	19.7	0.91	3.54		36	22.6	26.6	0.85	6.01	
11	15.8	20.3	0.78	3.20		24	18.4	23.4	0.81	4.39		37	20.0	22.1	0.91	4.42	
12	17.1	18.6	0.92	3.18		25	17.9	17.9	0.96	3.67		38	17.0	18.3	0.93	3.11	
13	16.8	18.0	0.93	3.02		26	14.2	19.2	0.77	2.84		39	17.8	18.4	0.97	3.27	

不明完形遺体一覧表

No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅	No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅	No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅
1	297	16.0	8.0	5.0	2.0	42	168	13.0	6.0	6.0	2.2	83	247	9.0	8.0	8.5	1.1
2	299	12.0	8.0	6.0	1.5	43	180	13.0	6.0	6.0	2.2	84	193	9.0	7.0	6.0	1.3
3	302	12.5	8.0	7.0	1.6	44	340	15.5	7.0	6.0	2.2	85	194	10.0	7.5	8.0	1.3
4	396	14.0	8.0	7.0	1.8	45	186	12.0	7.0	5.5	1.7	86	262	10.0	9.0	7.0	1.1
5	265	12.5	7.0	6.0	1.8	46	190	13.5	5.5	6.5	2.5	87	375	12.0	9.0	7.0	1.3
6	305	16.0	7.0	6.0	2.3	47	196	12.5	6.0	5.5	2.1	88	173	9.0	8.0	5.5	1.1
7	224	14.5	6.0	6.0	2.4	48	248	11.0	8.0	7.0	1.5	89	146	7.5	6.0	6.5	1.3
8	173	13.0	6.5	6.0	2.0	49	205	13.5	7.0	6.0	1.9	90	111	9.5	8.0	4.5	1.2
9	247	11.5	7.0	6.5	1.6	50	230	12.0	7.0	5.0	1.7	91	165	9.0	8.5	5.5	1.1
10	195	11.0	6.0	5.5	1.8	51	280	15.5	6.5	6.0	2.4	92	228	9.0	8.0	7.0	1.1
11	179	11.0	7.0	5.5	1.6	52	322	13.5	7.5	6.5	1.8	93	170	9.0	7.5	7.0	1.2
12	133	10.0	5.5	5.5	1.8	53	325	13.0	7.5	7.0	1.7	94	157	10.0	7.0	5.0	1.4
13	174	11.0	6.0	6.0	1.8	54	222	12.0	7.0	6.0	1.7	95	612	17.0	8.0	8.0	2.1
14	203	8.5	8.0	7.5	1.1	55	308	14.0	7.0	6.5	1.9	96	665	18.0	11.0	7.5	1.6
15	205	9.5	8.0	7.0	1.2	56	268	13.5	7.5	5.5	1.8	97	412	17.0	9.5	7.5	1.8
16	335	15.0	8.0	7.5	1.9	57	278	15.5	7.0	6.5	2.2	98	454	15.5	9.5	7.0	1.6
17	340	13.5	8.0	7.5	1.7	58	358	13.5	7.5	7.0	1.8	99	493	14.0	10.5	9.0	1.3
18	402	13.0	8.0	7.0	1.6	59	390	14.5	7.5	6.5	1.8	100	489	14.0	10.0	8.5	1.4
19	560	16.0	9.5	8.0	1.7	60	235	14.5	7.0	6.0	2.1	101	382	16.0	9.0	8.5	1.8
20	328	12.0	8.0	7.0	1.5	61	314	11.0	8.0	7.5	1.7	102	332	16.0	9.0	6.5	1.8
21	389	14.5	8.5	7.5	1.7	62	218	14.0	6.5	6.0	1.7	103	393	16.0	8.0	7.5	2.0
22	520	13.5	10.0	9.0	1.4	63	316	13.5	5.0	5.0	2.9	104	369	15.0	8.5	7.5	1.8
23	526	15.0	8.5	8.0	1.8	64	246	11.0	8.0	6.5	1.6	105	181	13.5	6.0	5.5	2.3
24	611	17.5	9.0	8.0	1.9	65	248	14.5	8.0	7.0	1.4	106	239	13.5	6.5	5.0	2.1
25	312	13.0	8.0	8.0	1.6	66	274	13.0	7.5	6.5	1.9	107	181	13.0	6.0	5.0	2.2
26	323	16.5	8.0	6.0	2.1	67	235	13.0	7.5	6.5	1.7	108	154	11.0	6.0	6.0	1.8
27	352	14.5	8.5	7.5	1.7	68	217	12.5	6.0	5.5	2.3	109	257	13.0	6.5	6.0	2.0
28	332	15.0	8.0	7.0	1.9	69	352	11.5	7.0	5.0	1.8	110	342	14.0	8.0	7.0	1.8
29	292	12.5	8.0	7.0	1.6	70	238	12.5	6.0	5.5	1.9	111	221	15.0	6.5	7.0	2.3
30	416	16.0	8.5	6.5	1.9	71	235	11.5	6.5	5.0	1.9	112	364	15.0	7.0	6.0	2.2
31	214	14.0	6.5	6.0	2.2	72	187	12.0	6.5	5.0	1.7	113	438	14.0	8.0	6.0	1.8
32	293	13.5	6.0	6.5	2.3	73	225	10.5	7.0	5.5	1.8	114	398	14.5	7.0	7.0	2.1
33	202	11.0	7.0	5.5	1.6	74	167	12.0	7.0	6.0	1.4	115	360	14.0	8.5	6.0	1.6
34	249	13.0	6.5	6.0	2.0	75	147	12.0	5.0	5.5	2.2	116	320	15.0	8.0	6.5	1.9
35	208	13.0	7.0	5.0	1.9	76	174	9.0	5.5	4.5	2.2	117	333	14.0	8.0	6.5	1.8
36	245	13.5	7.0	6.0	1.9	77	168	13.0	6.0	6.5	1.5	118	304	13.0	7.0	6.5	1.9
37	184	13.0	6.0	5.0	2.2	78	168	12.0	5.0	6.5	2.6	119	284	14.0	7.5	7.0	1.9
38	284	15.5	6.0	5.0	2.6	79	172	10.0	6.5	6.5	1.8	120	405	18.0	7.5	7.5	2.4
39	339	14.5	7.0	6.5	2.1	80	415	12.0	6.0	5.5	1.7	121	359	14.5	8.0	7.5	1.8
40	250	16.5	7.0	6.0	2.4	81	173	12.5	10.5	7.0	1.2	122	434	16.0	9.0	6.0	1.8
41	262	15.0	7.0	7.0	2.1	82	416	12.0	8.5	8.5	1.4	123	344	13.0	8.0	6.5	1.6

No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅	No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅	No.	重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	長/幅
124	360	15.0	8.0	7.0	1.9	183	249	11.5	8.0	7.0	1.4	242	115	8.0	7.5	6.5	1.1
125	205	12.0	7.0	6.5	1.7	184	209	9.0	8.0	7.5	1.1	243	144	8.5	8.5	7.0	1.0
126	239	11.0	7.0	6.0	1.6	185	192	11.5	8.0	7.0	1.4	244	90	7.0	5.0	7.0	1.4
127	303	11.5	7.5	7.0	1.5	186	253	11.0	8.5	6.5	1.3	245	224	13.0	7.5	6.5	1.7
128	242	13.0	7.0	6.0	1.9	187	222	11.0	7.5	6.5	1.5	246	213	14.0	8.0	6.0	1.8
139	330	13.0	7.0	7.0	1.9	188	242	11.0	8.0	7.0	1.4	247	292	14.5	7.5	6.5	1.9
130	317	13.0	7.0	6.5	1.9	199	167	10.5	7.5	6.0	1.4	248	289	13.0	8.5	7.0	1.5
131	378	14.5	8.0	7.5	1.8	190	268	10.0	9.0	8.0	1.1	249	318	15.5	7.0	6.0	2.2
132	215	14.0	6.5	5.5	2.2	191	158	10.5	8.0	8.0	1.3	250	222	12.5	7.5	5.5	1.7
133	224	13.0	7.0	6.5	1.9	192	132	8.0	7.0	5.5	1.1	251	195	14.5	7.0	6.0	2.1
134	228	13.0	7.0	6.5	1.9	193	112	8.0	7.0	5.5	1.1	252	235	12.0	7.5	6.5	1.6
135	235	14.0	7.5	6.0	1.9	194	157	10.0	7.0	6.0	1.4	253	310	13.5	7.0	6.5	1.9
136	256	13.0	7.0	5.5	1.9	195	153	7.5	8.0	7.5	0.9	254	235	12.0	7.0	6.5	1.7
137	298	13.0	8.0	6.5	1.6	196	220	10.0	8.0	6.5	1.3	255	213	12.5	6.5	6.0	1.9
138	147	12.0	6.0	6.0	2.0	197	89	9.5	6.0	4.5	1.5	256	300	14.0	6.5	6.0	2.2
139	247	13.0	7.5	7.0	1.7	198	92	9.5	6.0	5.0	1.6	257	284	15.0	6.0	6.5	2.5
140	430	16.0	8.0	7.0	2.0	209	57	9.5	4.5	4.0	2.1	258	222	12.5	7.0	6.0	1.8
141	371	13.5	8.0	6.5	1.7	200	98	11.5	5.5	5.0	2.1	259	251	14.0	7.0	5.0	2.0
142	341	14.0	7.5	6.0	1.9	201	122	10.5	5.0	5.0	2.1	260	175	13.0	5.5	5.0	2.4
143	439	13.0	8.5	8.0	1.5	202	161	11.0	6.0	6.0	1.8	261	138	12.0	5.5	5.0	2.2
144	280	14.5	7.5	6.0	1.9	203	299	13.0	7.5	7.0	1.7	262	263	12.0	9.0	8.5	1.3
145	232	12.5	6.5	5.5	1.9	204	325	15.0	8.0	6.5	1.9	263	245	11.0	7.5	7.0	1.5
146	239	13.0	7.0	6.5	1.9	205	286	12.5	9.0	7.0	1.4	264	222	10.0	8.0	7.0	1.3
147	190	11.5	7.0	5.5	1.6	206	337	15.0	8.5	6.5	1.8	265	173	11.0	8.0	8.0	1.4
148	188	11.0	7.0	5.0	1.5	207	330	13.0	9.5	7.0	1.4	266	226	10.0	8.0	7.0	1.3
149	244	12.0	8.0	6.0	1.5	208	454	16.0	8.5	7.0	1.9	267	139	8.0	7.5	6.5	1.2
150	212	11.0	7.0	6.0	1.6	219	387	15.0	8.5	7.0	1.8	268	117	8.5	7.0	6.5	1.2
151	207	11.0	6.5	6.5	1.7	210	241	17.0	8.0	6.0	2.1	269	362	18.5	8.0	6.5	2.3
152	174	11.5	5.5	5.5	2.1	211	241	13.0	7.5	6.5	1.7	270	260	15.5	6.5	5.5	2.4
153	218	10.5	7.0	7.0	1.5	212	203	13.0	7.5	6.5	1.7	271	317	15.0	7.0	6.0	2.1
154	225	14.5	6.5	5.0	2.2	213	267	12.5	7.5	5.5	1.7	272	244	15.0	6.0	5.0	2.5
155	177	14.5	6.5	7.0	2.2	214	245	14.0	8.0	7.0	1.8	273	342	15.5	7.5	4.5	2.1
156	184	13.0	7.5	5.5	1.7	215	312	15.0	7.5	6.5	2.0	274	279	12.5	7.0	7.0	1.8
157	240	12.0	7.0	6.0	1.7	216	302	14.5	8.0	6.5	1.8	275	213	13.0	7.5	5.5	1.7
158	267	14.0	7.0	6.0	2.0	217	360	12.0	8.0	6.5	1.5	276	192	13.0	7.0	6.0	1.9
159	222	14.0	7.5	5.5	1.9	218	261	14.0	7.0	6.0	2.0	277	334	15.5	7.5	6.0	2.1
160	183	15.0	5.5	6.0	2.7	229	256	13.0	8.0	6.0	1.6	278	358	12.0	9.0	8.5	1.3
161	345	14.0	9.0	7.0	1.6	220	271	12.5	8.0	6.5	1.6	279	223	11.5	7.5	7.0	1.5
162	272	11.0	8.5	8.5	1.3	221	193	13.5	6.5	7.0	2.1	280	252	12.5	8.5	7.5	1.5
163	352	12.5	11.0	7.5	1.1	222	245	12.5	7.0	6.5	1.8	281	340	14.0	8.0	6.0	1.8
164	304	11.5	8.5	8.0	1.4	223	233	12.0	8.0	6.0	1.5	282	276	12.5	7.5	6.5	1.7
165	373	13.0	9.5	8.0	1.4	224	207	13.5	7.0	6.0	1.9	283	157	10.0	5.5	6.0	1.8
166	295	11.5	9.5	9.5	1.2	225	163	12.0	7.0	5.5	1.7	284	224	12.0	7.5	6.5	1.6
167	217	12.0	8.5	7.5	1.4	226	124	11.5	7.0	5.0	1.6	285	210	13.0	6.5	6.5	2.0
168	225	13.5	6.5	6.0	2.1	227	113	12.5	7.5	4.5	1.7	286	246	13.5	6.0	6.5	2.3
169	217	12.0	7.5	6.0	1.6	228	363	12.0	5.0	4.5	2.4	287	153	11.0	5.0	5.0	2.2
170	120	10.0	5.5	4.0	1.8	229	245	10.0	5.0	5.5	2.0	288	252	10.5	7.5	7.0	1.4
171	224	11.0	6.5	6.0	1.7	230	285	15.5	8.0	7.0	1.9	289	183	10.5	7.0	6.0	1.5
172	161	14.0	6.0	5.5	2.3	231	290	15.0	6.5	6.5	2.3	290	131	10.5	6.0	5.0	1.8
173	285	11.5	7.0	6.5	1.6	232	387	11.5	11.0	8.0	1.0	291	147	10.0	7.5	6.0	1.3
174	181	11.0	7.0	6.5	1.6	233	263	13.5	8.0	6.5	1.7	292	275	10.5	8.0	8.0	1.3
175	305	12.0	6.5	4.5	1.8	234	252	12.5	8.5	8.5	1.5	293	199	10.5	7.0	7.5	1.5
176	230	14.0	8.0	5.5	1.8	235	388	14.0	7.5	7.5	1.9	294	222	10.5	7.5	6.0	1.4
177	263	11.5	7.0	6.5	1.6	236	264	12.5	9.0	9.0	1.4	295	199	8.5	8.0	6.0	1.1
178	237	12.0	7.0	6.0	1.7	237	243	11.0	10.0	8.5	1.1	296	111	9.0	6.0	6.0	1.5
179	202	9.5	8.0	7.0	1.2	238	218	11.0	7.5	8.0	1.5						
180	228	10.5	9.5	7.0	1.1	239	209	10.0	9.5	6.5	1.1						
181	199	8.5	8.0	6.5	1.1	240	225	10.0	8.0	6.0	1.3						
182	182	8.5	8.0	8.0	1.1	241	164	10.0	8.0	7.0	1.3						

原塚外遺跡出土石器一覽表 (単位cm, g.()は現在値)

出土地	発掘番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	材質	長さ	幅	厚さ	重量	
14号住	13-1	床面	打製石斧	逆楔形	d	完形	硬砂岩	13.8	6.3	4.5	3.0	250
	13-2	◆	◆	楔形	◆	◆	◆	9.8	1.5	4.5	1.3	55
	13-3	◆	磨製石斧	定角	—	刃部欠	緑泥片岩	(2.7)	2.0	1.3	(10)	
15号住	16-1	覆土	打製石斧	逆楔形	b	完形	硬砂岩	12.5	5	2.5	2.3	170
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	16-2	◆	◆	分銅形	d	◆	緑泥片岩	9.8	3	3.5	1.1	62
	16-3	◆	◆	燧骨形	◆	◆	◆	10.6	3.5	4.5	1.8	125
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	16-4	◆	◆	◆	◆	◆	◆	11.8	3.5	5.1	1.6	115
	◆	◆	◆	大形磨製石匙	横形	◆	◆	10	8	2.3	70	
	◆	◆	◆	敲打器	a	頭部欠	◆	(10.1)	6.7	3.9	(317)	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	11.4	6.1	6.3	600	
	◆	◆	◆	横刃石器	c	◆	◆	11.9	4.8	1.3	95	
	◆	◆	◆	◆	a	◆	◆	7.2	6.3	1.3	60	
	◆	◆	床面	磨石	c	半折	◆	(9.1)	8.9	3.1	(450)	
	◆	◆	◆	大形磨製石匙	横形	b	完形	◆	9.0	4.5	3.1	60
	◆	◆	◆	横刃石器	c	◆	◆	8.6	4.5	1.1	65	
	◆	◆	◆	磨石	◆	◆	砂岩	9.4	6.3	3.7	280	
	◆	◆	◆	漆器	◆	◆	黒燧石	2.3	2.7	0.2	3	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	2.0	2.0	0.4	2	
◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	2.6	1.2	0.5	2		
◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	3.2	1.4	0.4	2		
◆	◆	覆土	打製石斧	短筒形	d	刃部欠	緑泥片岩	(12.1)	5.8	2.3	(235)	
◆	◆	◆	◆	◆	◆	頭部欠	硬砂岩	(11.3)	5.3	2.3	(180)	
◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	(8.3)	4.1	1.2	55		
◆	◆	◆	◆	◆	b	刃部欠	◆	(9.5)	6.7	1.8	(170)	
◆	◆	◆	◆	◆	d	頭部欠	◆	(6.5)	4.8	1.0	(40)	
16号住	21-1	◆	◆	◆	b	完形	緑泥片岩	11.0	2.5	3.5	1.5	75
	◆	◆	◆	◆	d	◆	粘板岩	9.8	2.7	3.6	1.5	55
	21-3	◆	凹石	片面のみ	◆	◆	砂岩	9.9	6.7	4.4	405	
17号住	23-1	◆	敲打器	◆	a	◆	硬砂岩	12.3	6.3	5.4	600	
	◆	◆	横刃石器	◆	◆	◆	◆	6.9	5.6	1.2	55	
	23-3	◆	◆	◆	d	◆	◆	9.4	7.3	1.3	125	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	23-4	◆	石核	◆	a	◆	◆	10.9	5.4	5.4	440	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	23-5	床面	打製石斧	短筒形	c	完形	◆	11.8	4.0	5.1	1.6	110
	◆	◆	磨製石斧	定角	◆	刃一部欠	緑泥片岩	7.4	2.5	3.7	1.4	75
	◆	◆	横刃石器	a	◆	◆	◆	6.5	7.1	1.2	80	
	23-7	覆土	打製石斧	短筒形	d	側のみ	硬砂岩	(7.2)	4.3	1.5	(80)	
◆	◆	◆	分銅形	◆	刃部欠	◆	(7.4)	6.5	2.4	(55)		
◆	◆	◆	短筒形	b	◆	砂岩	(10.7)	3.6	1.1	(60)		
◆	◆	◆	石核	c	◆	硬砂岩	6.9	5.2	2.9	225		
◆	◆	床面	打製石斧片	短筒形	b	頭部欠	◆	(7.6)	4.1	1.5	(75)	
◆	◆	覆土	剥片	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
18号住	26-1	◆	打製石斧	短筒形	b	側の一部欠	◆	10.0	3.5	4.2	1.5	80
	◆	◆	◆	◆	d	刃部欠	緑泥片岩	(10.3)	3.9	1.3	(80)	
	26-3	◆	敲打器	◆	c	頭部欠	凝灰炭	(7.9)	3.1	2.0	(95)	
	◆	◆	横刃石器	◆	◆	◆	硬砂岩	7.9	4.9	1.8	80	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	◆	◆	◆	打製石斧	短筒形	d	刃部欠	◆	(7.1)	3.1	1.4	(50)
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	(7.7)	3.1	1.5	(50)	
◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	(7.9)	4.9	2.1	(80)		
◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	(5.5)	5.0	1.2	(65)		
◆	◆	◆	剥片3点	(a-2, b-1)	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
21号住	28-1	床面	打製石斧	短筒形	d	頭部欠	◆	(7.7)	6.3	2.1	(150)	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	(10.7)	3.9	1.4	(80)	
	28-3	◆	◆	◆	b	刃部欠	◆	(10.1)	4.9	2.0	(140)	
	28-4	◆	敲打器	a	完形	砂岩	10.7	3.4	3.3	170		
22号住	31-1	◆	大形磨製石匙	縦形	d	◆	硬砂岩	10.5	12.6	1.4	210	
	◆	◆	横刃石器	◆	a	◆	◆	10.2	6.9	1.3	120	
	◆	◆	剥片(a-1)	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	

出土地	押印番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
23号住	34-1	覆土	打製石斧	楔形	a	頭部欠	硬砂岩	(10.0)	5.8	1.4	(100)	
	34-2	＊	横刃石器	＊	c	＊	＊	9.0	5.8	1.8	110	
	34-3	＊	＊	＊	＊	＊	緑泥片岩	6.7	4.6	0.7	30	
	34-4	＊	＊	＊	b	＊	硬砂岩	12.6	6.8	1.5	170	
	34-5	床面	打製石斧	短冊形	c	完形	＊	18.2	5.5 7.3	2.0	370	
	34-6	＊	＊	＊	d	刃部欠	＊	(15.9)	4.5	1.9	(260)	
	34-7	＊	＊	＊	c	完形	＊	12.4	3.0 4.7	1.9	150	
	34-8	＊	＊	＊	d	＊	＊	11.5	3.7 4.2	2.2	140	
	34-9	＊	(p. 内)	石 皿	＊	＊	破片	花崗岩	＊	＊	＊	＊
	34-10	＊	覆土	打製石斧	短冊形	c	半折	硬砂岩	(9.2)	4.0	2.2	(110)
	＊	＊	＊	＊	＊	d	網のみ	＊	(9.0)	4.8	1.2	(85)
	＊	＊	＊	＊	b	刃のみ	＊	(6.7)	5.7	0.9	(50)	
	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	(4.0)	4.0	1.1	(30)	
	＊	＊	＊	＊	d	刃部欠	＊	(9.6)	3.9	1.6	(90)	
				剥片 (a類3片)								
24号住	39-1	エマド層上	石 皿	＊	＊	平折	花崗岩	＊	＊	＊	＊	
26号住	42-1	覆土	撞 器	＊	＊	＊	黒曜石	6.5	3.5	2.1	48	
	42-2	＊	＊	＊	＊	＊	＊	5.1	4.1	1.9	40	
	42-3	＊	＊	＊	＊	＊	＊	2.9	1.7	0.4	2	
	42-4	＊	＊	＊	＊	＊	＊	2.3	2.1	0.5	2	
	42-5	＊	＊	＊	＊	＊	＊	4.2	2.1	0.9	8	
	42-6	＊	＊	＊	＊	＊	＊	3.3	4.3	2.0	30	
	42-7	＊	＊	＊	＊	＊	＊	3.3	2.7	0.6	6	
25号住	72-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	硬砂岩	12.8	4.3 6.5	2.0	250	
	-2	＊	＊	＊	＊	＊	＊	11.8	4.0 4.0	1.7	120	
	-3	＊	＊	＊	分銅形?	頭部欠	＊	(13.8)	10.5	2.6	(680)	
	-4	＊	＊	＊	短冊形	完形	＊	10.7	3.5 5.1	1.5	120	
	-5	＊	＊	＊	＊	＊	＊	10.8	4.3 5.2	2.2	150	
	73-6	＊	＊	＊	＊	c	＊	11.8	4.0 5.3	1.7	170	
	-7	＊	＊	＊	＊	d	＊	12.3	3.0 3.4	1.9	100	
	-8	＊	＊	＊	＊	＊	緑泥岩	12.0	3.5 3.5	0.6	70	
	-9	＊	＊	＊	楔形	頭部欠	硬砂岩	(9.7)	5.2	1.2	(80)	
	-10	＊	＊	＊	卵形	完形	＊	11.0	3.5 5.0 3.5	1.4	(100)	
	-11	＊	＊	＊	楔形	面欠	＊	11.1	3.3 6.8	2.6	(225)	
	-12	＊	＊	＊	＊	完形	緑泥岩	12.2	2.5 5.0	1.5	120	
	-13	＊	＊	＊	短冊形	＊	＊	12.5	4.0 4.7	1.7	150	
	-14	＊	＊	＊	＊	＊	＊	12.7	3.3 4.8	2.0	(120)	
	74-15	＊	磨製石斧	定角形	＊	頭部欠	松泥岩	(5.7)	6.9	2.0	(200)	
	-16	＊	＊	＊	＊	完形	緑泥岩	8.1	2.5 3.2	1.1	50	
	-17	＊	＊	＊	＊	＊	＊	4.9	2.0 2.4	0.8	20	
	-18	＊	＊	＊	＊	＊	＊	4.7	1.7 2.8	0.7	20	
	-19	＊	＊	＊	＊	頭部欠	＊	(5.5)	2.8	0.8	(30)	
	-20	＊	＊	＊	＊	完形	＊	18.3	3.0 5.0	3.5	430	
	-21	＊	＊	大形粗製石匙	横形	a	＊	＊	7.0	5.5	0.6	30
	-22	＊	＊	＊	横形	c	＊	硬砂岩	6.0	7.0	1.3	60
	-23	＊	＊	＊	横形	＊	刃部欠面	＊	8.0	7.3	1.5	(60)
	-24	＊	＊	石 鏟	横形	＊	完形	＊	5.7	4.3	1.7	60
	-25	＊	＊	＊	＊	＊	片面欠	＊	6.0	5.9	(1.2)	(65)
	75-26	＊	＊	敲 打 器	＊	a	頭部欠	凝灰岩	(12.7)	4.6	2.9	(270)
	-27	＊	＊	＊	＊	b	片面欠	緑泥岩	7.5	6.5	(3.5)	(270)
	-28	＊	＊	＊	＊	c	頭部欠	＊	18.6	6.5	3.7	(850)
	-29	＊	＊	特殊敲打器	＊	a	完形	＊	5.4	6.3	1.6	100
	76-30	＊	＊	磨 石	＊	＊	＊	花崗岩	16.6	7.2	5.0	1175
	75-31	＊	＊	磨 石	＊	＊	＊	＊	9.8	5.2	2.8	260
	75-32	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	9.3	7.6	3.1	310
	76-33	＊	＊	磨き石	＊	d	＊	硬砂岩	8.0	4.4	3.8	220
	-34	＊	＊	石 棒	＊	＊	破片	花崗岩	(8.5)	8.5	4.0	430
	-35	＊	＊	石 棒	＊	a	＊	硬砂岩	＊	＊	＊	＊

出土地	採回番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量																							
25号住	77-36	覆土	横刃石器		a		硬砂岩	14.0	8.8	2.5	340																							
	37				8.5			6.2	2.1	150																								
	38				8.7			4.9	1.3	60																								
	39				7.8			6.2	1.3	70																								
	40				9.3			6.0	1.2	70																								
	78-41				石 鏃			完 形 鏃一部欠	黒 燧 石	(28)	1.7	1.5	0.3	1																				
	42										2.9	1.4	0.6	2																				
	43										2.9	1.0	0.5	1																				
	44										8.6	2.9	1.0	32																				
	45										1.8	1.9	0.3	2																				
	46										2.7	1.4	0.4	2																				
	47										2.1	1.7	0.7	2																				
	48										2.4	1.8	0.5	2																				
	49										1.4	2.8	0.3	1																				
	50										2.1	2.0	1.1	3																				
	51										3.3	3.1	1.6	14																				
	52										3.1	2.4	1.3	8																				
	53										3.4	2.8	1.6	18																				
	54										4.0	2.0	1.3	13																				
	55										2.3	1.8	0.6	3																				
	打製石斧												短骨形	d	頭部欠	硬砂岩	(9.0)	5.2	1.5	1.5	(125)													
																			短骨形	b	刃部欠	(10.1)	5.0	1.3	(90)									
																				d		(5.9)	3.0	0.9	(50)									
										(10.4)									5.4	2.1	(215)													
										(8.4)									5.6	1.5	(240)													
										(7.8)									4.2	1.2	(70)													
								b	柄のみ	(6.3)									4.4	1.2	(60)													
									頭部欠	(11.3)									5.0	1.8	(110)													
										(7.4)									5.9	2.0	(120)													
										(9.1)									3.8	4.3	1.6	(75)												
								d	刃部欠	(6.9)										1.6	(50)													
								b	頭部欠	(7.5)									4.5	2.4	(110)													
									柄のみ	(8.2)									4.7	2.1	(110)													
								d	刃部欠	(6.7)									4.5	1.1	(70)													
								b		(10.0)									3.8	1.3	(70)													
								d	頭部欠	(8.0)										3.4	0.8	(40)												
				(8.3)	4.2	1.8	(70)																											
				(5.0)	4.4	1.3	(30)																											
剥片			石 鏃	短骨形	半折		硬砂岩		4.4	1.3	(30)																							
												a類-29 () b 1点は緑泥岩他は硬砂岩) b類-12(硬砂岩) c類-22(硬砂岩)																						
1号住	82-1	覆土	打製石斧	短骨形	b	完 形	凝灰岩	8.2	3.2	3.8	1.1	60																						
	2							11.1	3.5	4.0	2.1	(110)																						
	3							完 形	硬砂岩	9.9	2.8	3.9	1.8	80																				
	4									9.8	3.8	4.0	1.3	70																				
	5									11.0	3.5	1.5	60																					
	6									10.7	2.0	5.0	1.7	90																				
	7							磨製石斧	定角	緑泥岩	頭部欠	(9.9)	3.8	0.8	(55)																			
	8															乳棒状	完 形	硬砂岩	9.0	6.2	1.0	50												
	9																						大形磨製石鏃	短骨形	緑泥岩	(14.9)	4.9	4.7	(570)					
	10																													石 鏃	短骨形	硬砂岩	6.7	3.5
	11							敲 打 器	短骨形	緑泥岩	(11.9)	2.2	2.2	(140)																				
	12														磨製石斧	定角	硬砂岩	10.9	4.8	4.5	350													
	13																					横刃石器		硬砂岩	9.8	6.0	0.9	70						
	14																														硬砂岩	9.3	7.4	1.8
	15									硬砂岩	12.6	7.8	2.1	250																				
	16																硬砂岩	8.7	6.5	1.7	130													
	17																					床面	打製石斧	短骨形	a	緑泥岩	10.0	3.7						
	18																												磨製石斧	定角	c	硬砂岩	10.2	3.5
	19										緑泥岩	8.9	2.9	0.6																				
	20																																	

出土地	押印番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量		
1号住	84-21	床面	大形粗製石匙	横形	a	完形	硬砂岩	7.0	7.5	1.3	70		
	-22	・	敲打器	・	b	・	緑泥岩	10.5	6.4	6.0	680		
	-23	・	石棒	有頸	・	・	基部欠	(13.9)	8.8	9.2	(1360)		
	-24	・	凹石	・	・	完形	・	14.2	8.7	2.4	510		
	85-25	・	横刃石器	・	a	・	硬砂岩	8.6	4.7	1.0	60		
	-26	・	石皿	・	c	一部欠	花崗岩	9.6	6.3	1.3	90		
	-27	・	打製石斧	短冊形	b	・	硬砂岩	(10.7)	5.1	1.7	(120)		
	・	・	・	・	・	・	・	(11.9)	4.8	2.7	(120)		
	・	・	・	・	・	・	・	(14.5)	4.6	2.1	(100)		
	・	・	・	・	・	・	・	(9.4)	6.9	2.8	(360)		
	・	・	・	・	・	・	・	(7.3)	4.4	1.5	(100)		
	・	・	・	・	・	・	・	(.4)	3.5	1.0	(40)		
	・	・	・	・	・	・	・	(4.3)	3.8	1.4	(30)		
	・	・	・	・	・	・	・	(9.3)	4.0	1.2	(80)		
	・	・	・	・	・	・	・	(10.2)	4.7	2.1	(125)		
	・	・	・	・	・	・	・	(9.6)	4.3	1.8	(100)		
	・	・	・	・	・	d	・	(7.2)	3.6	1.7	(60)		
	・	・	・	・	・	・	・	(6.5)	4.0	1.3	(45)		
	・	・	・	・	・	・	・	(11.0)	4.7	1.5	(120)		
	・	・	・	・	・	・	・	(6.9)	3.5	1.4	(55)		
	・	・	・	・	・	b	・	(12.0)	4.0	1.7	(65)		
	・	・	床面	・	・	c	・	(12.2)	4.0	2.1	(140)		
	・	・	・	・	・	d	・	(9.8)	4.3	1.5	(60)		
	・	・	・	・	・	・	・	(6.5)	4.0	1.3	(45)		
	・	・	・	・	・	・	・	(9.9)	3.7	1.8	(100)		
	・	・	・	・	・	a	・	(10.0)	3.9	1.6	(130)		
	・	・	覆土	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	・	・	床面	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	剥片 a 類-24 (硬砂岩22, 緑泥岩1, 砂岩1) b 類-8 (硬砂岩) c 類-6 (硬砂岩5, 緑泥岩1) ・ a 類-22 (硬砂岩20, 緑泥岩2) b 類-3 (硬砂岩) c 類-2 (硬砂岩)												
	3号住	87-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	硬砂岩	11.9	3.8	4.0	90	
-2		・	・	・	・	・	・	11.0	3.0	4.1	1.7	90	
-3		・	・	・	・	・	・	12.4	3.0	5.5	1.2	100	
-4		・	・	・	・	・	・	12.8	4.0	8.0	2.1	240	
-5		・	・	・	・	・	・	9.3	3.3	4.4	1.1	60	
-6		・	・	・	・	・	・	11.3	2.7	3.7	1.7	120	
-7		・	・	磨製石斧	定角	・	・	緑泥岩	9.7	2.5	4.7	2.1	185
-8		・	・	乳棒	・	・	・	凝灰岩	9.8	2.5	1.6	80	
88-9		・	・	磨石	・	一部欠	花崗岩	(9.9)	5.5	3.1	(315)		
-10		・	・	磨き石	・	完形	硬砂岩	12.7	5.7	3.4	380		
-11		・	・	横刃石器	・	a	・	・	6.9	5.0	0.7	30	
-12		・	・	・	・	・	・	8.7	5.2	1.6	70		
-13		・	床面	打製石斧	短冊形	b	・	・	11.3	4.0	4.5	1.9	160
-14		・	・	・	・	・	・	(12.2)	5.0	2.1	(270)		
-15		・	・	・	・	・	・	9.8	2.8	4.0	1.4	90	
89-16		・	・	・	・	d	刃部一部欠	硬砂岩	12.3	3.3	4.5	1.2	100
-17		・	・	・	・	・	完形	粘板岩	10.6	1.5	3.8	0.9	40
-18		・	・	磨製石斧	給刃	・	・	緑泥岩	11.5	4.7	3.0	250	
-19		・	・	敲打器	・	a	・	・	12.2	4.3	3.8	370	
-20		・	・	・	・	・	一部欠	・	12.1	5.9	2.0	(225)	
-21		・	・	・	・	・	完形	蛇紋岩	14.6	3.0	2.0	190	
90-22		・	・	石核	・	・	・	硬砂岩	17.0	10.1	2.0	395	
-23		・	・	・	・	・	・	・	10.7	8.1	2.5	340	
-24		・	・	・	・	c	・	・	7.6	7.4	2.4	180	
91-25		・	・	石鏝	・	・	完形	黒曜石	1.8	1.6	0.2	2	
-26		・	・	・	・	・	・	・	3.3	2.0	1.0	8	
-27		・	・	・	・	・	・	・	3.5	3.3	0.3	2	
・	・	覆土	打製石斧	短冊形	b	刃部欠	硬砂岩	(10.2)	4.6	2.3	(220)		
・	・	・	・	・	d	・	・	(7.8)	4.9	1.0	(60)		
・	・	・	・	・	・	・	・	(9.9)	3.6	0.9	(50)		

出土地	捕獲番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
8号住	107-3	埋戻中	打製石斧	短冊形	d	完形	緑泥岩	12.3	2.8 3.1 2.8	1.2	60	
	◆	-4	床面	◆	b	◆	硬砂岩	11.8	3.0 4.0	1.9	130	
	◆	-5	◆	◆	◆	◆	◆	11.9	3.7 6.0	1.7	160	
	◆	-6	◆	◆	◆	◆	蛇紋岩	11.7	4.0 5.0	1.1	100	
	◆	-7	◆	◆	◆	◆	硬砂岩	(11.2)	4.4 7.9	2.3	(240)	
	◆	108-8	◆	磨製石斧	船形	◆	刃部欠	緑泥岩	19.4	3.0 6.8	3.1	(610)
	◆	-9	◆	敲打器	◆	a	◆	硬砂岩	(10.6)	5.1	2.9	(280)
	◆	-10	◆	◆	◆	◆	◆	(5.6)	3.3	2.2	(50)	
	◆	109-11	◆	◆	c	◆	完形	緑泥岩	25.7	9.2	6.0	2560
	◆	-12	◆	磨き石	a	◆	◆	硬砂岩	13.3	3.7	4.4	380
	◆	108-13	◆	横刃石器	◆	◆	◆	◆	13.8	7.3	2.1	240
	◆	-14	◆	◆	◆	◆	◆	◆	10.0	7.8	1.7	175
	◆	◆	◆	打製石斧	短冊形	b	刃部欠	緑泥片岩	(13.5)	3.7	1.3	(120)
	◆	◆	◆	◆	d	◆	◆	硬砂岩	(7.4)	3.4	1.3	(50)
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	緑泥岩	(7.3)	4.0	1.3	(80)
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	砂岩	(11.9)	4.4	1.8	(103)
	剥片 a類1(硬砂岩8, 緑泥岩3) b類3(硬砂岩3) c類2(硬砂岩2)											
9号住	113-1	覆土	打製石斧	短冊形	d	完形	緑泥岩	11.1	2.5 4.0	1.6	90	
	◆	-2	◆	◆	◆	◆	硬砂岩	8.8	6.6	1.4	90	
	◆	-3	◆	横刃石器	a	◆	◆	6.5	5.2	1.1	50	
	◆	-4	◆	◆	b	◆	◆	11.0	6.9	1.8	160	
	◆	-5	床面	打製石斧	短冊形	d	◆	10.5	2.5 4.3	1.6	70	
	◆	◆	覆土	◆	◆	◆	刃部のみ	(4.4)	6.2	1.1	(40)	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	頭部欠	(6.9)	5.2	1.6	(85)	
	◆	◆	◆	◆	b	◆	刃部欠	(9.5)	4.7	2.6	(115)	
	◆	◆	覆土	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	剥片 a類6(硬砂岩4, 凝灰岩1, 緑泥片岩1) b類1(硬砂岩1) c類5(硬砂岩5)											
10号住	116-1	覆土	打製石斧	短冊形	c	石刃部欠	硬砂岩	11.5	3.9 4.1	1.9	(120)	
	◆	-2	◆	◆	◆	◆	(9.7)	3.5	1.5	(70)		
	◆	-3	◆	◆	d	◆	頭部欠	緑泥岩	(7.4)	3.1	0.8	(30)
	◆	-4	◆	◆	◆	◆	完形	凝灰岩	18.3	3.7 4.0	1.8	205
	◆	-5	◆	◆	◆	◆	◆	硬砂岩	12.6	3.4 3.5	1.4	115
	◆	-6	◆	磨製石斧	定角形	◆	◆	緑泥岩	10.4	1.2 2.1 5	0.9	40
	◆	-7	◆	◆	◆	◆	◆	緑泥片岩	(6.4)	6.1	3.0	(150)
	◆	-8	◆	◆	◆	◆	頭部欠	凝灰岩	16.6	5.9	4.8	(745)
	◆	119-9	◆	大形磨製石匙	横形	d	完形	硬砂岩	9.0	7.1	1.1	50
	◆	-10	◆	◆	b	◆	◆	緑泥岩	7.5	7.5	1.4	90
	◆	-11	◆	敲打器	a	◆	◆	硬砂岩	16.8	5.5	2.6	370
	◆	-12	◆	横刃石器	◆	◆	◆	緑泥岩	8.5	8.0	1.2	90
	◆	-13	◆	◆	◆	◆	◆	硬砂岩	6.5	6.0	1.1	60
	◆	-14	◆	◆	◆	◆	◆	◆	12.5	7.1	1.3	165
	◆	◆	◆	打製石斧	短冊形	b	頭部のみ	(8.7)	6.3	1.7	(140)	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	本葉一部欠	10.3	(2.2) 4.0	1.1	(60)	
	◆	◆	◆	◆	◆	◆	刃部欠	凝灰岩	(8.5)	6.2	1.7	(185)
◆	◆	◆	◆	c	◆	◆	硬砂岩	(5.2)	3.9	2.1	(50)	
◆	◆	◆	◆	d	◆	◆	砂岩	(9.9)	3.8	2.2	(97)	
◆	◆	◆	◆	◆	◆	頭部欠	硬砂岩	(8.8)	5.1	2.2	(120)	
剥片 a類12(硬砂岩9, 緑泥片岩2, 砂岩1) b類1(硬砂岩1) c類5(硬砂岩5)												
11号住	121-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	緑泥岩	9.0	2.5 3.7	1.0	55	
	◆	-2	◆	◆	d	◆	頭部欠	硬砂岩	11.0	8.3	2.7	(270)
	◆	-3	◆	短冊形	◆	◆	◆	砂山	10.8	2.6 3.7	1.2	(60)
	◆	-4	◆	敲打器	a	◆	◆	緑泥岩	15.4	8.2	5.3	875
	◆	-5	◆	石鏟	テテ形	◆	◆	砂岩	5.4	4.4	1.4	60
	◆	-6	◆	磨き石	a	◆	◆	◆	7.5	2.6	1.8	63
	◆	-7	◆	特殊敲打器	◆	◆	◆	◆	4.6	6.0	1.1	60
	◆	-8	◆	横刃石器	◆	◆	◆	硬砂岩	8.2	5.6	1.4	80
	◆	122-9	◆	扶入横刃石器	◆	◆	◆	緑泥岩	10.5	11.2	1.1	180
	◆	-10	床面	打製石斧	短冊形	d	頭部欠	緑泥片岩	8.4	4.1	1.3	(60)
	◆	-11	◆	◆	b	◆	◆	◆	12.9	2.7 3.8	1.3	83
	◆	-12	◆	◆	d	◆	◆	安山岩	10.8	2.8 3.1	1.8	78

出土地	持回番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量		
11号住	122-13	床面	磨製石斧	特殊形	a	完形	緑泥岩	10.8	2.1	4.3	1.6	片面すってある 高面砥石状	
	-14	◇	◇	定角	◇	頭部欠	◇	(6.7)	1.4	2.7	1.2		(30)
	-15	◇	◇	◇	◇	完形	◇	3.5	0.9	1.3	0.5		10
	-16	◇	◇	大形粗製石器	横形	c	◇	硬砂岩	11.1	7.2	1.2		100
	123-17	◇	◇	敲打器	◇	a	頭部欠	(10.1)	7.2	4.5	1.2		(520)
	-18	◇	◇	石皿	◇	◇	一部欠	砂岩	20.1	12.0	3.1		◇
	-19	◇	◇	多孔石	◇	◇	完形	花崗岩	23.1	19.0	3.4		◇
	◇	◇	覆土	打製石斧	短冊形	b	頭部欠	硬砂岩	(14.7)	7.5	2.7		(490)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	刃部欠	◇	(12.0)	4.3	2.0		(160)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	(8.2)	5.1	1.5		(80)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	(8.8)	4.8	1.3		(65)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	頭部欠	◇	(8.0)	5.2	2.0		(105)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	刃部欠	◇	(8.4)	4.1	1.7		(80)
	◇	◇	◇	◇	搜形	◇	頭部欠	◇	(7.4)	4.0	1.4		(40)
	◇	◇	◇	◇	短冊形	c	◇	◇	(9.2)	6.1	1.7		(105)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	(9.1)	6.3	1.3		(140)
	◇	◇	◇	◇	◇	d	刃部欠	◇	(15.1)	6.8	2.6		(400)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	頭部欠	◇	11.0	8.5	2.6		(285)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	刃部欠	◇	5.1	3.2	1.3		(25)
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	(10.9)	3.0	1.1	(80)	
	◇	◇	◇	敲打器	c	◇	◇	◇	(7.2)	4.9	(1.9)	(65)	
	◇	◇	◇	切片 a類21(硬砂岩15, 緑泥岩4, 砂岩1) b類7(硬砂岩5, 緑泥岩2) c類3(硬砂岩2, 緑泥岩1)	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
	◇	◇	床面	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
	◇	◇	◇	a類13(硬砂岩11, 緑泥岩2) b類1(砂岩) c類1(緑泥岩)	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
	12号住	126-1	床面	打製石斧	特殊大形	b	完形	緑泥片岩	36.7	6.5	9.2	3.7	1970
		-2	◇	◇	搜形	◇	◇	硬砂岩	10.9	2.2	5.9	1.6	100
		-3	◇	◇	短冊形	◇	◇	◇	10.6	2.8	3.8	1.4	60
		-4	◇	◇	◇	◇	◇	◇	12.3	2.5	4.4	1.6	115
		-5	◇	◇	◇	c	◇	◇	8.5	3.0	3.7	1.5	35
		-6	◇	◇	◇	d	◇	◇	11.7	3.0	3.6	1.7	90
		127-7	◇	◇	敲打器	a	半折	砂岩	(16.9)	6.0	3.6	(550)	
		-8	◇	◇	◇	◇	一部欠	緑泥岩	(9.1)	3.9	3.1	(200)	
		-9	◇	◇	砥石	◇	完形	砂岩	21.0	16.2	3.8	◇	
		-10	◇	覆土	石棒	有頭	◇	基部欠	花崗岩	(29.0)	16.0	14.2	◇
		◇	◇	床面	打製石斧	短冊形	b	胴のみ	硬砂岩	(7.6)	5.7	1.7	(98)
◇		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	(10.8)	3.9	1.3	(80)	
◇		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	(10.8)	3.9	1.3	(80)	
◇		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	(12.4)	6.6	3.3	(4)	
◇		◇	◇	切片 a類5(硬砂岩) b類1(硬砂岩)	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
19号住		134-1	覆土	石錘	縦形	◇	完形	硬砂岩	5.7	3.8	1.4	60	
		-2	◇	敲打器	a	◇	砂岩	9.7	3.0	1.7	85		
		-3	◇	◇	b	◇	緑泥岩	8.5	7.0	3.7	375		
		-4	◇	◇	c	◇	半折	(15.7)	4.9	2.5	(450)		
		-5	◇	◇	四石	◇	完形	砂岩	11.2	8.9	3.8	590	
		-6	◇	◇	◇	◇	◇	花崗岩	9.6	8.6	5.3	690	
		-7	◇	◇	横刃石器	a	◇	硬砂岩	12.0	6.3	1.9	200	
		135-8	床面	打製石器	短冊形	◇	◇	◇	13.3	3.3	4.1	1.5	120
		-9	◇	◇	b	◇	◇	◇	13.8	3.5	4.2	1.6	180
		-10	◇	◇	敲打器	a	頭部欠	砂岩	8.4	2.4	2.7	(80)	
	-11	◇	◇	打製石斧	短冊形	d	完形	硬砂岩	10.9	3.0	4.5	1.6	115
	-12	◇	◇	大形粗製石器	横形	b	刃部欠	◇	(6.5)	1.5	(90)		
	◇	◇	覆土	打製石斧	短冊形	b	頭部のみ	◇	(9.4)	4.9	2.3	(170)	
	◇	◇	◇	◇	d	◇	◇	(5.8)	3.4	1.6	(50)		
	◇	◇	◇	磨製石斧	乳棒状	◇	◇	緑泥岩	(5.6)	2.5	3.0	(110)	
	◇	◇	床面	打製石斧	短冊形	b	頭部欠	硬砂岩	(8.2)	4.4	1.6	(80)	
	◇	◇	◇	◇	◇	◇	胴のみ	緑泥岩	(10.8)	4.8	1.9	(200)	
	◇	◇	◇	◇	搜形	◇	頭部欠	硬砂岩	(6.7)	7.0	2.5	(145)	
◇	◇	◇	◇	短冊形	d	胴のみ	◇	(4.9)	4.3	0.9	(35)		
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	緑泥片岩	(8.0)	5.8	1.3	(100)		
◇	◇	覆土	切片 a類4(硬砂岩2, 砂岩2) c類2(硬砂岩)	◇	◇	淵斜折	硬砂岩	13.6	(2.0)	(4.0)	1.8	(100)	

出土地	採掘番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量		
19号住		床面	剥片 a類 3 (硬砂岩 1, 緑泥岩 2)										
20号住	140-1	覆土	短冊石斧	短冊形	d	完形	硬砂岩	10.5	3.2	4.5	1.1	60	
	-2	*	磨製石斧	定角形	*	頭部一部破損	緑泥岩	7.1	3.0	0.8	(30)		
	-3	*	横刃石器	*	a	*	硬砂岩	9.0	3.8	1.8	70		
	-4	*	*	*	a	*	10.1	7.7	2.4	210			
	-5	床面	打製石斧	短冊形	a	完形	緑泥片岩	11.3	3.3	3.8	1.5	100	
	-6	*	*	*	a	*	硬砂岩	13.1	4.0	4.5	1.7	150	
	-7	*	*	*	a	*	凝灰岩	14.0	2.5	4.0	1.5	130	
	-8	*	*	*	a	*	緑泥片岩	11.7	3.0	2.8	4.0	1.8	110
	-9	*	*	*	b	刃部欠	緑泥岩	8.5	2.5	1.8	(50)		
	-10	*	*	*	*	楔形	10.3	2.2	4.8	1.4	75		
	-11	*	*	*	*	短冊形	10.1	2.5	4.2	1.3	60		
	-12	*	*	*	*	*	12.1	3.0	4.2	1.7	110		
	-13	*	*	*	d	分銅形	11.0	3.8	3.2	4.3	1.1	80	
	-14	*	磨製石斧	定角形	*	刃部剥落	緑泥岩	7.5	2.5	3.2	1.1	50	
	-15	*	大形磨製石匙	縦形	d	完形	硬砂岩	4.2	10.9	1.3	70		
	-16	*	磨石	*	a	*	花崗岩	11.7	9.8	5.2	880		
	141-17	*	磨き石	*	a	*	硬砂岩	10.7	5.2	3.0	260		
	-18	*	横刃石器	*	*	*	6.2	5.5	1.3	80			
	-19	*	石皿多孔石	*	*	*	花崗岩						
		覆土	打製石斧	短冊形	b	頭部のみ	硬砂岩	8.0	4.1	1.5	(70)		
		*	*	*	d	刃部欠	13.6	2.5	1.3	(125)			
		床面	*	*	b	*	硬砂岩	9.5	5.0	2.3	(170)		
		*	*	*	d	頭部欠	10.6	3.5	1.2	(70)			
		*	*	*	*	*	8.9	4.1	1.0	(60)			
		*	*	*	*	*	緑泥片岩	9.2	3.7	1.1	(50)		
		*	*	*	*	刃部のみ	4.7	4.8	0.8	(30)			
		*	*	*	c	頭部欠	10.1	4.6	2.3	(140)			
		*	*	*	d	刃部のみ	5.2	3.6	1.5	(40)			
		*	*	*	b	*	5.5	3.8	0.9	(40)			
		*	*	*	d	*	7.6	6.9	1.1	(110)			
		*	磨製石斧	乳棒状	*	破片	凝灰岩	7.2	(2.6)	(2.3)	(40)		
		*	大形磨製石匙	縦形	d	刃部欠	粘板岩		(8.9)	1.7	(45)		
		*	*	横形	b	*	硬砂岩		(6.3)	0.8	(25)		
		覆土	剥片 a類 5 (硬砂岩) b類 2 (硬砂岩)										
		床面	a類 24 (硬砂岩 21, 砂岩 1, 緑泥岩 1) b類 6 (硬砂岩 5, 緑泥岩 1) c類 5 (硬砂岩 4, 緑泥岩 1)										
27号住	147-1	覆土	打製石斧	分銅形	b	頭部欠	硬砂岩	13.8	4.5	7.5	2.5	(260)	
	-2	*	敲打器	*	*	完形	緑泥岩	12.3	6.8	1.6	650		
	-3	庵袖石	石皿	*	*	平欠	花崗岩						
30号住	154-1	覆土	打製石斧	短冊形	a	完形	緑泥岩	10.2	1.8	2.6	1.4	40	
	-2	*	*	*	b	*	13.7	2.5	4.1	1.9	260		
	-3	*	*	*	*	*	10.6	1.5	3.5	1.3	50		
	-4	*	*	*	*	短冊形	硬砂岩	12.3	3.8	5.0	2.2	170	
	-5	*	*	*	*	*	9.3	3.0	4.5	1.6	90		
	-6	*	*	*	d	*	砂岩	10.1	3.3	4.5	1.5	80	
	-7	*	*	*	*	*	緑泥片岩	15.2	3.0	4.8	2.7	310	
	-8	*	*	*	*	*	8.8	2.1	2.2	75			
	-9	*	敲打器	*	a	*	8.0	(2.7)	1.3	(30)			
	155-10	*	磨製石斧	定角形	*	頭部のみ	松脂岩	(6.0)					
	-11	*	大形磨製石匙	横形	b	完形	硬砂岩	8.1	4.7	1.0	40		
	-12	*	特殊敲打器	*	a	*	砂岩	8.4	9.0	1.7	210		
	-13	*	敲打器	*	*	一部破損	14.8	4.5	1.8	(230)			
	-14	*	横刃石器	*	*	*	9.1	7.9	2.0	210			
	-15	床面	大形磨製石匙	横形	d	完形	緑泥片岩	6.0	3.7	0.7	20		
	-16	*	*	*	*	刃部欠	砂岩	(3.0)	4.4	0.8	(15)		
	-17	*	特殊敲打器	*	a	完形	5.0	4.2	0.9	30			
	-18	*	*	*	b	*	5.0	4.1	1.0	35			
	-19	*	磨製石斧	乳棒状	*	刃部欠	緑泥岩	(12.9)	4.7	3.6	(400)		
	-20	*	敲打器	*	a	完形	硬砂岩	12.5	6.6	4.5	720		
		*	石皿	*	*	*	花崗岩						

新着干くひら

出土地	採番番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量														
30号住		覆土	打製石斧	短骨形	d	刃部欠	硬砂岩	(15.4)	5.5	6.5	(545)														
												緑泥片岩	(7.1)	2.2	1.2	(20)									
												硬砂岩	(6.6)	3.7	1.7	(70)									
												*	(10.1)	4.8	1.2	(90)									
												*	(6.4)	3.6	2.0	(90)									
												*	(6.8)	3.3	0.9	(40)									
												*	(10.8)	4.3	1.5	(125)									
												*	(13.5)		1.8	(160)									
												床面							5.3						
												覆土	剥片 a類8 (硬砂岩6, 緑泥岩2)	b類2 (硬砂岩)	c類2 (硬砂岩)										
床面	* a類5 (硬砂岩)	b類1 (硬砂岩)																							
31号住	159-1	床面	打製石斧	短骨形	a	完形	緑泥岩	10.9	3.0	3.5	1.3	80													
													硬砂岩	13.5	3.5	4.8	1.9	120							
													*	10.7	3.7	4.3	1.5	90							
													*	10.9	3.0	3.5	1.3	120							
													*	9.7	3.5	4.0	1.2	60							
													*	11.7	3.3	5.7	1.8	120							
													*	6.4	1.3	1.8	0.8	20							
													*	6.0	3.2	1.2	30								
													*	11.0	5.1	1.1	53								
													*	(6.6)	4.8	1.5	(60)								
													*	(10.0)	4.7	1.5	(80)								
													*	(8.9)	4.8	1.1	(60)								
													*	(7.5)	3.6	0.9	(30)								
													*	(5.6)	4.8	1.4	(50)								
														剥片 a類23 (硬砂岩21, 砂岩2)	b類4 (硬砂岩)	c類4 (硬砂岩3, 緑泥片岩1)									
													32号住	162-1	覆土	打製石斧	楔形	d	完形	硬砂岩	15.6	4.3	7.9	2.8	370
*	11.7	3.0	4.2	1.1	100																				
*	9.4	2.4	3.8	1.0	50																				
*	7.3	4.5	1.1	60																					
*	(5.2)	3.7	2.7	(70)																					
*	6.7	3.8	1.6	70																					
*	8.7	5.6	0.7	50																					
床面	打製石斧	短骨形	b	*	13.7	3.4	4.3	1.6	110																
*	*	*	*	*	10.8	3.0	4.0	1.3	70																
*	*	*	*	*	8.5	3.0	3.7	1.4	60																
*	*	*	*	*	11.3	3.0	4.3	1.2	70																
*	磨製石斧	定角		刃部のみ	緑泥岩	(3.9)	1.8	-1.0	(10)																
*	*	蛤刃		完形	14.3	4.7	5.2	3.7	450																
*	敲打器	c		頭部欠	(9.8)	2.2	1.3	(55)																	
*	横刃石器	a		*	9.3	5.1	1.1	70																	
*	石皿			完形	硬砂岩																				
床面	打製石斧	短骨形	b	頭部欠	硬砂岩	(8.8)	4.9	1.3	(70)																
*	*	*	d	*	(11.1)	4.2	2.6	(110)																	
*	*	*	*	肩のみ	*	(9.3)	5.7	1.2	(90)																
*	床面	*	b	肩われ	緑泥岩	10.1	(3.4)	1.4	(85)																
*	*	*	*	刃部欠	硬砂岩	(4.9)	3.8	1.1	(40)																
*	*	*	d	肩のみ	*	(7.8)	3.4	1.2	(60)																
*	*	*	*	*	緑泥片岩	(6.8)	4.1	1.7	(100)																
*	*	*	*	砂岩	?	?	?	1.0	(45)																
	床面	剥片 a類12 (硬砂岩10, 緑泥岩2)	b類7 (硬砂岩6, 緑泥岩1)	c類3 (硬砂岩)																					
		* a類9 (硬砂岩)	b類3 (硬砂岩)	c類1 (硬砂岩)																					
33号住	166-1	床面	打製石斧	短骨形	a	完形	緑泥岩	9.4	2.0	2.5	0.8	35													
													硬砂岩	14.9	3.7	4.4	1.8	180							
													*	12.0	3.3	3.7	1.3	70							
													*	11.4	4.0	4.7	1.7	130							
													*	8.8	2.6	0.7	20								
													*	12.4	2.6	5.2	2.0	120							
													*	15.3	5.2	5.2	2.4	220							

出土地	採区番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	着色	
33号住	165-8	床面	磨製石斧	定角		完形	緑泥岩	7.8	1.7	0.8	15	黒色塗彩	
	•	-9	•	•	•	刃部一部欠	•	8.8	1.8	0.5	(35)	•	
	•	-10	•	•	•	完形	•	6.3	2.1	1.1	15	•	
	•	-11	•	•	•	頭部欠	•	(4.2)	1.8	0.5	8	•	
	•	-12	•	•	•	完形	•	5.2	1.2	1.7	0.8	15	•
	•	-13	•	•	•	•	•	4.3	2.0	0.4	10	•	
	•	-14	•	•	•	刃部欠	•	(3.4)	1.5	0.9	(15)	•	
	•	166-15	•	•	•	一徹刃部欠	•	18.3	3.8	5.8	3.5	(580)	黒色塗彩
	•	-16	•	敲打器		a	頭部欠	硬砂岩	(8.9)	6.8	4.7	(500)	•
	•	-17	•	横刃石器		c	•	•	10.3	4.7	1.3	60	黒色塗彩
	•	•	•	打製石斧	短筒形	b	刃部欠	緑泥片岩	(7.7)	3.3	1.1	(65)	•
	•	•	•	•	•	d	•	硬砂岩	(7.2)	4.0	1.3	(65)	•
								c 類2 (硬砂岩) 1, 砂岩 1)					
34号住	169-1	床面	打製石斧	短筒形	b	完形	硬砂岩	11.8	4.4	6.2	2.8	260	
	•	-2	•	•	•	•	•	12.3	3.8	4.7	2.2	140	
	•	-3	•	•	•	•	•	11.1	3.0	5.0	1.6	118	
	•	-4	•	•	•	c	•	12.4	3.0	5.1	2.2	150	
	•	-5	•	•	•	•	•	8.8	2.9	3.9	1.5	75	
	•	-6	•	•	•	d	•	10.1	2.8	4.0	1.2	60	
	•	-7	•	大形粗製石斧	横形	b	刃部欠	•	(6.0)	4.5	1.4	90	
	•	170-8	•	敲打器		a	•	緑泥岩	16.8	4.2	3.0	320	
	•	-9	床面	横刃石器		•	•	硬砂岩	9.7	6.4	1.4	80	
	•	•	•	打製石斧	短筒形	b	頭部のみ	•	(5.2)	4.4	1.9	40	
	•	•	•	•	•	•	刃部欠	•	(7.2)	4.4	2.3	120	
	•	•	•	•	•	•	頭部欠	•	(11.6)	3.9	2.2	110	
	•	•	•	•	•	d	•	(9.0)	7.0	2.1	150		
							c 類1 (硬砂岩) b 類2 (硬砂岩) c 類4 (硬砂岩)						
土壌 1 • 土壌 6 • 土壌 7 • 12 • 27 • 32 • 31 • 35 • 38 • 39 • 40 • • • 42 • 44 • 47 • 52 • 72 • 39 • 77 • • • • • • • • • • • 78 • • • 85 • 105	208-1		回石			完形	砂岩	7.1	7.0	4.2	90		
	•	-2	敲打器			•	硬砂岩	9.0	4.0	0.9	180		
	•	•	•	•	c	半折割れ	凝灰岩	(8.4)	5.2	(1.7)	(140)		
	•	•	打製石斧	楔形	•	刃部のみ	硬砂岩	(4.7)	6.3	1.3	(60)		
	•	•	•	•	d	胴のみ	緑泥岩	(6.6)	4.0	1.1	(42)		
	•	•	•	•	b	刃部のみ?	硬砂岩	(5.5)	6.5	2.2	(120)		
	•	208-3	•	•	•	完形	•	11.1	3.9	3.5	1.3	90	
	•	•	•	挟入横刃石器		a	•	•	6.0	4.2	0.7	30	
	•	209-4	•	石皿			完形	花崗岩	•	•	•	•	
	•	-5	•	敲打器		a	•	硬砂岩	11.8	5.3	2.5	290	
	•	-6	•	砥石			•	砂岩	30.0	16.0	11.0	•	
	•	-7	•	敲打器		d	•	緑泥岩	10.2	1.8	1.5	40	
	•	-8	•	大形粗製石斧	横形	c	•	•	8.0	4.4	0.8	32	
	•	-9	•	石皿			•	砂岩	•	•	•	•	
	•	208-10	•	搔器			•	チャート	3.2	3.0	1.2	10	
	•	•	•	打製石斧	楔形	b	刃部欠	硬砂岩	(11.4)	5.0	1.5	(170)	
	•	208-11	•	横刃石器		a	•	•	11.0	11.0	1.8	392	
	•	-12	•	磨製石斧	定角		完形	緑泥岩	7.0	3.7	1.2	(70)	
	•	•	•	打製石斧	楔形	b	頭部欠	硬砂岩	(11.0)	5.0	0.9	(82)	
	•	208-13	•	横刃石器		a	•	•	8.8	5.7	1.2	82	
	•	211-21	•	•		c	•	•	5.7	7.5	1.6	70	
	•	210-14	•	大形粗製石斧	縦形	d	完形	•	6.0	19.1	2.1	378	
	•	-15	•	打製石斧	楔形	b	•	•	14.3	3.3	5.8	2.9	298
•	-16	•	•	短筒形	a	頭部欠	安山岩	(9.0)	4.4	0.9	(70)		
•	-18	•	磨石			完形	•	10.2	7.7	4.6	520		
•	-17	•	敲打器		b	•	砂岩	6.2	4.4	(4.2)	200		
•	-19	•	横刃石器		a	•	硬砂岩	11.3	5.0	0.7	55		
•	-20	•	磨製石斧	定角		半割れ	緑泥岩	10.8	3.0	1.5	(85)		
•	208-21	•	打製石斧	楔形	b	頭部欠	硬砂岩	(10.9)	7.2	2.0	(210)		
•	211-22	•	•	短筒形	d	完形	•	12.2	3.5	4.6	2.2	(175)	
•	-23	•	石皿			•	花崗岩	33.0	21.0	5.0	•		
•	-24	•	磨き石		d	•	緑泥岩	10.0	9.3	5.0	530		

出土地	採回番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量		
土壌105	212-26		打製石斧	楔形	b	完形	硬砂岩	17.7	4.3	8.0	3.2	505	
◇	211-25		◇	◇	d	◇	火山岩	15.9	3.0	7.6	1.2	130	
土壌112	-27		◇	短冊形	b	◇	硬砂岩	10.4	4.0	5.5	1.7	120	
◇	212-28		◇	◇	◇	◇	◇	13.4	3.6	4.3	1.6	100	
◇	-29		◇	◇	d	◇	緑泥岩	13.3	4.0	4.5	2.7	320	
土壌125			◇	◇	b	頭部欠	硬砂岩	(9.0)	4.5	1.1	(80)	片断つてある	
◇			◇	◇	◇	◇	(7.3)	4.0	1.1	(50)			
◇			磨製石斧	乳歯状石斧		刃部欠	緑泥岩	(12.6)	4.3	1.8	(200)		
◇	212-30		打製石斧	短冊形	d	完形	硬砂岩	12.0	4.0	4.5	1.7	150	
◇	-31		磨石	◇		◇	花崗岩	7.2	5.6	4.7	290		
◇			打製石斧	短冊形		頭部欠	硬砂岩	(7.3)	4.0	1.4	(50)		
◇	-32		横刃石器	◇	a	◇	◇	11.0	7.8	1.7	165		
土壌131	213-33		打製石斧	短冊形	d	完形	砂岩	12.9	2.5	3.7	2.5	65	
◇	-34		磨石	◇		◇	◇	5.0	4.6	3.7	115		
土壌156	-35		敲打器	◇	b	破片	緑泥岩	8.0	5.1	(2.5)	(180)		
土壌173	-36		磨石	◇	c	完形	硬砂岩	12.6	5.4	3.6	380		
◇	-37		横刃石器	◇	◇	◇	◇	4.9	4.0	1.0	28		
土壌219	-38		特殊敲打器	◇	b	◇	緑泥岩	5.2	5.0	2.0	75		
◇	-39		磨石	◇	◇	◇	硬砂岩	9.2	3.2	2.3	95		
◇	214-40		打製石斧	短冊形	◇	頭部割れ	緑泥片岩	13.9	3.9	1.3	(110)		
◇			◇	◇	d	胴のみ	(12.1)	3.9	1.2	(125)			
土壌224	214-41		石皿	◇		◇	花崗岩						
土壌240			打製石斧	短冊形	b	頭部欠	頁岩	(9.8)	3.8	1.1	(60)		
土壌256	214-42		横刃石器	◇	a	◇	硬砂岩	6.0	7.5	2.0	(125)		
土壌257			打製石斧	短冊形	d	胴のみ	緑泥片岩	(7.7)	(4.2)	0.9	(90)		
◇			◇	楔形	b	刃部欠	硬砂岩	(12.7)	3.8	2.2	(220)		
◇			◇	短冊形	◇	頭部欠	緑泥片岩	(9.5)	3.7	1.1	(60)		
土壌267	214-43		磨製石斧	定角	◇	刃部欠	(11.1)	3.5	4.7	2.1	(220)		
土壌275			打製石斧	短冊形	d	◇	緑泥岩	(10.6)	4.4	1.3	(90)		
◇	214-44		横刃石器	◇	a	◇	硬砂岩	10.3	5.2	1.3	100		
◇			打製石斧	短冊形	b	刃部欠	(8.6)	3.8	1.3	(70)			
◇			◇	◇	d	◇	砂岩	(11.2)	3.3	1.2	(105)		
土壌290	214-45		◇	◇	c	完形	硬砂岩	12.3	4.8	5.0	1.3	150	
◇			◇	◇	d	胴のみ	(8.2)	5.0	0.9	(50)			
土壌303	201-46		◇	◇	b	刃一部欠	◇	13.7	3.8	4.8	2.3	(246)	
◇	-47		◇	◇	◇	完形	◇	12.1	3.5	4.1	1.3	110	

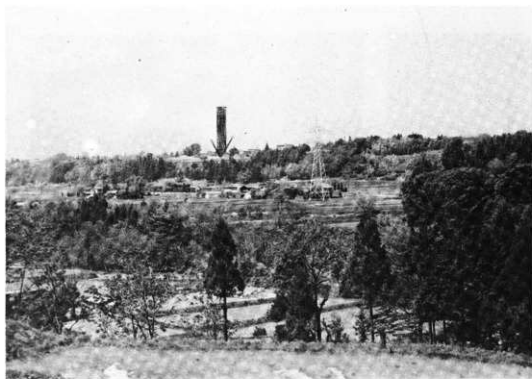
第IV章 おわりに

発掘前予想した以上に大きな成果を挙げて調査を終えることができ、また報告書が刊行されるに至り大変嬉しく思うと同時に思うことの、考えることの半分も書けずに終わったことを残念に思います。限られた日数故、資料報告という形で報告書をまとめてみましたが、今回提起された問題は非常に大きな、また多くの問題があります。

今後の課題として真剣に取り組まねばと考えております。

発掘調査から整理作業の間多くの皆さまからご教示、ご指導いただきましたことに対し心から感謝申し上げます。

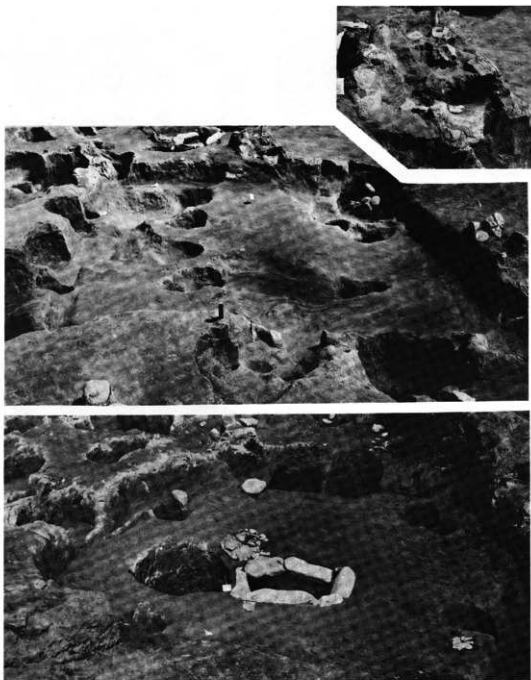
圖 版



図版1 原垣外遺跡遠景（上は南東より、下は東より）



図版2 原垣外遺跡遺構全景（上は南より、下は西より）



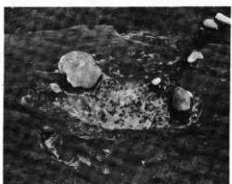
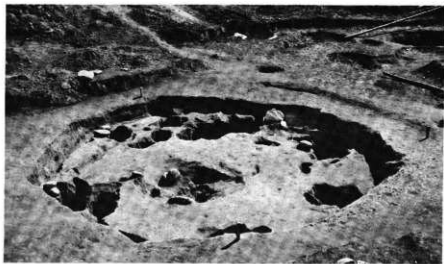
図版3 第14・15号住居址（上は第14号住居址(西より)、右下同竈 下は第15号住居址(南より)）



図版4 第16・17・18、第22・26号住居址（上左は第17号、上右は18号、下は第22号住）



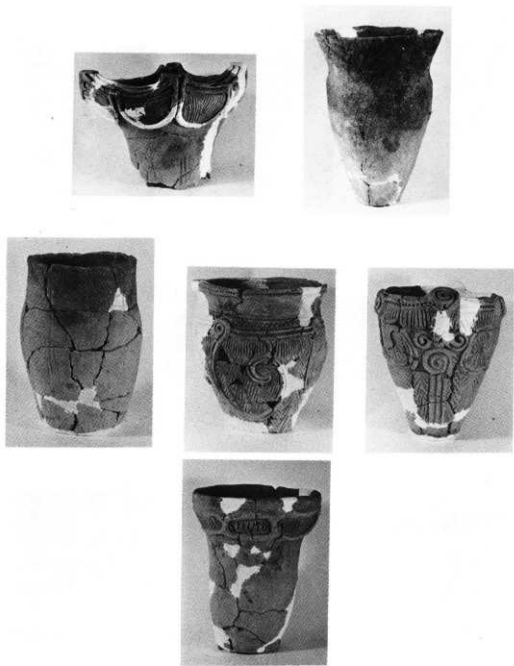
図版5 第22・23号住居址（上は第17号住（北より）中は同埋竈、下は第23号住）



图版 6 第25号住居址



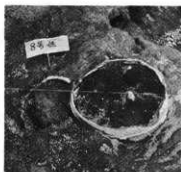
図版7 第25号住居出土土器



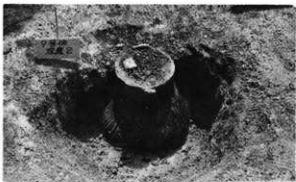
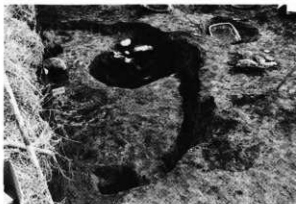
图版 8 第25·26号住居址出土土器（上、中段25号、下段26号）



図版9 第1・3・4・6号住居址(西より)



図版10 第1号・2号・8号住居址（上左は1号住居、上右は2号住、中・下段は8号住）



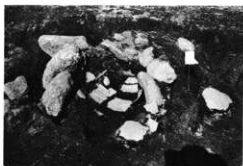
图版11 第9号住居址埋藏



图版12 第11号·12号住居址（上左11号炉、上右12号炉、下段12号住）



図版13 第19号住居址と出土土器



图版14 第20号·27号住居址（上段20号、中·下段27号住居址）